第17回キャリア教育
優良教育委員会、学校及びPTA団体等
文部科学大臣表彰

文　部　科　学　省

別紙３－１

第１７回キャリア教育優良教育委員会、学校及びＰＴＡ団体等の取組内容（推薦理由）

― 目　次 －

＜北海道＞
江別市立江陽中学校 …… １
＜青森県＞
弘前市立船沢小学校 …… ２
青森県立大湊高等学校 …… ３
＜岩手県＞
久慈市教育委員会 …… ４
紫波町立日詰小学校 …… ５
岩手町立川口中学校 …… ６
岩手県立葛巻高等学校 …… ７
＜宮城県＞
名取市立第二中学校 …… ８
宮城県白石高等学校 …… １０
＜秋田県＞
羽後町教育委員会 …… １３
男鹿市立男鹿南中学校 …… １４
秋田県立新屋高等学校 …… １５
秋田県立大曲支援学校 …… １６
＜山形県＞
村山市立葉山中学校 …… １７
新庄市立新庄中学校 …… １８
山形県立遊佐高等学校 …… ２０
＜茨城県＞
古河市立中央小学校 …… ２１
大洗町立大洗小学校 …… ２２
県立石岡第二高等学校 …… ２３
＜群馬県＞
千代田町立東小学校 …… ２４
群馬県立伊勢崎清明高等学校 …… ２５
群馬県立吾妻特別支援学校 …… ２６
＜埼玉県＞
蓮田市立平野小学校 …… ２７
蓮田市立黒浜西中学校 …… ２８
＜千葉県＞
習志野市立第一中学校 …… ２９
千葉県立木更津東高等学校 …… ３０
＜東京都＞
八王子市教育委員会 …… ３１
練馬区立大泉北小学校 …… ３２
帝京大学小学校 …… ３３
足立区立第十二中学校 …… ３４
桜丘中学・高等学校 …… ３５
東京都立葛飾商業高等学校 …… ３６
東京都立王子特別支援学校 …… ３７
＜神奈川県＞
神奈川県立茅ケ崎西浜高等学校 …… ３８
＜新潟県＞
三条市立第二中学校 …… ３９
新発田市立東中学校 …… ４０
新潟県立白根高等学校 …… ４１
＜富山県＞
魚津市立道下小学校 …… ４２
高岡市立中田中学校 …… ４３
富山県立石動高等学校 …… ４４
＜石川県＞
金沢市立工業高等学校 …… ４５
＜福井県＞
高浜町立高浜中学校 …… ４６
福井県立若狭東高等学校 …… ４７
福井県立福井東特別支援学校 …… ４８
＜山梨県＞
山梨県立青洲高等学校 …… ４９
＜長野県＞
大町市立美麻小中学校 …… ５０
長野県上田千曲高等学校 …… ５１
＜岐阜県＞
岐阜市立陽南中学校 …… ５２
養老町立東部中学校 …… ５３
＜静岡県＞
静岡県立藤枝北高等学校 …… ５４
静岡県立御殿場南高等学校 …… ５５
＜愛知県＞
稲沢市教育委員会 …… ５６
豊田市立稲武小学校 …… ５７
弥富市立弥富北中学校 …… ５８
＜三重県＞
四日市市立三重平中学校 …… ５９
三重県立四日市農芸高等学校 …… ６０
三重県立松阪あゆみ特別支援学校 …… ６１
＜滋賀県＞
高島市立本庄小学校 …… ６２
滋賀県立信楽高等学校 …… ６３

＜北海道＞（種別：学校）　江別市立江陽中学校

取 組 概 要

本校においては、生徒とＰＴＡとの行事「とうきび販売」を実施して今年度で35年目となる。令和４年度からは、中学第１学年のキャリア教育に位置付け、総合的な学習の時間において、勤労体験を通して、生徒の勤労観を養い、自己教育力の育成を図ることをねらいに「働く」ことについて学習を深めている。

とうきび販売が始まったきっかけは、昭和60年に、地元農家が生産しているとうきびを生徒が収穫・販売し、その収益を部活動に役立てるというＰＴＡ活動が発端であった。時代や状況の変化に応じて協力農場の変更、実施方法の改善を行いながら、活動を継続している。

１　地元企業である「野村ファーム北海道株式会社」の協力を得て、３つの取組を行っている。

（１）　生徒による農場見学や除草作業体験、働く人（農場の方）へのインタビュー等を通して、働く意義や苦労、素晴らしさを知る。

（２）　生徒が農場でとうきびを収穫し、中学校の駐車場で地域住民に販売するといった勤労体験を行う。ＰＴＡや地元で農業を営む方、ＰＴＡＯＢ等地域と協働し、とうきびの収穫、販売所の設営、とうきびの選別や袋詰め、お客さんとの商品と代金のやり取り、誘導等を行う。新聞や学校ＨＰを通して、販売の日時を地域住民に周知している。ＰＴＡによる野菜販売も併せて行う。

（３）　野村ホールディングスによる「Ｎｏｍｕｒａビジネス・チャレンジ」を活用し、ビジネスについてのワークショップを行い、学習のまとめを行う。生徒が自ら課題を発見し、他者と協働しながら新しい価値を創造する力を育む。昨年度から始まり、今年度で２回目となる。

２　教科等横断的な学びとの関連

（１）　中学校第１学年及び中学校第３学年家庭科での取組

６次産業や地産地消の視点から、野村ファーム北海道株式会社の農場で収穫した野菜（とうきびやかぼちゃ、じゃがいも等）を加工・販売するためのアイデアを構想する。

（２）　中学校第３学年社会科での取組

今年度から「Ｎｏｍｕｒａビジネス・チャレンジ」を社会科公民「私たちの暮らしと経済」の学習と関連付けながら取組を進める。

＜青森県＞（種別：学校）　　弘前市立船沢小学校

取 組 概 要

総合的な学習の時間や特別活動において、３年生以上の児童がりんご栽培を体験することを通して、りんごに関連する様々な職業に必要な資質・能力を段階的に育んでいる。なお、指導に当たっては、地域と連携しながら進め、組織的に取り組んでいる。

以上のことから、りんご栽培の体験を中心に地域の基幹産業を学ぶことで、地域に根差した児童のキャリア形成を図る取組となっている。

【具体的な取組】

児童に身に付けさせたい能力や態度について、①地域（地域に親しむ、地域を見つめなおす、地域を考える）②学び（課題を見付ける、追究する、まとめる）③自分（自分を知る、自分を見つめ直す、生き方を考える）の３つの観点を設定し、総合的な学習の時間や特別活動と関わらせてキャリア教育を推進している。

（活動内容）

○ 観察（花が咲く前の様子、花芽の観察、花の観察）
○ 実すぐり
○ 観察（実の大きさの変化）
○ 着色・葉とり
○ ふじ収穫・選果
○ 販売体験準備
○ 出荷・販売体験（箱詰め、市場見学、競り体験）
○ 加工産業の学習

（実施の概要）

- 総合的な学習の時間や特別活動において、校地内に所有するりんごの栽培及び販売までの流れを体験し、船沢りんごのよさをアピールする活動を通して、ふるさと船沢に対する誇りや愛着の気持ちを育てた。
- 校地内に所有するりんごの木６本（ふじ、ひろさきふじ、つがる、金星、アルプス乙女）
- ＪＡやお世話担当の保護者への協力を依頼し、役割を分担しながら、地域の願いを実現する社会に開かれた教育課程を推進した。

（成果）

- りんごを栽培するだけでなく、実際に販売体験をすることによって、船沢のりんご及びふるさと船沢に対する誇りと愛着をもつことができた。
- りんごについての学習やりんごの食べ比べを通して、さらにおいしいりんごを作るために工夫していることなどを理解することができた。また、地域の企業に協力いただき、りんごジュースの飲み比べを行い、りんごを加工した産業についても理解を深めることができた。

＜青森県＞（種別：学校）　青森県立大湊高等学校

取 組 概 要

１．概要

当該校は、目指す学校像（スクール・ミッション）を「総合学科の特長を生かし、生徒一人一人の興味・関心や進路志望に応じたきめ細かな教育活動及び自己の在り方・生き方を考察させるキャリア教育を通して、個性を生かしながら社会貢献に取り組む態度を養うとともに、外部人材と連携した多様な学びや部活動を推進し、主体性と他者を尊重する心を育み、情操豊かで社会の発展を担う人財を育成します。」としている。

このミッション達成のため、キャリア教育を担当する分掌「キャリアデザイン部」が中心となって「外まなび」、「下北 BOUSAI ネットワーク」の活動に取り組んでいる。この二つの取り組みがキャリア教育を活性化させ、生徒の豊かなキャリア形成に大きな効果を生み出している。

２．主な取組について

（１）　「外まなび」

学校外における生徒の自主的な学びを「外まなび」と称して、「高校生スキルアッププログラム」（以下スキルアップ）を活用し、生徒は自分で取り組むことができる学校外の活動に積極的に参加している。スキルアップとは、講演会、研修会、自由課題研究、映像教材の視聴、ボランティアなど、学校外学修を青森県教育委員会が単位として認めるプログラムである。一定の単位を修得すると交付される証書（奨励証：20 単位、認定証：35 単位）を目標とすることにより、生徒は学校外学修に自主的に参加し、「出来ることを、出来るときに、無理なく、楽しく」取り組んでいる。スキルアップで生徒の参加が多い活動は、①ボランティア活動、②下北 BOUSAI ネットワーク事業、③研修会・講習会である。特徴として、１学期は２・３年次の生徒が積極的に取り組んでおり、２学期からは１年次の生徒が「自分の視野を広げる貴重な体験」及び「進路目標達成の武器」として取り組むようになり、一度参加した生徒は次々と参加する傾向にある。生徒に必要な「きっかけ」づくりをすることで、参加のハードルが下がると友人も巻き込んで、「参加の輪」を広げている。その結果、令和５年度のスキルアップ案内は 54 件、参加生徒は延べ約 400 人となっている。

（２）　「下北 BOUSAI ネットワーク」

下北 BOUSAI ネットワークは、下北地区にある県立学校５校からなるネットワークである。ネットワークは緩やかな連携を目指しており、各校が「出来ることを出来るときに、無理せず、楽しく」というスタンスで、それぞれが防災に取り組んでいる。また、各校の取組について情報共有をし、そこで生まれた教材や取組は、ネットワーク全体の共有財産としている。また、防災は地域全体で取り組むべきという考えが基本にあり、県外研修や報告会等にも合同で取り組んでおり、地元の自治体・消防署・防災士会や三菱みらい育成財団、地域開発研究所から協力・支援を得ている。

＜岩手県＞（種別：教育委員会）　　久慈市教育委員会

取 組 概 要

全小・中学校において、教育の基本方針にキャリア教育を位置付け、久慈市や地域の特色を活かしたキャリア教育を実施している。平成27年から久慈市役所企業立地課と久慈市教育委員会が連携して「久慈市キャリア教育推進協議会」を設置し、市内の各企業及び事業所と連携したキャリア教育事業を推進している。構成員は下記の通り。

１　会長　　企業立地港湾部長
２　副会長　教育委員会教育部長
３　委員　　ア　政策推進課長
　　イ　学校教育課長
　　ウ　企業立地課長
４　事務局　ア　企業立地港湾部企業立地課員４名
　　イ　NPO法人やませデザイン会議事務局員２名

【活動内容】

１　職業合同講演会「キャリアオーケストラ」
　中学校第２学年を対象として、企業及び事業所（３１社）による説明ブースを設け、 中学生が直接「働く大人」から学び、地域の産業や仕事を知り、働くことや社会の関わりについて考える学習機会を設定している。

２　キャリア教育を進めるための出前授業・社会体験ハンドブック（事業者用）の作成
　キャリア教育に係る体験学習を充実させるため、事業所向けに「出前授業」、「社会体験」がより効果的に実施できるよう作成している。

３　社会体験WEEK
　職業合同講演会を通して醸成された興味や関心をもとに、中学２年生の（職場体験３日間）を実施している。

４　久慈地域中学校キャリア教育関連事業による職員研修の実施
　各中学校のキャリア教育担当者に向け、久慈市キャリア教育事業の計画について周知を図るとともに、外部講師（株式会社キャリアリンク）を招聘してキャリア教育の意義や事前・事後学習のあり方、教育と社会の関わり方について学ぶ研修等を設定している。

５　キャリア教育推進連携シンポジウムの開催
　久慈地域キャリア教育推進研究会と久慈市キャリア教育推進協議会で主催し、キャリア教育の意義の普及・啓発及び推進のため２月に開催している。令和５年度は、中学生による事例発表や意見交換（学校・事業所・行政）を実施した。

＜岩手県＞（種別：学校）　紫波町立日詰小学校

取 組 概 要

- 児童主体で150周年記念事業を企画、運営、実施
  児童会執行部や各委員会の普段の活動から自治意識を醸成し、主体者となって参画し、児童会執行部主催の「みんなの夢灯り」、ボランティア自治会による「公認キャラクター」の設定など数々の大きな行事やイベントを成功させた。
- 「キャリア・パスポート」による自己評価と他者評価、学校SSTによる人権意識の向上
  個においては、岩手の目指す「総合生活力」の育成を「キャリア・パスポート」や人権教育などで培っている。
- 紫波町長の職業観を聞く会→日詰商店街職場体験→オガールプロジェクト体験学習
  ６年生が「きく」「する」「しる」のつながりを意識し体験学習を実施している。
- 県立紫波総合高校との共同防災学習、コミュニティナースについて畑で学ぶ、紫波新聞に子ども記者として連載など他校種や地域・産業界と連携・協力している。
- キャリア教育、いわての復興教育、スタートカリキュラムなどと合わせた地域学習の開発
  1～６年までの縦軸と教科等と関連付けた横軸と体験活動をつなげたカリキュラム編制を作成し、実施している。
- 日詰商店街ハロウィーンイベントの企画・準備・製作活動の参画
  ６年生が「ハロウィーンジャック」と名づけ、日詰商店街のハロウィンイベントの企画・制作(フォトパネル、オリエンテーションクイズ、消しゴムはんこ、飾り付けなど)を実施している。
- 平井邸の歴史と未来への展望の学習による平井邸のイベントへの参画
  ５年生が杉玉を作り、日詰商店街くらみちフェスタの時に平井邸に飾りお披露目する。同じくくらみちフェスタで、平井邸では、防災食レシピなどを配付し模擬店を担当する。また、日詰商店街と協働し、防災カレーを振る舞う。
- 職場体験等を生かした卒業研究発表会を実施
  ６年生が、自己の未来や地域の未来をテーマに個人研究を進め、地域を対象に卒業研究発表会を開催している。
- 日詰の魅力を発信する取組
  ６年生が、他地域（仙台）で日詰の魅力をＰＲし、アンケート調査を実施。その結果を地域へ報告した。また４年生が、かじ町さんさの親子体験学習と地域イベントに参加し、地元への理解や愛着を育んだ。

＜岩手県＞（種別：学校）　岩手町立川口中学校

取 組 概 要

各学年の学習テーマを設け、学習フィールドを徐々に広げ、岩手町の未来について考えることを通して、岩手のキャリア教育が目指す「総合生活力」や「人生設計力」が培われるよう指導計画を立案している。

１学年「地域を知る：岩手町」
２学年「社会を知る：岩手県」
３学年「未来を考える」：日本や世界と岩手町

- 学習の成果と課題を確認する場を設け、検証改善を実施している。
  教育活動の精選、教科等横断的な学習の推進、地域との連携などカリキュラムマネジメントの視点から、検証改善を図っている。また学校教育目標を基に、達成状況を学期ごとに振り返り、指導の改善に努めている。
- 事前・事後指導を含めた職場見学・職場体験の充実を図っている。
  １学年：ハッピーヒルファーム（岩手町の第一次産業）での職場見学・酪農体験
  ２学年：岩手町の産業（町内６事業所）に特化した職場体験
  ３学年：岩手町のまちづくりの１つの柱である「アート」についての理解を深めることを目的に、岩手町在住の彫刻家のスタジオ見学・彫刻体験学習の実施
- 企業や行政、他校との連携・協力を図っている。
  １学年：岩手町役場から講師を招き、SDGs に係る研修、SDGs 宣言作成
  ２学年：町内企業と連携した職場体験学習、岩泉町（被災地）での職場見学
  ３学年：企画商工課から講師を招き、「岩手町総合計画」についての講義。岩手町の良さを表現した 15 秒のふるさと CM を作成。今年度は同様の取組を近隣の中学校と合同で取り組んでいる。令和 10 年度の町内３中学校の統合に向け、共通で取り組めるカリキュラム開発を進めている。
- 地域の企業と連携した事業の展開
  町内の企業や行政と協働して、岩手町の魅力を伝えるポスターや動画を作成した。また、次年度は、２年生段階で職場体験を実施した企業と３年時も連携し、新商品の開発や事業アイディアの検討、企業を PR するポスターや動画などの作成、販売体験、ふるさと納税の新たな返礼品の開発などを通して、地域課題の解決に取り組む学習を計画している。
- 冒頭で示した学習を通して、「①岩手町の魅力や良さ・特色、課題に新たに気づいたり再認識したりするとともに、②地域に貢献しようとする態度や地域への愛着・誇り（シビックプライド）を醸成する」ことをねらいとして取組を進めている（※シビックプライドの醸成は岩手町の目標）。
- 各学年の年間計画を共有するとともに、各学年段階で育成を目指す資質・能力を明確にして取組を進めている。また、中学校と協働してくださる地域人材や企業の一覧を作成し、教員が入れ替わっても継続してキャリア教育に取り組めるよう、資料を整理している。

＜岩手県＞（種別：学校）　岩手県立葛巻高等学校

取 組 概 要

葛巻高校では、平成14年度より、葛巻町の３つの中学校と「葛巻地域連携型中高一貫教育」を推進し、地域に根差した学びの下で、「心豊かで礼節をわきまえ、学習と生活における基礎基本を身につけ、自ら学び、自ら考える力を養い、広く社会に貢献できる生徒の育成」を学校教育目標に、「主体的に進路を選択し実現へ向けて努力する態度」の育成に取り組んでいる。

また、スクールポリシーを柱に、教職員の専門性や知識を活かし地域の魅力探究に加え、アカデミックな内容も加えた、生徒の探究活動「葛高ミライノカタチプロジェクト」に力を入れている。

平成27年度からは葛巻町で「くずまき山村留学」を実施しており、全国から生徒が入学することで、多様な考えを共有する機会を得ている。

【主な取組】

１．葛巻町との連携

葛巻高校では葛巻町との様々な連携によりキャリア教育を推進している。くずまき山村留学での県外生募集や、高校敷地内にある葛巻町学習塾による学びの保障などがある。また、葛巻地域連携型中高一貫教育は、中高の６年間を通じた系統的、継続的指導を実施し、生徒の個性の伸張、学力の向上を図るとともに、郷土に対する理解を深め、地域の発展に貢献する人材を育成することを目的としている。特にも進路指導部会では進路講演会を中高合同で行っており、継続したキャリア教育の一役を担っている。

２．インターンシップ

葛巻町と連携し、町で力を入れている地域産業を中心に、生徒自身が企業で実際に活動することを通して、地域への関わりを深めるとともに、望ましい職業観、勤労観を培い、将来地域に貢献しようとする態度の育成を目指したインターンシップを実施している。２年生の就職希望者を対象としているが、加えて３年生の教育系進学希望者には小学校でのインターンシップを実施している。

３．「葛高ミライノカタチプロジェクト」

中山間地域の葛巻町だからこそ触れることのできる自然、地理・歴史、産業（酪農業や林業、ワイン、風力発電等）、行政、起業家等の人材すべてを教育的資源と捉え、教科横断的に、思考力、判断力、表現力等を養う教育計画としている。葛巻町の特長や抱える問題点を知り、地域・町の課題の解決手段や方策について探究し、調べ学習を踏まえたフィールドワークや他校とのポスターセッションを実施することで目標達成に向けて努力する力や自分の考えを発信する力を養っている。

４．教科における指導

商業科目を選択可能とし、実学を交えたキャリア教育に取り組んでいる。町民まつりでのおでってマーケットの開催、商業高校と連携した販売実習、県内企業と連携した商品開発及び販売活動等を通じた、教室での学びと体験的な学びの往還により、社会との関わりを理解し、社会人・職業人として自立するための能力を育成している。

【学校ホームページ】https://www2.iwate-ed.jp/kuz-h/

【学校note】https://kuz-hs.note.jp/

＜宮城県＞（種別：学校）　名取市立第二中学校

取 組 概 要

【概要】

本県では、社会の中で自分が果たすべき役割を考え、将来の社会人としてのよりよい生き方を主体的に求めさせていく志教育を展開している。名取市立第二中学校では、志教育の目標を「学校生活や地域の中で自分のよさに気付き、自信をもって自己の役割や責任を果たそうとする心を育てる。奉仕の心をもち、社会に貢献する人間を育てる。」として各教育活動に取り組んでいる。１学年での「仕事博覧会」、２学年、３学年での「職業体験学習」を軸として、各学年で職業に関する学習を系統的に取り入れ、主体的な学びに向かう態度を培う学習活動やキャリア教育の充実を図ることにより、将来に向けて自己実現を目指す生徒の育成を目的として、様々な活動を工夫して実施している。

体験活動に関しては、地域学校協働本部と連携することで教職員の負担感の軽減に、２学年の仙台での体験実習は、感染症対策が必要になった場合でも実施が可能となるような工夫につながる活動となっている。

【具体の取組】

学校と地域、企業が一体となって次代を担う生徒を育成するため、地域学校協働本部との連携による学校教育への地域人材の活用を積極的に行っている。第二中学校の地域学校協働本部は、名取市が市内の全ての学校に整備する以前から活動し、学校との協力体制を構築しており、地域人材・企業との交渉等、教職員の負担感軽減の面でも効果があった。

（１）体験活動について

①　仕事博覧会

１学年では、地域学校協働本部、地域コーディネーターと連携し、名取市商工会の協力を得て、平成29年度から継続して取り組んでおり、例年30程度の事業所が参加している。令和５年度は27の事業所が参加し、教室等に作ったブースで、生徒に向けた事業内容の説明や体験活動を行った。

生徒は、事前学習として職業調べに取り組むことで自分事として意識を高め、当日は、自由に事業所のブースをまわり、事業所の方々と関わりながら仕事と働くことについて学ぶことができた。事前学習で得た知識をもとに事業所の方と対話することで、調べ学習だけでは得られない情報を知ることができた。働くことの大変さや、やりがいを感じることができた。事後の活動では、自らの学びを振り返るとともに学んできたことを共有することで、働くことに対する自分の考えを深めることができた。

②　職業体験学習

２学年では、仕事博覧会で深めた職業についての理解をもとに、働くために身に付けておくべきことや、職業に就く過程を学ぶため、仙台市の専門学校（８校程度）に分かれて実習を行った。専門学校での実習とすることで、多くの企業等に依頼して職場体験を行う場合よりも、感染症対策が必要となった場合の変更・中止のリスクを軽減することができ、継続的な活動が可能となった。

３学年では、東京方面の修学旅行で、自分たちの興味・関心をもとにテーマを決めて様々な企業の見学・体験を行った。地元の職業から仙台、東京の職業へと視点を広げて、毎年、実際に職業に触れる機会を確保するとともに、３年間のキャリア発達を見通した活動を行った。

③　農業体験学習

２学年の取組。県内他市町村の農家等での家庭的な交流を通して、第１次産業である農業を体験することで、働くこと、生きることについて学びを深めた。

（２）小学校との連携について

中学校区内の２小学校で、小・中学校の教員による相互の授業参観と情報交換等を行うことで、教員が互いの児童・生徒への理解を深めるとともに、系統的なキャリア教育を進めた。

また、小学校６学年を対象とした、中学校の授業参観、部活動見学を行うことで、中学校生活への理解を深めるとともに中学校進学の期待を高めた。

（３）地域学校協働本部との連携について

①　あいさつ運動

地域の方が中学校区内の通学路で見守りを行いながら、あいさつ運動を行った。生徒と地域との交流の基盤づくりにつながった。

②　仕事博覧会での連携

学校、地域との窓口として校長、教頭、主幹教諭との連絡を密にし、学校の思いを事業所に伝えることで、会の目的の達成に努めた。

＜宮城県＞（種別：学校）　宮城県白石高等学校

取 組 概 要

【概要】

宮城県白石高等学校は、進学型単位制の普通科と、本県で唯一の５年一貫教育を行う看護科を併設している。宮城県白石高等学校では、心身ともに健全で、地域社会及び国家に貢献するとともに、グローバルな視点に立って地域社会をリードできる有為な人材を育成することを目標に教育活動を行っている。これを受けて、総合的な探究の時間では、国境を越えた地球規模（グローバル）の視点と、地域（ローカル）の視点の双方から様々な問題を捉えていこうとするグローカルな視点に立って、異年齢・校内外の人々との関り、学校や社会における自己の役割を果たすことで、自らの在り方、生き方を求める姿勢、及び主体的に学び続ける姿勢を育成することを目標としている。

１、２年次の総合的な探究の時間を中心に、協働的な活動及びフィールドワークを伴う学びを重視し、様々な教育活動を通じ、基礎的・汎用的能力の育成を学校全体で取り組んでいる。宮城県白石高等学校では、自己の興味関心に基づいて調べ、課題を設定し、探究のサイクルを何度も回すことで、最終的に課題の解決に向けた活動を実施している。１年次後半から２年次にかけて取り組む準備として、まずは１年次前半に自己探究を行っている。

３年次では、１、２年次で課題の内容や課題解決のプロセスを各自が内省的に振り返り、自己の進路を見つめたり、自分の強みを発見したりする活動を行っている。

【具体の取組】

１.「地域（国内）的視点」と「国際的視点」を意識した取組

「地域社会をリードする人材の育成」を目指して、地元の方々との交流の機会を数多く設けている。地元の方々と実際に関わることにより、自己のキャリア形成及び地元の課題を自分事として捉える姿勢の醸成を図っている。また、「グローバルな視点を持った人材の育成」を実践するために、SDGs を活用している。SDGs を国際的な問題に目を向けるためのひとつのきっかけとしたり、地域の課題と国際的な課題の関係性・共通部分を考える際のツールとしたりといった活用を行っている。

(ア)外部講演会（１、２年次）

年度の始めに外部講師を招いて講演を実施している。講師としては、社会課題の解決に向けて活躍されている大学の先生や企業の方を選定している。内容については事前に相談をし、「講師が取り組んでいる社会課題」、「SDGs との関わり」、「高校生が探究を行う意義」などについてお話しいただいている。

(イ)自己探究（１年次前半）

１年次の４～６月に行っている自己探究では、名刺づくりの活動等を通して自分らしさや興味関心、将来像について考えを深め、グループごとに大学、地域の行政機関、地域の企業等の中から選択した訪問先を訪問し、社会人インタビューを行っている。その訪問先は約６０カ所にのぼる。３、４人のグループで実施することで訪問先の対応者と全員が直接話をすることができ、生徒の気づきや視野の広がりを得ることにつながっている。

(ウ)フィールドワークを通じてキャリア形成を支援（１、２年次）

年間を通して、企業の見学、農業体験、インタビュー、実地調査、イベント参加、ワークショップへの参加など、校外での活動に取り組んでいる。実施に際しては、教員があらかじめ準備をして活動するのではなく、自分たちが進める中で必要に応じて訪問先や調査場所を選定し、依頼・調査・活動を行う形で実施している。

海洋プラスチックゴミ問題を研究するグループでは、笹川平和記念財団からの助成を受け、亘理町にある荒浜海岸において、現地調査やゴミ箱設置とその成果の検証に取り組んだ。他県の市町村で行われている取組について担当者にインタビューを行ったり、設置するゴミ箱のデザインについて大学の先生にアドバイスをいただいたり、亘理町役場の協力を得てゴミを回収、分析し、海洋ゴミを減らすための活動を行った。

(エ)イベント等の実施（１、２年次）

・白高ササフェス

白石市が宮城の銘柄米であるササニシキの復活を課題として挙げていることを受け、ライフアグリゼミのグループがササニシキ復活を目標に活動を行い、令和元年度よりこれまで５回のササニシキをPRするイベント『白高ササフェス』を実施している。地元の農家、農産物直売所（おもしろいし市場）、聖和短期大学の協力を受け、白石産米を使った肉めし、ジェラート、菓子等を企画・開発し、販売した。

・カフェ　ルナ

白石市の駅前商店街の活性化を目標とする貧困・持続可能ゼミのグループでは、COOPトリプルカードみやぎスマイル基金の助成を受け、高校生が駅前商店街に滞在して地域の方々とコミュニケーションできる場所として、「カフェ　ルナ」を企画開店した。ポスターやSNSによる広報を行い、８回の開店で１９１名が来店した。高校生が帰り道に安心して過ごせる場所となり、地域住民と高校生とのコミュニケーションの場とする機会を増やした。

・白フェス

幅広い世代が音楽でつながることにより、白石の活性化していくことを目標とするジェンダー・芸術ゼミのグループが、地域の中学校や音楽団体に出演依頼をし、白石の商業施設で音楽イベントを企画開催した。

・わんこうーめん大会

地元の特産品で白石を活性化することを目標とするライフゼミのグループが、地元企業の協力を得て、白石のクリスマスイベントで実施されるわんこうーめん大会を企画運営した。令和６年度も８月の第２回いぎなり白石フェスで実施した。

・STEP（Shiroishi Highschool Teacher Education Project）

白石市内の子供の学力向上を目指す教育系ゼミのグループが、夏休み、冬休みを利用した白石市内の小中学生対象の学習会を企画し、宮城県白石高等学校で実施した。令和５年度は２回の実施で小中学生約１００名が参加した。

・白川地区夏祭り

地域の廃校利用を研究するツーリズムゼミのグループが、白石市白川地区の協力を得て、廃校となった旧白川中の校舎の活用を企画運営した。

２．協働を意識した取組

同学年の仲間との協働だけでなく、年次を超えた先輩・後輩との協働、地域住民の方々や自治体・企業の方々との協働、大学をはじめとした学術機関との協働といったように、学校の枠にとらわれない幅広い協働的な活動を通して、地域を創生し、国際社会を牽引する人材の育成を図っている。

(オ)学年の枠を超えたゼミ編成

活動のグループを編成する際、学年の枠を超えた１、２年次混成のグループを編成し活動を行っている。異年齢集団での活動を通して、２年次生には活動に対する責任感やリーダーシップの向上を図っている。また、１年次生には、２年次生の取組や熱意を直接感じることで、知識や想いを継承していくことを期待している。

(カ)四者協定の締結（１～３年次）

将来地域社会に貢献する人材を育成するため、白石市、東北財務局、宮城県中小企業家同友会と宮城県白石高等学校で四者連携協定を締結している。地域イベント開催に向けた白石市の支援、東北財務局による「家計管理と資産形成」についての特別授業、宮城県中小企業家同友会の会員の方々による交流会や研究へのアドバイスなど、多方面に渡って支援をいただける体制を築いている。

(キ)合同フィールドワークの実施（１、２年次）

・農業の楽しさを知って白石の良さに気づいてもらうことを目標とするアグリ・ライフゼミのグループは、白石市内の農家と協力し、市内の保育園児を招いて芋掘り体験を実施した。

・白石城周辺に紅葉を植えて観光資源にすることを目標とするツーリズムゼミのグループは、近隣の保育園児と一緒に、地元の庭師の協力を得て、もみじの種拾いを実施した。

・地域活性化について活動するツーリズムゼミのグループが古民家再生に取り組んでいる方の協力を得て、古民家再生を体験する活動を行った。

(ク)発表会の実施（１、２年次）

９月と３月の年に２回、活動発表会を実施している。四者連携協定を締結している白石市、東北財務局、宮城県中小企業家同友会の職員・社員の方々、また大学の先生方や地域のNPOスタッフ、卒業生等を招き、すべての生徒の発表に対してアドバイスをいただいている。令和６年３月に実施した発表会には、四者協定を結んでいる白石市、東北財務局、宮城県中小企業家同友会関係者の他、大学、地元企業、高校などから７０名を超える参加があった。宮城県白石高等学校以外の２高校からも発表参加があり、活動に関する生徒同士の意見交換も活発に行われた。

(ケ)外部大会への出場（１、２年次）

高校生マイプロジェクトアワードのような高校生向けの大会だけでなく、水環境学会や海洋教育フォーラムといった大学生も参加する学会や発表会への参加を積極的に薦めている。活動成果を校外のさまざまな立場の方々に見ていただくことで、活動に対する新たな学びを得るとともに、発表者たちの自己肯定感・自己効力感の向上を図っている。

白石市との協働により梅花藻の保全に関する研究を精力的に継続してきた自然科学部生物班が高校生マイプロジェクトアワードの全国サミットに参加し「協力・協働・協創賞」を受賞した。地域の方々との協働により、生徒の視野を広め深める学びとしてのモデルとなっている。

＜秋田県＞（種別：教育委員会）　　羽後町教育委員会

取 組 概 要

羽後町では、「第６次　羽後町総合発展計画」及び「第２期　羽後町の教育振興に関する基本計画」に「ふるさとに根差したキャリア教育の推進」を掲げ、地域資源を活用した体験的学習の充実を図っている。

以前から、管下の各小・中学校において特色あるキャリア教育が行われてきたが、教育委員会では、少子化や若者の地元離れが進む中で、地域社会の未来を担う人材の育成を喫緊の課題と捉え、これまで以上に地域総掛かりでキャリア教育に取り組む必要があると考えている。そこで、地域の事業所等の業務内容について知るとともに、自分の仕事や役割に誇りをもって働く大人たちの姿からその生き方を学ぶことで、児童生徒が地域の魅力を発見し、将来の夢や目標を育むことができるよう、今年度新たに「羽後町職場体験プロジェクト『みらいわーく』」を開始した。

○「羽後町職場体験プロジェクト『みらいわーく』」について

１　事業のねらい

児童生徒が自身の興味・関心に応じて、町内の事業所や地域活動の現場を訪問し、職業体験やボランティア活動等に参加することで、様々な人々と交流する機会を得るとともに、社会を支える多様な役割や立場について学び、ふるさとで生きる意欲の醸成を目指す。

２　事業の概要

⑴ 対　象　町内の児童生徒（小学校５年生～中学校３年生、羽後高校生）

⑵ 訪問先　主に町内に事業所・活動拠点を置く企業や団体

⑶ 訪問日　長期休業、土曜日、日曜日及び祝日

⑷ 体験実施の流れ

①タブレット、スマートフォンなどから公式ＨＰにアクセス

②体験プログラムを閲覧して興味があるものに参加申込

③体験活動を実施して記録シート「みらいチケット」に内容・感想を記入

④学校に提出後、記録シートは見返せるようにキャリアファイルに保存

３　これまでの成果及び今後の展望について

「自宅の近くにある大きな会社で、何を作っているのか気になった。」「町の図書館が好きで、スタッフの仕事をしてみたいと思った。」「自分の住む地域のお祭りだから貢献したい。」といったように、児童生徒が個々の興味・関心に基づいて参加を申し込み、主体的に体験活動に取り組む姿が見られた。また、保護者が児童生徒と一緒に見学することもあり、家庭を巻き込んだキャリア教育へとつながっている。今後も商工会等との連携を深めるとともに、多様な体験機会を提供することで、地域全体で児童生徒の育成に取り組んでいく。

＜秋田県＞（種別：学校）　男鹿市立男鹿南中学校

取 組 概 要

〇教育課程編成の工夫

教育課程全体に、男鹿の素材に触れたり関わったりする活動を取り入れることにより醸成される「男鹿（oga）のよさ」の実感を基盤に、地元（local）でも世界（global）でも活躍できる力を備える生徒を育む（grow）ことを目指している。ふるさとキャリア教育を「男鹿南ぐろおがる（GLOGAL)」と名付け、様々な活動を展開している。

〇地域・他機関との連携

- ３年生は、昨年から市内の菓子店と一緒に「男鹿の魅力を伝えるお菓子の開発」に取り組んできた。改良を繰り返して商品化し、道の駅での販売イベントを開催した。活動を通して、男鹿の活性化につながったという成就感を味わうことにつなげている。
- 「ぐろおがる講座」を開催するなど、男鹿に関わる人材を招き「キャリアアドバイザー」としての講演や諸体験活動に参画できる機会を設けている。

〇男鹿をテーマとした探究活動の実施（総合的な学習の時間）

（１年生）男鹿の魅力の発信

ナマハゲ行事の継承と魅力を発信するために、受け継いでいる人から意見を聞いたり、ナマハゲ伝導士養成講座を受講し修了検定を受検したりするなど、体験を積み重ねている。昨年度の１年生は、ナマハゲ柴灯まつりにあわせ、男鹿駅前で「おが・トレジャーインフォメーション」を開催し、男鹿の宝をＰＲした。

（２年生）男鹿で働いている人々「おがびとさん」との交流

職場体験先への提言を行うとともに、男鹿で働いている人々の思いや姿勢についてインタビューしている。開発した新商品の発表・販売イベントなど、地域を盛り上げるためのアイディアを、地域の人たちに広める活動を行っている。昨年度の２年生は「ぐろおがるマーケット in winter」を開催し、市内の菓子店と共同開発したお菓子を販売・紹介した。

（３年生）男鹿活性化のための行動

男鹿市職員、地域おこし協力隊、男鹿市に移住した方などとの交流を通して、男鹿のよさや課題をまとめている。昨年度の３年生は「ぐろおがるサミット 2023」を開催し、男鹿の活性化について考えたアイディアを提案した。

＜秋田県＞（種別：学校）　秋田県立新屋高等学校

取 組 概 要

当該校は、令和３年11月に第一期秋田県SDGsパートナーに登録されており、令和５年度には県の事業によるデジタル探究コースが設置されたことを受け、SDGsにデジタル教育、STEAM教育をからめた「新屋高校ＳＳＣ（SDGs×STEAM×Career）プロジェクト」に取り組んでいる。このプロジェクトは主に総合的な探究の時間を軸として、教科等横断的な学びを展開し、アントレプレナーシップ教育の視点で県内外の企業、大学等と連携を行い、「論理的思考力」「提案力」「問題解決能力」を育むことを目指している。以下は、その一例である。

１　ＪＰＸ起業体験プログラム

１年次において各クラスで模擬会社を設立している。模擬会社の設立会、商品開発、販売会、株主総会を通して、経営の基本を学ばせることが目的である。生徒たちが投資家の前で販売する商品についてのプレゼンテーションを行う際には、生徒が投資家からの厳しい意見に落ち込む様子も見られるが、その後は投資家を納得させるためにはどうしたらよいかを主体的に考える姿勢へと変化する。単なる体験で終わらせることなく、「実業の世界」に触れる第一歩として位置付け、合同会社設立という次のステップに繋げることを想定した実効性の高い取組である。

２　合同会社「あらこう」設立

令和６年度には、デジタル探究コースの２年生が「地域や社会を少しでも良くする！」をコンセプトとして合同会社「あらこう」を設立した。１年次のＪＰＸ起業体験プログラムでの学びを土台とし、（株）なんで・なんで　須田代表の協力による「企業内起業」としての実践である。事業内容としては、アメリカザリガニ肥料生産販売や海洋ゴミの有効活用・販売、養蜂ビジネスなど、生徒たちがアイデアを出し合い、主体的に取り組んでいる。これらのアイデアをビジネスのかたちにする過程では、業界のしくみやルールによって、思い描いた通りには進まない経験をすることもある。ビジネスを創出する過程そのものや、思い通りに進められない「つまづき」や「挫折」により「実業の世界」の現実を知ることから、次のアイデアを生み出す力を育て、新たな学びに繋げる教育実践を行っている。

これらの取組の前後で、生徒がどのように変容したのかを図る指標の一つとして「EdvPath（非認知スキルチェックテスト）」を活用している。「自己理解」「社会/他者理解」「セルフマネジメント」「責任ある意思決定」など、多くの項目で数値の上昇が確認されている。失敗を怖れずに挑戦し、その経験を新たな学びに繋げることを意図した当該校の教育実践は、これからの社会を構築する人材育成のモデルであり、今後のさらなる充実が期待される。

＜秋田県＞（種別：学校）　秋田県立大曲支援学校

取 組 概 要

県立大曲支援学校は、積極的に社会参加、職業自立できる児童生徒を目指し、開校以来、地域との関わりを大切にし、「地域が教室」を基盤とした地域に根ざした教育活動と卒業後を見据えたキャリア教育の充実を中核とした教育活動を展開している。

１　勤労観、職業観を育むキャリア教育の実施

- 小学部、中学部、高等部がキャリア教育の視点で共に学び合うことを目的とした学部間の連携を「つながりプラン」と名付け、職業科、生活単元学習、作業学習等における年間指導計画を基にした授業実践を積み重ねている。授業を行う際は、担当者間の事前の打ち合わせにより、ねらいを学部間で共有した上で実施し、児童生徒の勤労観、職業観を小学部段階から育成している。具体的な実践例としては、小学部児童と高等部ビルクリーニング班生徒との朝の合同清掃活動の実施や、中学部・高等部共同で作業学習製品の開発及び作業学習製品販売会の実施等が挙げられる。
- 小学部から高等部まで一貫して地域の役に立ち、感謝される体験を積み重ねている。
  （小学部：地域の方への手作りカレンダーの贈呈、中学部：地域の方とのクリーンアップ活動、高等部：保育園へ出向いての雪像作りと交流、等）
- 中学部段階からの職場見学・体験と高等部段階での主体的な進路選択を促す職場実習の実施等、企業と連携した体験的職業教育を積極的に行っている。高等部では、就労先の企業から要望があった際には、週に一度実習を行う「週一実習」を実施し、生徒の就労に向けた実践的な力を育んでいる。事後学習では自己の学びや成長及び今後の課題を明確にした上で、作業学習等の指導内容や指導方法の改善を図っている。また、進路学習の視点から教育課程を検討する部会を設置し、各学部のキャリア教育の成果及び課題を踏まえた今後の改善案を検討し、各学部の取組に反映させている。

２　生徒主体のアンテナショップの運営

- 高等部の各作業班の代表生徒が事務局として、作業学習製品を取り扱うアンテナショップ（３店舗）の運営に携わっている。チラシや値札作り、売り上げの集計の他、客層や売り上げ等を基とした各店舗への作業学習製品の分配、お客様の声を活かした作業学習製品の改善点の提言等を行っている。

３　企業と共同した新商品の開発体験と販売会の実施

- 中学部の作業学習で栽培・収穫した枝豆を活用し、地元の企業と共同で豆腐とパッケージデザインの開発を行っており、今後、販売会を実施する。

＜山形県＞（種別：学校）　村山市立葉山中学校

取 組 概 要

１．概要

村山市立葉山中学校では、学校全ての教育活動が将来の職業選びにつながることから、「キャリア教育」に力を入れている。

■「21 世紀を主体的に生き抜く力を身につけた生徒の育成」を学校教育目標に掲げ、「未来を生きぬく力」＝「キャリア」であるという共通認識のもと、学年ごとの「キャリア課題」を持ち、調べ学習や体験学習など探究型の深い学びを積極的に取り入れたキャリア教育を推進している。

本校は、全国的にも珍しい「教科教室制」の校舎空間のもと多種多様な教育プログラムが展開できるように新世代型学習空間が創出されており、主体的に学びに向かう生徒を育成する学校である。

■【目指す学校像・生徒像】は「友愛・探求・飛翔」の３つであり、特に「夢（＝将来のキャリア）の広がる学校」に向け、「はやま方式」として、生徒の「かかわる力」、「課題解決力」、「挑戦する力」の実現のために学び続ける生徒の育成を基本の指導テーマとしている。

２．具体的な取組み

⑴【《葉山塾（ようざんじゅく）》とキャリア力としての英語活用力の育成】

《キャリア形成における「モデル学習」と「英語力」の獲得》

○ 各界で活躍している母校出身の先輩や地域人材を講師に招き、話を聞く「キャリア教室」を継続的に開催している。キャリア形成のためのモデル学習（＝コンピテンシーモデル）でもあるこの方法は最も効果的な方法といえる。全国レベルで活躍している先輩等を講師に迎えた授業「葉山塾」は、現在まで７回開催している。また、英語劇の実施・オールイングリッシュデーなどを設け、「英語力」を身に付け、グローバルに活躍できるキャリアを目指している。

⑵【学年のステップを踏んだキャリア教育の実践】

《職業調べから職場体験学習、進路情報獲得へ》

○ 第１学年では、自分の生き方からの進路計画や“親の職業を知る”「調べ学習」、第２学年では、さまざまな職業を学びつつ進路検討のための「職場体験学習」、第３学年では、適切な進路選択に向けた「進路情報の主体的獲得」など、ステップを踏みつつ、キャリアに対する理解を深められるような独自の工夫を行っている。

⑶【「キャリア・パスポート」の積極活用と「年間計画」の設定】

《”キャリアプラン”と”プランニング”を意識した教育展開》

○ キャリア学習で学んだことを「キャリア・パスポート」に蓄積し学びのふり返りを行うと共に、「キャリア」の根幹＝自己管理能力と捉え、「生活記録ノート」を活用するなど「葉山中独自の学校テーマ」と連動した活動（総合的な学習の時間等）と密接に連携し、さまざまな実践活動を行っている。

⑷【生きる源：「食」をとおしたキャリア教育】（食育&職育）

《食育×キャリア教育：～”食”のアクティヴ・キャリア・ラーニング～》

○ 葉山中では、食育にも力を入れており、食育とキャリア教育を組み合わせた特徴的な教育を展開している。中でもより記憶に残る「給食」を通し、さまざまなキャリア（職業）があり、またキャリア人材がいることを学べるように工夫した取り組みを行っている。食育を職業教育（＝職育）・キャリア教育につなげている。

＜山形県＞（種別：学校）　新庄市立新庄中学校

取 組 概 要

１．はじめに

新庄中学校は、昭和22年に開校した「新制中学校」を前身とし、創立77年を迎える歴史ある中学校である。義務教育９年間での子どもたちのより良い成長を目指し、小中一貫教育を推進している。地域貢献を主眼とし、学校の内外で実施している奉仕活動では、小学校や地域と一緒に活動する活動も多く、愛修会（生徒会）の活動と連携しながら自発的な活動を行っている。当該校のキャリア教育は、３年間を見通した全体計画に基づき、特に社会に直結する体験活動を通して、生徒一人ひとりに自己理解及び望ましい勤労観・職業観を深めさせ、将来にわたる自分の生き方について設計させながら、適切かつ主体的に進路選択ができる能力の育成を目指している。令和６年度は、従来の職場体験に代わる「新中ハローワーク」を第２学年で実施している。

２．新中ハローワークのねらい

(1)地域の事業所において働いたり取材したりする活動を通して、将来の職業選択の幅を広げ、地域を知り、地域を支えていこうとする気持ちを高める。

(2)事業所のＰＲ活動に取り組むことを通して、地元の事業所の魅力に気づいたり、働く意義に触れたりしながら、地域や職業、自らの生き方について新たな価値を発見する。

(3)新中ハローワークをきっかけとして事業所とつながりをもち、来年度に実施する予定の「新中まつり」での協働の活動づくりにつなげていく。

３．具体的な取組

(1)新中ハローワークが目指すもの

○リアルな就職活動体験

求人票をもとに生徒自身が希望する事業所を選んでエントリーする。その後エントリーシートを作成し、採用面接を経て仕事体験先が決定する。「働くこと」と真剣に向き合い、自分の言葉で語ることで仕事体験のスタートを切る。

○地域の働き手

仕事体験当日は、地域に貢献する一人の働き手として仕事に取り組むことを通して、地域のために働くことの多様な魅力を見つけていく。

○事業所ＰＲ活動

仕事体験では、働くことだけでなく、事業所や働いている方々のことをよく知ることを目的に取材にも取り組む。その中で、働くことによって人生をどのように豊かにしているのか、地域にどのように貢献しているか等、肌で感じたことを各事業所の魅力として新聞にまとめ発行する。新庄駅ゆめりあに展示し、地域の方々にも配布する。

(2)新中ハローワークの実際

○ハローワーク講座＜６月７日（金）＞・マナー講座＜６月11日（火）＞

ハローワーク講座では、ハローワークの仕組みや働く意義について学び理解した。「働くこと」について考える中で、自身の生き方や職業観を広げることができた。また、マナー講座では、新庄商工会議所による講義演習を通して、マナーや礼法の大切さについて学ぶことができた。

○保護者インタビュー＜６月12日（水）＞・新庄市内フィールドワーク＜６月13日（木）＞

「働くこと」について探究シートを活用して質問を作成し、保護者や地域の方々から体験や経験をもとにした仕事の話を聞くことで、職業観について自分の考えを広げることができた。

○各事業所からの求人票＜６月20日（木）より順次＞

各事業所から届いた求人票を学習室に掲示した。50 社ほどの求人票が集まり、求める人物像や業務内容を見て自分の希望する事業所を検討した。

〇エントリーシートの記入

求める人物像、業務内容、事業所からの要望を見て、生徒自身が希望する事業所を選び、エントリーシートに「働くこと」についての自分の考えや、自己ＰＲ、働くことに対する熱意・決意を記述した。

〇採用面接体験＜６月 20 日（木）～７月 11 日（木）＞

エントリーシートの提出後、昨年度交流した地域の方や学校運営協議会の方から面接官として協力をいただき、放課後に採用面接を行った。第１希望の事業所が不採用の場合は、他の事業所を選ぶとともに、不十分だったところの改善と成長を目的としたフォローアップ面談を実施した。

〇仕事体験＜夏季休業中７月 27 日（土）～８月 20 日（火）＞

生徒自身が仕事体験を行いながら事業所ＰＲ新聞のための写真撮影や、取材を行った。

〇各事業所のＰＲ活動＜２学期以降＞

４．本取組における成果

〇従来の職場体験と違い、「事業所をＰＲするための取材」も目的としたことにより、自ら必要な情報を聞くためのアポイントメントを取ったり、積極的にインタビューしたりするなど、受け身になることなく主体的に活動する様子が多く見られた。

〇教科の魅力を教科担当教員にインタビューしたり、英語の授業で調べたことをまとめたりしながら、教科を横断してＰＲ新聞を作成した。こうした表現活動を繰り返し行うことで、見聞きしたことをもとに自分の考えを伝えるなどの基礎的・汎用的能力の育成にもつながった。

〇生徒に選ばれる側の企業も、自社の良さを知ってもらうためにより魅力が伝わるような求人票を作成していた。一方、生徒は企業が作成した求人票を見ることで、地元には様々な企業があることや、多くの職種があることを知り、自身の職業観を広げることにつながった。

〇面接を経て、必ずしも希望の事業所に採用されるわけではないため、教師側も生徒のフォロー等を考えていたが、昼休みもお互いに面接の練習をし合うなど、採用に向けて本気で取り組む様子が見られた。体験後には保護者から礼儀正しくなったとの声も寄せられた。

〇従来の職場体験は授業日のうちの特定の３日間に設定していたが、夏季休業期間の企業側にとって都合のよい日程に合わせたことで、繁忙期の忙しさを体験するなど、より現実に近いものになった。

生徒一人ひとりの社会的・職業的自立に向け、必要な基盤となる能力や態度を育成するため、事前・事後指導を含めた職場見学、仕事体験を積極的に取り入れ、地域の事業所との連携・協力を主体的に図り、組織的・系統的にキャリア教育に取り組んでいる。

＜山形県＞（種別：学校）　山形県立遊佐高等学校

取 組 概 要

キャリア教育総合実践事業・指導プログラムおよび学校設定科目の２年次長期インターンシップを主とした「デュアル実践」による、地域に学び、地域を元気にする人材の育成

１．学校の概要と「デュアル実践」のねらい

遊佐町唯一の高校として「地域に学び、地域を元気にする学校」をスクール・ミッションに掲げ、地域に根差した特色ある教育活動を展開しており、将来地域の一員として、地域が抱える諸課題にも目を向け、自ら考え、行動できる生徒を育成する活動に取り組んでいる。高校生の意識や行動の変化を、実際に近い場所で地域の方々から見ていただける機会は「地域に学び、地域を元気にする学校」として、地域に根差した特色ある教育活動を展開していく絶好のチャンスである。キャリア教育総合実践事業をとおして、生徒一人ひとりの成長が地域の方々からの信頼を受け、今後も学校を応援してくれる原動力になっていくことが考えられる。現在「遊佐高校支援の会」や「遊佐高校魅力化協議会」等で、その成果が認められ、応援していただいている。実際に、地域課題の解決として、「デュアル実践」におけるリフレクションや成果発表会等で、課題が出されるたびに、その解決策を検討してきた。今年度は、生徒がインスタグラムを使って地元事業者へのインタビューを投稿し、その事業内容をPRするなど、生徒が独自の能力を発揮している。「デュアル実践」での体験を通して、生徒は地域の方々から見守られながら、地元への理解をさらに深め、地元を愛し、地元への誇りを一層持つようになると言える。

２．「デュアル実践」の具体的な内容

「キャリア教育総合実践事業・指導プログラム」により、「デュアル実践」において地元企業・行政と連携、生徒一人ひとりの社会的自立及び職業人として地域に貢献できる人材の育成に努めている。

将来は地域の一員として、自らの仕事にしっかり取り組み、自ら考え、行動できる人材の育成に取り組むことを目標とし、「デュアル実践」は、地元企業・団体及び遊佐町役場、商工会等の協力を得て、今年度で9年目となる。受け入れ事業所は例年15程度であり、生徒一人ひとりが、人間関係ややりがい、ビジネスマナー、地域貢献について、じっくり学ぶ機会となっている。

事前指導としては、生徒が各事業所において、面接を受け、事業所が生徒の受け入れを判断する。また、協力団体と連携し、校内デュアル実践を７時間（就労トレーニング、面接ガイダンス、面接練習等）行う。受け入れ確定後は、学校と協力事業所との役割分担や実習計画、実習生の状況やリスク管理等を確認し、４月の開講式で学校と事業所が「デュアル実践協定」を結ぶ。半年間にわたり各事業所で週１回インターンシップを行う。生徒は実習日に各事業所指導担当から日誌に毎回コメントをいただき、翌日、日誌を学校に提出し、放課後にアドバイザーの協力のもとに、「リフレクション」で、振り返りと今後に向けた話し合いを行う。日誌の記載内容と各事業所の報告書をもとに、生徒の成績を評価する。事後指導の一環として９月末に「デュアル実践成果発表会」を行い、反省および翌年度実施に向けた検討を「デュアル実践実行委員会」において行う。

＜茨城県＞（種別：学校）　古河市立中央小学校

取 組 概 要

１．取組の概要

中央小学校では「知・徳・体のバランスのとれた人間性豊かな児童を育成する」の学校教育目標のもと、かしこい、やさしい、たくましい児童の育成を目指している。特に、以下の取組を通して「自身の考えを生かし、他者と協働し解決策を探究する力」「自己課題を解決し、自己の生き方について考える力」「集団の中で自分の役割を果たすとともに、自分らしさを発揮する力」を育むことを重視してきた。

また、児童の主体性や自他の理解を深めるための学校行事、近隣の農地や農業経験者の力を借りた職業理解と地域理解につながる体験的な活動、ＩＣＴを活用し多様性の理解につながる国際交流等、今後も基礎的・汎用的能力の育成を視点とした継続的な取組を通して、児童のキャリアの発達が期待できる。

２．主な取組内容

(1) どんぐり祭り（人間関係形成・社会形成能力及び自己理解・自己管理能力育成のための取組）

毎年 10 月に学校祭り「どんぐり祭り」を実施している。祭りのねらいを、「主体性を育むこと」と「学級の結束を高める」とし、教師は児童の思いを実現できるようなサポートを心がけた。令和５年度は、各学年のテーマに合わせ、児童が主体となり、各学級ごとに出店を企画・運営し、他の学年の児童がその店を回って楽しむという形で行った。はじめは意見が分かれる学級がほとんどであった。そこで話合いを重ね、仕事を分担して協力することで、児童は“みんなで一つのものを作り上げる”という経験をすることができた。

(2) 米作り体験（課題対応能力及びキャリアプランニング能力育成のための取組）

学校に隣接する農地を借りて、地域の農業者の協力のもと、田植えや稲刈り等、米作りを体験できるようなプログラムを実施した。児童は、日本人の主食である米が、どのような手順で生産されているかや農家の方の思いを知ることで、食料に対する感謝の気持ちをもった。

また、社会科の授業と関連付け、後継者不足や価格の低下といった、日本の農家が抱える問題を解決するために、自分たちにできることを考え、実行していこうとする姿も見られた。

(3) 英語デジタルエクスチェンジプログラム（キャリアプランニング能力、人間関係形成・社会形成能力育成）

外国の文化や生活に対する理解を深めるとともに、英語を用いてコミュニケーションを図る態度を育成することを目的に、ニュージーランドの学校とビデオ通話を行い、英語及び日本語での交流を行った。年齢の近い中学生とオンラインで触れ合い、実際に英語を使ってコミュニケーションを図ることが大きな学びとなった。また、ニュージーランドの季節や時間、観光地や現地の学校の様子を知ることが視野を広げるとともに、多様性を認めることにもつながった。交流後の児童の振り返りでは、海外での就労や英語を使った職業への興味・関心を深めていた。

３．取組の成果（第１学年 77 名、２学年 76 名、３学年 91 名、４学年 83 名、５学年 77 名、６学年 85 名、計 489 名）

令和５年度のキャリア教育に関する児童アンケート７月と 12 月の比較において、各質問項目の肯定意見の上昇から、以下のような成果があった。

○「自分の考えを生かし、他者と協働し解決策を探究する力」が育成できた。
- 「学習や生活の中で、もっといい方法はないか考えている。」62%から 80%（＋18%）
- 「友達が困っているときに進んで助け、協力してあげられる。」89%から 93%（＋４%）

○「自己課題を解決し、自己の生き方について考える力」が育まれた。
- 「将来の夢や目標を考えている。」79%から 89%（＋10%）

○「集団の中で自分の役割を果たすとともに、自分らしさを発揮する力」を育成できた。
- 「クラスの仕事を積極的に行っている。」85%から 90%（＋５%）
- 「自分にはよいところがあると思う。」75%から 88%（＋13%）

＜茨城県＞（種別：学校）　大洗町立大洗小学校

取 組 概 要

１．取組の概要

大洗小学校の６年生は、2011 年より地元商店街の協力を得ながら商業体験と金融教育と関連させながらキャリア教育を展開している。販売に関わる人々の努力や大変さを知る商業体験と、商品を仕入れ、売値を決めて販売し流通や経済の仕組みを学ぶ金融体験から、社会的・職業的自立へ向け、必要な力を身に付けている。

地域と連携し社会や職業との関連を意識することで 、児童一人一人のキャリア形成と自己実現を育む取組として、今後もその取組が期待できる。

２．取組のねらい

・実際の商品とお金を扱い、お客様に販売することで、物やお金の流れを理解する。
・児童が地域の人たちとの関わりを通して、地域とのつながりを深める。
・地域の人や商品に触れ、自分たちの住む町のよさと活性化について考える機会とする。

３．取組の実際

⑴ 事前指導（10 月～11 月）

地元商店街（曲がり松商店街）の方々を講師として、流通や販売の仕組みを学ぶ。

販売準備

・事前学習①
10 月…お店の役割や税金のしくみについて知る。
・事前学習②
10 月…グループ編成と役割分担（社長、経理、広報、販売）を行う。
・事前学習③
11 月…グループ毎に担当する店舗の販売計画を立て、チラシやＰＯＰを作成する。

⑵ 当日の活動…担当する店舗で商業体験を行う。（11 月実施）

①開店準備：茨城県信用組合から借入金を預かる、商品陳列及びＰＯＰの掲示を行う。
②販売開始：商品を販売する、売上を伸ばすため、販売方法を工夫する。
１、２年生、保護者や地域の方が客となり、買い物体験を行う。
③販売終了：売上金額を計算し、借入金を茨城県信用組合に返却する。

⑶ 事後指導（12 月）

・商業体験で学習したことや感謝の気持ちを礼状に書き、商店街に届ける。
・売上金は、商店街を通して大洗町に寄付する。

４．取組の成果

- 実際に利益を計算して商品に値付けしたり、どうすれば売れるかを考えて販売計画を立案することを通して、主体性、企画力、課題解決力の育成が見られるようになった。
- 地域の商店街で働く人との関わりを通して、地域のよさに気付き、地域への貢献意欲が高まった。
- 地域の方や低学年児童に対して商品を売る活動を通して、コミュニケーション力、表現力が向上した。
- 実際に商業の一連の流れを体験し、お金の大切さや労働の大変さを感じることができた。

＜茨城県＞（種別：学校）　茨城県立石岡第二高等学校

取 組 概 要

【学校の概要】

創立112年の伝統校で、現在は普通科と生活デザイン科の２学科を設置している。「個別最適な学びと探究活動、様々な体験学習によって、基礎的・基本的な学力と豊かな人間性を育み、多様な進路希望を実現する」というカリキュラム・ポリシーに基づき、市や地元企業等と連携し、地域を学びの場とし、地域の課題を発見して解決策を考え、新しい価値を創造することに挑戦する取組を推進している。

また、茨城県教育委員会主催の令和５年度「IBARAKI ドリーム・パス事業」において、地域産品を使った商品開発の取組が、銅賞を受賞するなど成果を挙げている。

【主な取組】

〇インターンシップ

・普通科、生活デザイン科においてインターンシップを実施

・受入について石岡市が協力

〇他校種との連携

・石岡市内小中学校との交流事業への参加

「石岡市子ども会議」で市内中学生の提言へアドバイス

プレゼンテーションをとおして地域探究の魅力を小中学生に向けて発信

〇地域・産業界との連携

・石岡市防災危機管理課との連携

外国人向け防災マップの作成

・石岡市産業プロモーション課との連携

石岡市のイチゴをPRするイベントに参加（東京銀座の茨城県アンテナショップ）

・石岡市駅周辺にぎわい創生課との連携（複合文化施設に関するシンポジウム）

筑波大学生と協力し、若者目線の提言を市民に対し発表

・地域企業との連携

石岡市の地域資源を知る体験学習

地域食材の良さを生かした商品開発や安心安全な食についての企業努力を学習

・ＮＰＯ法人まちづくり市民会議との連携

「いしおかサンド」の魅力発信と広報活動

広報活動用VTuberの制作

〇組織的・系統的なキャリア教育

・探究的な学びとキャリア教育の一体的な推進を目指し、校務分掌に「企画開発・ＩＣＴ教育推進部」を設置

・石岡市役所や大学等の地域の協力を得て「探究の日」（令和４年度～）を実施

（アントレプレナーシップに係る講演会、探究スキルを学ぶワークショップ、動画作成講座等）

〇模擬店舗の出店体験・新商品の開発

・地域の特産物である味噌を研究

・地元企業と連携して「みそパンケーキ」を開発・販売（ショッピングモール）

【ホームページ】https://www.ishioka2-h.ibk.ed.jp/

＜群馬県＞（種別：学校）　千代田町立東小学校

取 組 概 要

当該校は、学校目標「広い心の子」「がんばりぬく子」「自分で考える子」を掲げ、「元気いっぱい・夢いっぱい　笑顔あふれる学校」をスローガンに、児童が自分らしさを知ること、友達のよさを認め合うこと、夢や希望を実現するために必要な課題を知ること等を大切にしている。

生活科や総合的な学習の時間を中心とした、地域人材や地域素材を活用する体験活動や児童を主体とした学校行事、特別活動等の取組を通して、「人間関係形成・社会形成能力」「自己理解・自己管理能力」「課題対応能力」「キャリアプランニング能力」の４つの力に系統性をもたせて育む探究的な学習活動を展開している。

〇地域人材や素材を生かす体験活動の充実

生活科において、１年生では、地域の老人クラブや民生委員・児童委員さんを講師とする「昔の遊び体験」、２年生では、校区内の店や企業と連携した町探検、総合的な学習の時間においては、３年生で、「ふるさと千代田町じまん」を通して、伝統文化や産業、自然等について、施設を見学し、そこにいる人とかかわりをもち、思いや願いを知る機会とし、自身が生まれ育った町に愛着がもてるようにしている。４年生では、町の福祉に関する諸団体と連携し、福祉に関する講話を聞いたり、体験学習を実施したりし、５年生では、地域の JA や農家の方等を講師とする「田植え体験」「稲刈り体験」「しめ縄作り」を体験することで、自身の育った地域の未来のあり方について想像する活動を実施している。６年生では、「思い描こう〇〇年後の自分」をテーマに「人はなぜ働くのか」の仮説を立て、探究活動を行っている。スポーツ、文化・芸術、地域の企業等、様々な分野より数名の社会人をゲストティーチャーとして招き、それぞれの話を聞く機会を設定している。児童は自分の仮説を検証しながら、将来に向けて、自身の生き方や考え方を見つめ、〇〇年後の自分のあり方について考え、「未来宣言」としてまとめ、保護者を招き発表会を行っている。

地域の方やゲストティーチャーと触れ合うことで、たくさんの方の価値観に触れ、児童自身の物事に対する見方・考え方に広がりが見られる。

〇一人一人のキャリア形成と自己実現に向けた「キャリア・パスポート」の活用

「キャリア・パスポート」において、毎学期の学校生活の目標設定や振り返り、学校行事での目標設定や振り返りを行っている。特に毎学期の初めに立てる学校生活での目標や手立てについては、常に意識をもって生活できるように、児童が普段使用しているタブレットの待ち受け画面に設定している。また、学期の途中に振り返りの時間を取り、自身の目標や手立ての見直しを行い、自身の成長を実感する機会としたり、新たな改善策を考えたりしている。

〇児童が主体となる委員会活動

「自分たちの学校を自分たちでよくしていこう」とするために委員会ごとに、目的を明確にし、内容を工夫している。保健委員会と給食委員会、体育委員会で連携し、基本的な生活習慣を身に付けるための手立てとして、「睡眠」「食事」「運動」の３つの視点からアプローチをし、２、３学期の初め２週間を「元気いっぱいウィーク」として、活動している。また、放送委員会が主体となって「秘密の得意発見ショー」と題し、児童の得意なことを披露する場を設定し、一人一人の児童のよさを生かすための企画、運営を行っている。児童が自らの学校を自らの手でよりよくするためにできることを考え、実践している。

＜群馬県＞（種別：学校）　群馬県立伊勢崎清明高等学校

取 組 概 要

伊勢崎清明高等学校は、卒業までに育てたい生徒像として「新たな自分の可能性を発見し、それに向けて挑戦する資質・能力を持った生徒」「将来、地域のリーダーや地域の根幹を支える人物となりうる資質・能力を持った生徒」をスクールポリシー等に掲げている。単位制普通科高校の利点を生かし、生徒一人ひとりの興味関心に応じた科目選択と教育課程、進路指導、自律的主体的なキャリアプランニング力の育成を図っている。キャリア教育を担う「総合的な探究の時間」では「新たな可能性の発見」を３年間の学習到達目標として、社会教育資源（企業・大学・施設・団体）と連携し探究活動プログラムを実施している。

１年次では「自分や自分を取り巻く地域社会とその現状を理解し課題を発見する」ことを目標として、身近な社会人への「探究インタビュー」、地域の協力企業への「探究型インターンシップ」を実施している。特にインターンシップでは協力企業を招いて「インターンシップ成果報告会」を行うことで互いの課題を共有しながら地域との協働体制の構築を図っている。さらに１年間で身に付けた自分を次年度の新入生にプレゼンするための「キャッチコピーワークショップ」を行い、翌年度初めに「SEIMEI ナビ」として行うことで、自身の探究活動を振り返り、２年次の「未来への提言プロジェクト」のテーマ設定へとつなげている。

２年次では「課題設定とフィールドワークによる仮説検証を通して探究し、未来への提言書を作成する」ことを目標として、自分の知りたい分野にもとづき夏休みに「フィールドワーク」を行うとともに、未来のよりよい社会づくりに向けた「提言」としてまとめ発表する。地域の活性化・子供を取り巻く社会課題・高齢化社会を支える新しい取り組みへの挑戦等、生徒一人ひとりが自身の立場で感じた課題をさまざまな角度から検証し、具体的な提言にまとめることで、積極的に社会に関わろうとする自律的な視点が、年々確実に育成されている。

３年次では「自分の新たな可能性を発見して進路選択を行うとともに社会の一員としての意識を養う」ことを目標とし、２年間の活動実績等をまとめた「探究ポートフォリオ」を作成し、進路実現の具体的な資料としても活用できる形とする。また２年次で行った「未来提言」を継続して探究し発表する機会も設けることで卒業後の生き方学び方へと繋げていく。

このように、課題発見、探究仮説検証、提言作成、ポートフォリオ作成と、三年間の探究活動が一貫した取り組みは、地域社会の課題や自身の興味関心を知ることで、内発的動機付けによる自律的で主体的な進路選択にもつながっている。同校の探究活動は、社会の在り方を肌で感じ、課題解決に主体的に携わることで、一人一人の力が社会を変えていく可能性を感じ自己有用感の醸成を図ることを期待するとともに地域社会や国の未来を担う人材の育成の一端となることを最終的な目標として実施している。

＜群馬県＞（種別：学校）　群馬県立吾妻特別支援学校

取 組 概 要

県立吾妻特別支援学校は、平成27年4月に小、中学部が開校し、平成30年4月には高等部が開設した。学校運営方針の一つに「社会生活や働く生活への適応力を高めるキャリア教育の充実を図る。」を掲げ、児童生徒一人一人の自立と社会参加を目指す教育に取り組んでいる。小学部から高等部まですべての学部でキャリア教育に力を入れており、特に高等部では、地域とのつながりをいかしたキャリア教育に特色がある。

１　作業学習で地元産業のサービスに関する作業種目を実施

吾妻地域は、草津温泉をはじめとして観光業が盛んである。宿泊施設や観光関連施設では、サービスに係る仕事も多い。生徒が就業体験（実習）を行わせていただく事業所もサービス関連の仕事が多い。そういった地域性をいかし、吾妻特別支援学校の高等部では、開設当初から作業学習の中で、サービスに関する作業種として、喫茶サービスとビルクリーニングに取り組んでいる。

２　喫茶サービスでの取り組み

喫茶サービスでは、コミュニケーション能力や協力して仕事をする力を育むことを目指し、接客の基礎を学んでいる。県教育委員会主催の喫茶サービス基礎研修会にも毎年参加しており、接客能力の向上がみられる。地元の東吾妻町役場で「あがとくカフェ」を開催した際には、地域の方に喫茶サービスの実演を行った。実際のお客様に接客をすることで臨機応変に対応する力もついた。他にも高崎で開催されたイベントに参加して他校の生徒と一緒に喫茶サービスの実演に取り組んだり、独立行政法人高齢・障害・求職者雇用支援機構が主催する県のアビリンピック喫茶サービス部門に毎年参加したりしている。

３　ビルクリーニングでの取り組み

ビルクリーニングでは、群馬県ビルクリーニング協会で使用している専用の道具を使って床や窓、トイレ等の清掃技術を学んでいる。校内の清掃だけでなく、地域の通所介護事業所の清掃（コロナ禍前）やホテルの草取りなども行っており、地域の方々に喜ばれている。日ごろからビルクリーニングに取り組んでいる生徒は、昨年度の県のアビリンピックのビルクリーニング部門で金賞をとり、全国大会に進んで銅賞を受賞した。

以上のような取り組みを行っている吾妻特別支援学校では、アビリンピック全国大会で入賞した生徒をはじめ、多くの生徒が地元のサービス関連の事業所で在学中に就業体験（実習）を行い、実際に就労もしていることから、地域性を踏まえたキャリア教育の実践が行われていると考える。

＜埼玉県＞（種別：学校）　蓮田市立平野小学校

取 組 概 要

平野小学校では各種調査や日々の様子から、児童の自己肯定感や将来の夢・目標設定についての意識に課題があると捉え、令和４年度から、「生き生きと輝き、伸びゆく児童の育成を目指したキャリア教育の推進」を研究主題に据え、あらゆる教育活動につなげるキャリア教育の推進についての研究を進めてきた。

研究にあたって、キャリア教育を「扇」に例え、学級活動を要とし、各教科・領域を骨、育成すべき資質・能力を幕ととらえ、「すべてがそろって初めて効果をなす」とする考えのもと、共通理解を図り、授業研究部と調査・環境部の２つの専門部を設置し、取組を進めた。

授業研究部では、目指す児童像の検討・設定を行い、キャリア教育で育成すべき資質・能力の４観点について、「(ひ) 人を大切にする」「(ら) 自分らしさを出す」「(の) 伸びる努力をする」の表記に合わせて設定することからスタートした。さらに、目指す児童像に基づき、年間指導計画から、キャリア教育との関連が強い単元を抽出し、キャリア教育と各教科等との関連を示した一覧表として見える化を図った。特別活動の年間指導計画には「キャリア・パスポート」の活用時期や関連させる単元なども明記し、年度途中にも加筆・修正しながら運用した。また、キャリア教育の要となる学級活動の授業展開「つかむ」「さぐる」「見つける」「決める」の黒板表示を統一し、全学級で授業実践を行い、保護者や学校関係者、市内外の教職員などに広く公開した。

授業の実践にあたっては、地域人材や中学生、上級生と下級生との交流などを各教科・領域等で計画的に実施するなど、本校の特色ある教育環境を生かした教育活動を展開した。

調査・環境部では、キャリア教育に関する掲示物の作成、自己肯定感の高揚を図るための「にこにこの木」や各学級の成長の軌跡を追った「Step by Step」の設置など、児童を中心に据えた環境整備を学校全体で行った。並行して、節目に合計３回のアンケート調査を行い、現状把握、変容を見取っていった。

研究の成果として、児童の意識調査からは、どの項目にも一定の向上が見られた。特に、「将来の夢や目標がありますか」という設問への肯定的な回答が約２割増加した。「あなたは、将来の夢や目標をもつことは大切だと思いますか」という設問においても増加がみられ、その他関連する自己肯定感の高揚につながる項目にも一定の向上が伺える結果となった。

児童の変容にもつながった取組として、平野小学校では以下の４点を大きな成果ととらえている。

①「キャリア教育」の考え方を全教職員で共通理解することができたこと
②学級活動（３）の実践事例を蓄積することができたこと
③「キャリア教育に係る年間指導計画」の修正・見直しが行えたこと
④本校の特色を生かした異学年交流の活動を計画に基づいて実践することができたこと

平野小学校では、今後隣接する平野中学校に本研究のバトンをつなぎ、小中９年間でのキャリア教育の一層の推進を図り、市内や県内に成果の一端を広めていくことを考えている。

＜埼玉県＞（種別：学校）　　蓮田市立黒浜西中学校

取 組 概 要

黒浜西中学校では「夢に向かって自ら学ぶ豊かでたくましい生徒」という学校教育目標のもと、日々教育活動を行っている。令和４・５年度には蓮田市の研究委嘱を受け、研修テーマを「未来を見つめ、自己実現を図る力を育成するキャリア教育の推進～「非認知能力」の向上を目指して～」とし、令和５年度に本発表を行った。「生きる力の土台となる非認知能力が向上すれば、基礎的・汎用的能力も向上するであろう。」と仮説を立て、①学校全体②ブロック（進路・学級活動・学習）③各教科④各領域に分け、非認知能力の向上を目指し研究に取り組んだ。

研究では埼玉県学力学習状況調査で使用されている非認知能力のアンケートと、蓮田市「キャリア・パスポート」に使用されている基礎的・汎用的能力のアンケートを定期的に行い、アンケート結果を分析することで相関関係を見出した。分析結果を受けて、各教科において特化する非認知能力を設定し、授業で実践した。

【取組例】

国語：発表の場の設定（自己効力感）

「魅力的な提案をしよう」の単元で、「非認知能力を向上させるために」というテーマのもと、プレゼンテーションソフトを利用してグループ活動を行った。

数学：全校計算力コンテストの実施（やりぬく力）

１学年の「正負の数」「文字式」を範囲とした計算力コンテストを学校全体で行った。計算力を向上させる上で基盤となる事項を復習することは、できなければならないことを確実にできるよう努力する力を身に付ける機会となった。

その他特筆すべき取組は、学校全体で行っている「語り TIME」である。子どもが大人から人生観や生き方、経験を聞く機会が減少している現状を鑑み、職員が人生観や生き方について語る場を意図的に設定した。学年職員ではなく、校長、教頭、栄養士、庁務手の協力も得て、普段話を聞く機会の少ない教職員の人生経験や体験談を聞く貴重な機会となった。生徒は真剣に耳を傾け、さまざまなテーマの話の中から自分に生かすことができる話を模索した。

〈語り TIME の先生方のテーマ〉

夢を持つことの大切さ　恩師（担任）との出会い　誰にも負けない取組　失敗談　経験は財産　教員になってからの夢　受験で体験したこと　浪人生になる覚悟　出会いを通して成長したこと　部活動を通して得たもの　専業主婦だった頃の話

また、職場体験の実施が難しい昨今の情勢から、具体的な職業に触れる取組の代替として埼玉県が制作している、県内の様々な仕事や企業を紹介する動画「埼玉しごと発見」を利用し、様々な職種への理解につなげた。事前のアンケートで、製造業・医療福祉業など、興味のある職業を選択して動画を視聴し、視聴後、新聞にまとめ、発表会を行った。

その他にも将来の夢を語る立志式、生徒会が中心となって設定した黒西 SDG s の活動、埼玉県立蓮田松韻高等学校の出前授業、ハローワーク職員を招いて就職について等の話しを聞く講演会、蓮田・白岡ユネスコ協会と連携した人権集会、埼玉県立蓮田特別支援学校との交流会、PTA 本部主催の防災キャンプなどに取り組んでいる。以上のように、様々な関係機関と連携、協力して、組織的系統的にキャリア教育に取り組んでいる。

＜千葉県＞（種別：学校）　　習志野市立第一中学校

取 組 概 要

◎中学校・大学連携学習事業

・習志野市制６０周年の平成２６年に、更なるまちづくりの充実を目指して、習志野市内にある３大学（千葉工業大学、日本大学、東邦大学）との包括協定が締結された。その一環として、中・大連携学習事業が行われ、本校も千葉工業大学及び東邦大学との連携学習を行っている。

①千葉工業大学との連携（平成２８年度～）中学３年生対象。

『ロボット工学に関する講義』『ＡＩ活用に関する講義』等。

②東邦大学との連携（令和５年度～）中学３年生対象。

・東邦大学が、JST 女子中高生の理系進路選択支援プログラムにおいて、『みんなが輝く未来のサイエンス』を目指して、科学の奥深さに関心を持ってもらうために授業を展開している。

『脳の老化予防の科学』『寄生虫と生物多様性』等。

【成果】

・生徒への事後調査の結果では、科学技術や理科・数学に対する学習意欲、興味関心が高まったという生徒が約９割に達した。また、理系の進路を考えるようになった生徒は多くはないものの、進路選択について考えるきっかけになったと答える生徒が多数いた。

・大学の研究に興味がわいて、将来やりたいことの幅が広がったり、今やっている勉強が将来どうように役立つのかが理解できた生徒も多数いた。

【今後の活動について】

〇文理関係なく、市外、県外の様々な大学との連携の模索していく。

〇実施内容の検討（対象学年・実施時期・学習内容）等。

＜千葉県＞（種別：学校）　　千葉県立木更津東高等学校

取 組 概 要

【キャリア教育重点目標】「なれる」自分から「なりたい」自分へ　～あなたのその夢、全力でサポートします～　をキャッチフレーズに、１年次から３年次まで計画的かつ系統だてた実践的キャリア教育を推進している。

具体的には、１年次で【「なりたい」自分をイメージ】し、２年次で【「なりたい」自分へアプローチ】し、３年次で【「なりたい」自分へチャレンジ】することをコンセプトとして、各学年段階的なキャリア教育を進めている。

生徒は、それぞれが「なりたい」自分を具現化するため、将来の職に向けた体験的な学習を行い、夢の実現に向けて、主体的かつ積極的に取り組んでいる。また、教員の働き方改革の観点から外部人材を指導者とした取組を中心に展開している。

取組事例

１　「なりたい」自分探し

キャリアガイダンス・分野別ガイダンスを開催し、将来の職業選択ができるよう、様々な大学、短大、専門学校、企業の方々を講師に迎え、生徒の興味関心や希望する進路に応じた小グループでの体験学習を実施している。

２　「なりたい」自分へアプローチ＆チャレンジ

「なりたい」自分探しで学習した結果を生かし、それぞれの生徒が上級学校や企業に出向き、体験学習及び実習を行う。

（１）看護師・医療従事者養成講座

地元看護学校、医療系専門学校と連携し、体験授業・体験実習を実施し、夢の実現に向けて、経験とモチベーションを高めている。

（２）保育士養成講座

地元大学の保育系学部と連携し、体験授業・体験実習を実施し、夢の実現に向けて、経験とモチベーションを高めている。

（３）公務員講座

公務員養成系の専門学校と連携し、月一回公務員試験に向けた対策講座を実施し、公務員として必要な知識と能力を育成している。

（４）簿記講座（事務系就職対策）

事務系就職を希望する生徒に向けて、簿記の資格取得の学習（２年連続全員合格）。さらに、ビジネス文書検定の資格取得も推進している。

（５）地元市と連携したファッションショー及び弁当のレシピ開発

ファッション関係や調理関係の進路を希望する生徒が、地元市の周年行事と連携し、小中学生をモデルとしたファッションショーや、地元料亭とコラボしたお弁当のレシピ開発を行い地元市のイベントで販売するなど、実践的体験を積んでいる。地元出身のデザイナーや料理人から指導を仰ぐなど生徒のスキル向上につなげている。

【ホームページ】

学校：https://cms2.chiba-c.ed.jp/ki-higashi/f5f39294f7ff9c3bc5dd016f0e7f295b

家政科取組：https://cms2.chiba-c.ed.jp/ki-higashi/98f699219429224f25a2bd886b70dbcf

看護師養成：https://cms2.chiba-c.ed.jp/ki-higashi/bbses/bbs_articles/view/49/b424366ff3b0a0d4319d879db283293a?frame_id=1205

＜東京都＞（種別：教育委員会）　　八王子市教育委員会

取 組 概 要

（1）はちおうじっ子「キャリア・パスポート」の作成と全校配付

文部科学省の「キャリア・パスポート」例示資料を基に作成したはちおうじっ子「キャリア・パスポート」を毎年、全校に紙面又はデータで配付している。さらに、小中一貫教育グループを軸とした義務教育９年間を見通したキャリア教育の推進を全校で教育課程に位置付け、はちおうじっ子「キャリア・パスポート」の引継ぎと活用を行っている。活用事例として市立鑓水中学校では、１学期末の三者面談において全生徒がはちおうじっ子「キャリア・パスポート」を基に１学期の学びを振り返り、担任と保護者にプレゼンテーションしている。教師と保護者は生徒に直接、認め、励ます言葉かけを行い、生徒は、教師や保護者と共に自己の生き方について考えることへの意識を高めることにつながっている。また、保護者の関心が高まり、ＰＴＡ広報部による取材も行われた。

（2）八王子青年会議所と連携した「キラキラまちしごと」事業の実施

「キラキラまちしごと」事業は、八王子青年会議所が主催する職場体験事業である。これは学校で行われている職場体験とは別に、市教育委員会が学校からの推薦を募り、学校になかなか馴染めない、勉強や部活動に熱意がわかない、自分の居場所が感じられない、周囲に心を開けず孤独を感じている等の状況にある生徒を対象に、社会や大人の温かさに触れ、自分を知り、将来の夢や生き方について考える機会を、学校教育や家庭教育以外の場でつくることを目的に実施している。実際に応募してくる生徒の多くが不登校や非行を経験しており、学校の職場体験に参加できなかった生徒が第３学年在籍時に行うこともある。事前に職場担当者と生徒、教員が面接を行い、体験当日に向けた思いを共有することで、当日生徒は主体的に取り組むことができ、受け入れ先の担当者からも生徒の成長を喜ぶ声が挙がっている。

（3）東京八王子南ロータリークラブと連携した職場体験の実施

東京八王子南ロータリークラブ会員の企業にて、特別な支援を要する生徒や不登校傾向にある生徒を対象とした職場体験を実施している。指導主事と地域キャリア教育協力隊（キャリアコンサルタント）が仲介役となり、事前に学校と企業が生徒一人一人の仕事内容や関わり方について打合せを行うことで、生徒は温かく迎えられ、やりがいを感じながら活動することができている。

＜東京都＞（種別：学校）　　練馬区立大泉北小学校

取 組 概 要

練馬区立大泉北小学校では、教育目標を「夢や目標をもち、めあてに向かって主体的・探究的に学び、新たな価値を創造する、知・徳・体の調和のとれた豊かな人間性をもった児童を育成する」としている。その目標を達成するために、キャリア教育の視点から教育活動を見直し、計画・実施している。

令和４・５年度には、練馬区の教育課題研究指定校として、キャリア教育で育てたい基礎的・汎用的能力の育成に取り組んだ。

具体的な手だてとして、次の視点で研究を進めた。

①授業での取組

・各教科の中での基礎的・汎用的能力の育成

・ゲストティーチャーの活用

②日常での取組

・全教育活動を通しての実践

③振り返り

・「キャリア・パスポート」の充実

・児童の意識調査

④年間指導計画の作成

・基礎的・汎用的能力を位置付けた年間指導計画の作成

研究の成果として、子供たちの自己肯定感、主体的に取組む姿勢及び学び合いの意欲の高まりとともに、教師のキャリア教育への意識の変容がみられた。

本校は、令和６年度もこれまでの取組を発展させながらキャリア教育の実践を継続している。

＜東京都＞（種別：学校）　　帝京大学小学校

取 組 概 要

帝京大学小学校では、「自分の頭で考える」ことを学びの重点とし、「学びを自分事に」することを目指した、企業と連携したキャリア教育を実施している。「キャリア」というものが、ある年齢に達すると自然に獲得されるものではなく、外部からの組織的・体系的な働きかけが不可欠だということをふまえ、学年の発達段階に応じて系統的な学習過程となるよう企業と連携して行っている。主な取り組みは次の通りである。

【１・２年】
〇職業体験施設であるキッザニアに遠足で行き、職業に対する興味・関心を高めるとともに、多様な職業があることを学び、キャリア教育の導入を図る。
【３～６年】
〇12 企業（各学年３社）と教員が事前に学習内容の調整を図り、企業の特色を生かした授業を児童が体験するとともに、仕事のやりがいや苦労を知ることで、職業観を広げる一助とする。
【３～６年】
〇各種のゲストティーチャーから学ぶ「ようこそ社会の先輩」では、国際弁護士・国連職員・制服の製作会社・作家・ベンチャー企業の起業家・ゲームの制作会社・銀行・質の高いプール水を作る会社・人材育成プログラム開発者・エンターテイメントを通じて海外支援を行う起業家など多種多様な職業人を招き、仕事についてのより高度な講義を体験型の授業も取り入れながら実施する。
【４年】
〇ブックオフと連携し、ZOOM で企業と教室をつなぎながら本の査定について学び、その後古本を全校から集めて校内で「帝小ブックオフ」を開店して、査定・店舗運営・収支の振り返りなどを体験する。
〇早期起業家教育として位置づけ、「帝小カフェ」を実施する。保護者に飲みたいコーヒーの市場調査を行い、班ごとにパッケージデザインや価格を設定した上で企画書を作成し、銀行の協力を受けて融資体験を行う。保護者にプレゼンテーションした後、現金販売をして収支報告を再度銀行の協力を得て作成する。
【５年】
〇起業家教育の指導計画及び授業実施をベンチャー企業と協働して進め、「帝小カンパニー」を行う。ボードゲームのモノポリーを導入で行い、経済や起業のイメージを掴む。その後、班ごとに会社を設立し、保護者・児童へのビジネスコンテストを経て作成する製品を決めて、保護者に出資を募り販売を行う。
【６年】
〇「It’s chocolate world」の探究の授業では、海外で学生起業をサポートする企業と連携し、キャリア教育の集大成としてバリ島のカカオ農家の課題を学び、支援をするためにクラウドファンディングを実施する。集まった資金で、バリ島での植林活動を行うなど、６年間の学びを行動連携につなげる。

【ホームページ（学校経営計画）】https://teikyo-sho.ed.jp/pdf/management.pdf
【ホームページ（キャリア教育）】https://teikyo-sho.ed.jp/career

＜東京都＞（種別：学校）　　足立区立第十二中学校

取 組 概 要

足立区立第十二中学校では、指導の重点にキャリア教育を掲げ、以下のとおり実践している。

キャリア教育で育むべき基礎的・汎用的能力を本校生徒の実態に合わせ、以下の四点とし、全教育活動においてキャリアの視点に立った教育を実践する。

(i)　相手の話を聞き理解する力
(ii)　自らの気持ちを素直に言葉にできる力
(iii)　お互いを認め合える力
(iv)　物事の課題を発見し協力して解決しようとする力

１　キャリア教育の視点に立ち、足立区版「キャリア・パスポート」である「夢デザインシート」を活用し、３年間を見通した進路指導体制の充実を図る。また、既存の職業だけでない、多様な職業選択に向けて困難を解決し、心豊かにたくましく自らの生きる道を探し続ける能力の育成を図る。そのために全教育活動を通して生徒一人一人の「役割」を意識させ、他者と協働して課題を発見して解決する力を身に付けさせる。
２　生徒が自己の特性を理解し、職業観・勤労観を育むために職場体験や上級学校調べ等を意図的・計画的に実施し、主体的に進路を選択する態度・能力を育成する。
３　学業生活の充実、将来の生き方と進路の適切な選択ができるように、「進路講演会」を行い、その講師として開かれた学校づくり協議会、同窓会等の地域人材の活用を図る。
４　キャリア教育の年間指導計画を作成し、汎用的な能力の育成を目指して教科横断的な活動・指導を実践し、全教育活動においてキャリア教育の推進を図る。

＜東京都＞（種別：学校）　　桜丘中学・高等学校

取 組 概 要

【次世代型企業インターンシップ】
現在、ピーナッツバターを作っているHappyNutsDayと連携をとり、一次産業～三次産業までの「職」に触れることで、得意を活かす機会の多さを生徒たちに経験させている。今年度は農業/加工/デザイン/広報/営業/販売などを実際に経験しつつ、最前線で活躍されている方々から特別講義の実施などを行った。子供たちは身の回りの眼に見える職しか知らず、狭い選択肢の中からキャリア選択をする可能性が高いという状況を打破するために1つの商品を追い、選択肢の幅を広げるきっかけをつくった。自分たちのオリジナル商品を作製し、オンラインストアでの販売を行った際には合計100万円の売り上げ目標を達成することができた。利益の使い道に関して、生徒たちが検討し、石川県の被災地、福島県の被災地、地域の子ども食堂など様々な方面に寄付をすることになった。このプログラムは、従来の１つの職業を短期間経験するのではなく、１つの商品に関わる職を追いかけるという特徴がある。

【起業家精神教育】
東京都起業家精神教育プログラムに採択されている。
中学2年生で行うこの授業では、4～5名の生徒を1つの会社として設定し、ターゲットの設定や価格の設定、収益などを考えた上で銀行にて現役で融資担当をしている方に集まっていただき、プレゼンテーションを行い融資をいただくことを目指している。融資完了後はオンライン上での仮想販売を行い優秀者を決定する。優勝チームのアイデアは学校として実現する。

【キャリアDaysの開催】
長期休暇中に本校にて開催される、卒業生を中心とした社会人の講演イベントである。生徒たちの進路を広げるために開催しており、これまで20名近くの講演を開催し、生徒は自由に聴くことが出来るようになっている。

【探究科の設置】
キャリア教育という、生徒のキャリアプランに大きく影響を与える取り組みを円滑に進めていくために、本校では10教科目として探究科の正式設置をしており、探究の授業のみを担当する教員の採用も積極的に行っている。

【ホームページ】https://sakuragaoka.ac.jp/lp/index.html

＜東京都＞（種別：学校）　　東京都立葛飾商業高等学校

取 組 概 要

当該校は、平成30年度から、商業科・情報処理科をビジネス科に改編した全日制商業高校であり、ビジネスに関する実学を中心とした様々な教育活動を通して、思考力、判断力、表現力を磨き、グローバル社会で求められる能力を身に付ける教育を推進してきた。中でも、以下に示す取組等を通して、「教育振興基本計画」（令和５年６月閣議決定）等で示された「産業界との連携によるキャリア形成」に積極的に取り組み、都立高校の範となる事例を数多く実践している。

（1）　出店体験

地元の農業協同組合と連携した「葛飾元気野菜」の実習店舗における販売や、東京都立足立特別支援学校と連携し、両校が作成した商品等の販売を通し、ビジネスマナー等の実践的な働く力を身に付け、コミュニケーション能力を育むことができた。

（2）販売促進及び新商品開発体験

販売促進に向けたコンテンツを作成し、ＳＮＳで配信する等、広告における課題に対して主体的に解決策を考えて販売戦略を実施した。また、新商品の開発では、地域で採れる小松菜を材料とした煎餅や羊羹を地元老舗店と共同開発するとともに、販売促進に効果的なパッケージを新たにデザインして販売し、創造性を育んだ。

（3）　地域企業との連携

ビジネスをテーマに地域の複数の企業と連携し、各企業のブランド力を向上させる具体策を生徒が主体的に考え、プレゼン形式で企業に向けて提案する授業を通して、実践的な知識や業界の動向、市場のニーズなどを学び、実践的な力を養った。

＜東京都＞（種別：学校）　　東京都立王子特別支援学校

取 組 概 要

【地域・産業界等との連係・協力によるキャリア教育の推進】
①民間から外部専門員を招いた除菌清掃体験（小学部５年生清掃教室）
②近隣就労継続支援Ｂ型事業所の見学と体験（中学部２年生進路見学）
③近隣特例子会社の見学と学校での業務体験（中学部３年生進路見学）
④製菓企業社員による顧客への感謝を考える特別授業（中学部１年生体験授業）
⑤民間企業の出身者などの就労支援アドバイザーによるビジネスマナー研修（高等部１，２，３年生）
⑥近隣大学や企業を定期的に訪問し、清掃活動を実施（高等部１，２，３年生）
⑦交流先高校文化祭での作業製品販売体験
⑧毎週木曜日午前に、身近な上級生として近隣の大学生ボランティアと交流（高等部）

【小学部から高等部までを設置する学校としての組織的・系統的なキャリア教育の推進】
①上級学部の作業学習の見学（小学部→中学部、中学部→高等部）
②生徒の障害の状態等を踏まえた少人数グループによる職場見学と体験（高等部１，２年生１日職場体験）
③卒業後の生活をイメージできるようにするための取組（高等部１，３年生卒業生の話を聞く会）
④高等部卒業後の生活をイメージできるよう、小学部の保護者も対象とした進路先見学会を実施（小学部２，４年生、中学部２年生、高等部１年生）
⑤お子さんが小学部時から高等部時までの一貫、継続した進路情報の提供
　小中学部向け進路懇談会（年３回）
　進路保護者会（高等部１，２，３年生）
　保護者会でのキャリア教育情報提供（小学部５年生、中学部２年生）
　小学部６年生保護者向け中学部見学会
　福祉ガイダンス（本校通学区域６区の福祉課担当者によるサービス利用の説明）
⑥ＰＴＡの主催による、年間３回の企業、就労継続支援Ｂ型施設、生活介護施設等の見学会を支援
⑦全教員に対してキャリア教育の推進に係る校内研修やビジネスマナーの習得に係る校内研修を実施

＜神奈川県＞（種別：学校）　神奈川県立茅ケ崎西浜高等学校

取 組 概 要

神奈川県では、キャリア教育のより一層の充実に向けて、すべての県立高校において、学校の教育活動全体で取り組む「キャリア教育実践プログラム」を策定し、それに基づいて各校でキャリア教育に取り組んでいる。

当該校では、36ヶ月キャリア計画を策定し、生徒一人ひとりが学力を伸ばし、人間性を深め、自身の第一希望の進路を実現できるように取り組んでいる。このために、自校の教員だけでなく民間企業が提供するオンライン学習サービスや外部模試なども活用しながら、生徒が将来の進路に主体的に取り組めるような進路指導を行っている。

例えば、１学年対象の進路講演会では、職業名が書かれたカードを「興味があるか」「自信があるか」の観点で分類し、ペア活動を通じて自分に向いている職業や興味の傾向を診断し進路選択について考える機会を提供した。他の講演会も含めて１年生の時期に進路について考える機会を設定することで、今後の高校生活の過ごし方について意識させることができている。さらに、教員が学期ごとにキャリアカウンセリング（個人面談）を行い、生徒のキャリアデザインをサポートしている。成績や進路希望、学校行事の振り返りなどをポートフォリオ形式で記録し、詳細な情報を残すことにより、キャリアカウンセリングを重視したアプローチを実施している。さらに、複数の大学と高大連携を実施しており、大学体験プログラムなどの機会を提供し、生徒が大学生との交流を通じて学習意欲を高め、キャリアデザインの充実を図る取組も行っている。

また、令和４・５年度にはインターンシップ地域連絡協議会の事務局として、地域のインターンシップなどをとりまとめる役割を担った。外部との関わりを積極的に持つことにより、社会で求められる実践的な能力や態度を身に付けるための学習機会を増やし、確かなキャリア教育の推進に努めている。

＜新潟県＞（種別：学校）　　三条市立第二中学校

取 組 概 要

総合的な学習の時間を中核に、全教育活動をキャリア教育で育成を目指す基礎的・汎用的能力で繋ぎ、これからの社会に生き、共によりよい社会を創り出すことができる人創りの取組を進めている。

キャリア教育の中核となる総合的な学習の時間では、それぞれの学年のテーマを１年生は「知る」、２年生は「学ぶ」、３年生は「考える」として、３年間を系統的に計画（下記）し、基礎的・汎用的能力の育成に努めている。また、令和５年度より県のアントレプレナーシップ教育推進事業モデル校の指定を受けたことにより、改めて「課題発見力・課題解決力」を全校体制で育成すべき資質・能力と設定した。

特に、２年生では、令和４年度より進めている「課題解決型職業学習」を充実させ、３年生では新たに「課題解決型地域学習」を実施しており、全校体制で地域等との連携・協力を図りながら、組織的・系統的にキャリア教育に取り組んでいる。

＜３年間の系統的な取組＞

１年生は「知る」をテーマに、仲間を知る、地域を知る、仕事（職業）を知る活動を行う。職業を知るでは、地域の事業所８か所から講師を迎え、職業講話を実施している。

２年生は「学ぶ」をテーマに、地域に学ぶ、職業を学ぶ活動を行う。具体的には、地域の事業所と連携した「課題解決型職業学習」を実施している。従来の職場体験を改め、事前に事業所訪問をして、事業内容や事業方針などの説明とともに、事業所からの「課題」を受ける。事業所からの「課題」に対して、生徒が職場体験をとおして解決案を考え、まとめ、提案する。生徒自身が、その事業所の事業に主体的に参画する意識を育むとともに、職業観・勤労観の醸成を図る。

３年生は「考える」をテーマに、よりよい地域の在り方を考える活動をとおして、自分自身の生き方について考えを深める「課題解決型地域学習」に取り組んでいる。具体的には、郷土＝三条に住む人たちが、今よりも幸せに暮らすための「幸せプラン」を仲間と考え、その実現のための新規事業や会社設立のビジネスプランの提案を行う。その内容を地域の起業家などに説明し、助言・指導を受けた後、事業案を修正しながら、提案としてまとめる。発表の場では、生徒相互の評価とともに、起業家及び保護者・地域の方からも評価を受ける。地域社会への参画意識を育てるとともに、課題発見力・課題解決力、さらにチャレンジ精神や創造性の育成を図る。

＜新潟県＞（種別：学校）　　新発田市立東中学校

取 組 概 要

令和５年度から、第２学年の活動を中心に、仕事に対する多様な考え方、働き方を知り、自分自身の進路や地域の将来について考えることを目的に、学校、市内の多様な職種の事業所及び市教育委員会と連携した教育活動を実施している。

生徒は、従来の職場体験学習だけではなく、受け入れ先の事業所との事前事後の面談・取材を行い、生徒と事業所が一緒になって、地域や事業所の活性化に向けた課題（ミッション）と、そのための生徒自身の生き方（アクション）を考える活動に取り組んでいる。生徒が自らの進路や将来設計を具体的にイメージするとともに、郷土愛や地域貢献意欲の醸成につなげることができた。

＜活動の流れ＞

〇課題解決型職場体験事業所・担当者合同研修会

新発田市教育委員会において、地元NPOのファシリテーションのもと、受け入れ先の事業所の代表と教員による合同研修会を実施し、学習のねらいや進め方を共有する。

〇事前学習会「生き方トーク・仕事トーク」

受け入れ先事業所の担当者に来校してもらい、２部構成として前半は事業所の担当者自身のこれまでの生き方・人生観について、後半では受け入れ先の職種の特徴や具体的な業務内容等を語ってもらう。あわせて、事業所の担当者から、地域や事業所の課題（ミッション）が提示される。

〇職場体験学習（２日間）

生徒は職場体験中に、地域や事業所の活性化に向けた課題（ミッション）を解決するための情報収集を行い、それぞれの事業所から助言をもらいながら提案を作成するとともに、自身の生き方について考えを深める。

〇事後職場訪問学習

一定の期間中に、職場体験を行った各事業所を再度訪問し、体験を通して考えた課題（ミッション）に対する自身の生き方（アクション）を伝え、事業所の担当者から評価してもらう。

〇職場体験学習からの学び及びアクション発表会

受け入れ先の事業所の担当者を招待し、これまでの学習の成果を発表し共有する。

＜新潟県＞（種別：学校）　　新潟県立白根高等学校

取 組 概 要

学校と行政及び地域が連携・協力したキャリア教育の取組

新潟市南区との連携協定（※）を活用し、未来を担う人材育成及び新潟市南区の街づくりにつながるキャリア教育に取り組んだ。

（※キャリア教育活動を支援するコーディネーターの派遣等）

【１学年】地域理解とコミュニケーションスキルの育成

講演会やゲストを招いた対話型講座を実施することで、地域への愛着を醸成するとともに、コミュニケーション能力を向上させた。また、自分の将来の生き方や在り方についての考えを深めた。

【２学年】地域産業への理解と労働の意義について、理解を深める

地域の職業人へのインタビューや職場見学を行い、「地域を支える仕事人の図鑑」という冊子にまとめ、刊行した。地域の職業人が活躍する場面等から、自分の将来像を具体的に考えるとともに、地域産業への理解を深め、職業観を育成することができた。

【３学年】進路実現に向けた実践と自己理解

「南区仕事人とのトークセッション」を行い、進路意識を啓発するとともに、進路相談等を通じて、将来のキャリアプランを「自分図鑑」という自分史にまとめた。生徒の自己理解と自己管理能力が向上し、将来のキャリアに対する明確なビジョンをもつことにつながった。

【学校全体での取組】白高 Ripple（波紋）プロジェクト～地域へ広がる若き力～

「白高ヤングボランティア」（新潟南警察署）や「コミュニティコーディネーター養成講座」（白根地区公民館）等への参加により、生徒自身のコミュニケーション能力や他者と協働する力を育成した。

＜富山県＞（種別：学校）　　魚津市立道下小学校

取 組 概 要

「魚津ふるさとキャリア教育が目指す具体の姿」を基に、地域の素材から学ぶ「ふるさと教育」と、社会的・職業的自立に向けた「キャリア教育」を融合した「ふるさとキャリア教育」を行っている。年間指導計画の下、育みたい基礎的・汎用的能力を明確にして組織的・系統的に実践を行うとともに、各学年の計画には市教育委員会主催「ふるさと発見バス」「地場産業体験学習」を活用した内容を位置付け、地域のよさを学び、働くことへの関心を高めている。

また、「ふるさとキャリア教育」での学びを「キャリア・パスポート」で振り返ることを通して、新たな学習や生活への意欲につなげたり、将来の在り方や生き方を考えたりしている。

【活動の概要】「各学年の主な活動」

○全学年「縦割り班遠足をしよう」

異学年の仲間と協力して学ぶことや地域で働く人へのインタビューや交流を通して、社会への関心を高めたり社会との関係を学んだりする。自分たちで見学先や活動内容の計画、見学施設等への依頼・連絡等を行うなど、児童が主体となって準備を行う。20 年以上継続している活動であり、地域の会社や施設等と深いつながりを築くとともに、学校が育てたい児童像を地域と共有し、活動への理解と協力を得ている。

○１学年「みんななかよし～あきまつりをしよう～」

地域探検活動を通して、学校周辺の自然を身近に感じる学習に取り組む。

○２学年「おいしいやさいをつくろう」

野菜の生産に携わる地域住民を講師に招き、野菜の育て方や野菜づくりの工夫を教わる。収穫した野菜は、地域住民と共に調理をして味わう。

○３学年「道下小学校のれきし」

地域の移り変わりについて住民から話を聞き、学校や地域の歴史を調べる活動に取り組む。資料を調べたり、取材を行ったりする中で、人々の思いや願いによって発展してきた地域の歴史について関心を高める。

○４学年「伝えよう！地いきの伝統」

地域の獅子舞について、保存会の方々の思いや願い、地域の伝統芸能を伝承するための様々な努力や工夫を学び、ふるさとに伝わる伝統芸能について関心を高める。

○５学年「広げよう！地域の自然・特産物」

県産ベニズワイガニを教材に、漁業従事者の願いが様々な商品開発や販売方法の工夫に実現されていることを学び、ふるさと魚津や富山の魅力をアピールする方法について考えを深める。

○６学年「未来へつなごう！ふるさと魚津の歴史自慢」

縦割り班遠足で地域のよさや働いている人の願いについて発見したことをまとめ、学校ホームページに掲載して広く発信する。

＜富山県＞（種別：学校）　　高岡市立中田中学校

取 組 概 要

生徒一人一人の社会的・職業的自立に向け、必要な基盤となる能力や態度を育成するため、事前・事後指導を含めた職業講座や職場体験を積極的に取り入れ、地域・産業界等との連携・協力を主体的に図りながら、組織的・系統的にキャリア教育に取り組んでいる。

＜体験を基にした、生き方の探究と自己実現を目指す系統的なキャリア教育＞

○【１学年】ものづくり・デザイン科の授業で、地域から講師を招き、案山子の設計から制作までを班で行い「中田かかし祭」に出品する。総合的な学習の時間に調べた地域の特色や歴史、かかし祭の意義等の知識と結び付けながら、地域の方と交流を通して、地域への理解や愛着を深める機会としている。

○【２学年】職業体験「社会に学ぶ『14 歳の挑戦』」では、地域の事業所の人々との関わりを通して、生徒が社会や地域の一員としての自覚を深めたり、自分の進路を考えたりしている。また、体験から学んだことを下級生に発表する機会を設け、１学年の生徒が活動への見通しをもつきっかけとしている。

○【３学年】上級学校見学やオープンハイスクールへの参加を通して、希望の実現に向かって努力し、自らの意思と責任で主体的な進路選択ができるようにしている。

○【全学年】令和４年度から、全校生徒を対象に職業講座を実施している。PTA の協力を得て、職種の違う保護者を講師に招き、令和４年度は学級単位で、令和５年度は生徒が興味のある職種を選択し、働くことの喜びや苦労、現代的な課題についての話を伺った。自分自身を振り返り、今の自分に必要なものは何かと考える生徒が多くみられ、キャリア発達を促す上で有意義な活動となっている。

＜「キャリア・パスポート」への蓄積と活用＞

○生徒が自らの学習状況やキャリア形成を見通したり、振り返ったりできるよう、「キャリア・パスポート」への蓄積の充実に努めている。また、各種記録や振り返りを基にしたキャリア・カウンセリングを通して、生徒の自己理解の促進と、主体的な進路選択につなげている。

＜生徒会活動を活用したキャリア教育＞

○文化放送委員会主催「ホタルのともしび週間」（人権週間）、「ホタルのともしび集会」では、人生を自らの意思で切り開いた偉人の生き方や名言をプレゼンテーションソフトで紹介し、キャリア形成に必要なことを学んだり、全校生徒でソーシャルスキルトレーニングを行い、人と人との関わり方について学んだりしている。

＜地域と連携したキャリア教育＞

○科学部員が、地域の環境保全推進協議会や児童クラブとともに、水辺の生き物調査に参加し、生き物の観察や、水の透明度の測定を行っている。地域の環境の現状を知り、将来の地域環境について考える機会となっている。

＜富山県＞（種別：学校）　　富山県立石動高等学校

取 組 概 要

平成１６年度から１８年度までの３年間、文部科学省より「キャリア教育推進地域指定事業」の研究地域として、小矢部市内の小・中・高校で一貫したキャリア教育プログラムの開発や地域と学校の連携について取り組んできた。普通科及び商業科の学習活動や進路支援活動において、広く地域と関わりながら知識・技能を向上させ、職業観・勤労観を育成させることを目指し、学校教育活動全体を通して、キャリア形成に向けた学びを深めている。

１.地域と連携したキャリア教育の取組

生徒と小矢部市長との意見交換会を開催し、小矢部市の未来像や活性化の効率的な方法についてグループ協議を行い、課題解決策の提案を行った。また、地元大学生と小矢部の未来を考えるワークショップを開催し、地元の魅力と課題を共有し、将来を思い描く取組を行っている。また、ＰＴＡによる進路講話「自前講座」を開催し、小矢部市内に勤務している９つの業種の講師を招聘して進路の視野を広げ、適切な職業観を育成している。

２.職場見学・職場体験・インターンシップ

普通科では、地元企業での体験活動等を含む「富山の企業魅力発見推進支援」事業を活用したバスツアーを実施するほか、生徒の進路希望に応じた学校独自のインターンシップを行い、将来を見通したキャリア教育を積極的に行っている。３年間を見通しながら計画的にキャリア教育を行っており、大学や企業の見学及び講師の招聘を積極的に行うなどの工夫をしながら、学校教育活動全体を通して、キャリア形成に向けた学びを深めている。

商業科では、小売店舗での販売委託実習や小矢部市祭りの実行委員会との連携による祭礼でのイベントボランティア、商工会や地元企業と連携した商品開発やフィールドワークを行い、問題解決能力や自発的・創造的な学習態度を育成している。平成３０年度から、ＪＡいなばと連携して食品ロス削減に向けた調査・研究に取り組み、食品ロスを出さないオリジナルレシピの考案や配布を行い、地元スーパーでの啓蒙活動を実施し、令和４年度に富山県食品ロス・食品廃棄物削減優良活動団体表彰を受けた。また、令和２年度からは、小矢部市の特産であるハトムギを使用したオリジナルレシピの考案や地元の蜂蜜を使用した商品の開発に取り組んでいる。

＜石川県＞（種別：学校）　　金沢市立工業高等学校

取 組 概 要

【学校の概要及び教育理念】

本校は、昭和３年に創設された金沢市が設置している唯一の高等学校であり、現在、機械科、電気科、電子情報科、建築科、土木科の５科を有し、金沢市及び地域産業の発展に貢献するために、質実剛健にして勤勉進取の気概を備えた有為なる人材を育成することを目指している。

【３年間を見通したキャリア教育の実践】

①生徒への進路ガイダンスと保護者への進路講演会

生徒の社会的・職業的自立に向けて、各学年で地元を中心とした講師による進路の講演やキャリアプランを学ぶ進路ガイダンスを実施している。また、１・２年生の保護者を対象に保護者としての生徒との向き合い方などについて進路講演会を実施している。生徒、保護者、学校がつながった取組となっている。

②卒業生就職企業アンケートからキャリアプランをみつめる取組

卒業生就職企業に対し、求める人材や卒業生の様子、離職状況のアンケートを定期的に実施し、その結果を進路ガイダンスを使って紹介している。これは生徒のキャリアプランをみつめ今後の高校生活の在り方を考える機会になるだけでなく、企業が求められる人材の変化を把握し、進路のミスマッチや早期離職の防止に繋げている。

③模擬の進路活動体験

２年生を対象に模擬の進路活動として、企業で活躍している先輩方や進路決定した３年生との懇談会を実施し、進路先を調べ希望する就職先・進学先に提出する履歴書等を作成している。また、３月には教員が面接官となり進路模擬面接を行い、進路活動の一連の流れを経験し、３年次につなげている。これにより、生徒は見通しをもって進路活動に取り組んでいる。

【地元の産業界・自治体・地域と連携した取組】

①地元企業でのインターンシップの取組

インターンシップの取組として、２年生を対象とした地元企業への５日間の就業体験学習、１０日間の工業人養成企業実習（デュアルシステム）を実施している。また、３年生の就職希望者対象には３～５日間のインターンシップを実施している。これらの取組は生徒の職業観や勤労観の醸成につながっている。

②地元の産業界・自治体からの実践的なものづくりの機会の提供

金沢市の協力のもと、同市の公衆トイレの設計について金沢建設業協会が本校生徒を対象とした建築コンペを実施している。毎年、本校建築科３年生が参加しており、令和６年８月には、金沢市内の公園に４例目となる生徒設計の公衆トイレが建設され、生徒の地域への理解と愛着を育み、地域貢献に繋がっている。

③地域の小学生対象ものづくり教室の実施

近隣の小学生を招いて毎年１２月に生徒が先生役となって親子電子工作教室を本校にて実施している。自分たちの技術や知識を小学生に伝えるともに、ものづくりを通じた地域貢献を行っている。

＜福井県＞（種別：学校）　　高浜町立高浜中学校

取 組 概 要

全校生徒で取り組む企画提案型の探究学習「高浜未来創造プラン」を実施。多様な地域人材のサポートのもと、様々な体験や調査活動を通じて地域の課題を地域と共有し、生徒の主体的な課題解決に取り組んでいる。独自にルーブリック評価を作成し、キャリア発達を生徒自らが実感しながら取り組めるようにしている。

〇グループ数：全校生徒２４６名（４１グループ）　※令和５年度

１年生７７名（１５グループ）、２年生９３名（１３グループ）、３年生７６名（１３グループ）

〇活動方法

次年度への繰り越しや異学年交流（合同）を可とし、適切に縦割り活動を取り入れる等、生徒の主体性を引き出し、効果的な学習環境の構築を図っている。

〇協力団体

町役場、町会議員、民生委員、青葉山麓研究所、高浜まちづくりネットワーク、地域おこし協力隊、若狭高浜漁業協同組合、福井県菓子工業組合高浜支部、高浜町内各公民館、高浜町郷土資料館、砕導山城跡保存会、青葉山ハーバルビレッジ、高浜まちなか交流館、高浜町漁村文化伝承館、ＵＭＩＫＡＲＡ、高浜明日研究所、永野農園、パピィ フルーツパーク、高浜国際交流協会　等

〇異校種連携

若狭高等学校、舞鶴工業高等専門学校、九州保健福祉大学、高浜町内各小学校、高浜町内各保育所・認定こども園

〇課題の一例

特産品の魅力発信、漁業活性化、地域イベントの企画・運営、食品ロスや海ゴミ等の社会問題　等

＜年間スケジュール＞

５月～７月　課題の設定（地域との連携、地域課題の投げかけ）

８月　起案書の作成（テーマ、設定理由、情報の収集、地域人材との連携、）

９月　体験・調査活動、フィールドワーク実施（情報の収集・整理・分析）

研究実践（研究報告書、プレゼンテーション作成）

１２月～２月　研究発表会の実施

２月　ルーブリック評価、ポートフォリオ「研究のまとめ」の作成

※ルーブリック評価（生徒相互評価と外部評価）獲得したい４つの力

『探究する力』、『協働する力』、『社会参画する力』、『自己実現する力』

＜福井県＞（種別：学校）　　福井県立若狭東高等学校

取 組 概 要

福井県立若狭東高等学校は、昭和６２年に再編された総合産業高校で、農業、工業、商業の大学科を有している。地域に根ざした活動を軸に、地方創生の核となる人財育成を意識して教育活動を展開している。

＜取り組み＞

１「インターンシップ」

２年生全員、７月に関連企業等で３日間のインターンシップを実施。生徒の就業意識を高め、進路選択の参考としている。

２「チルフェス（子ども食堂）」

生活創造科３年生が、夏祭りをイメージした子ども食堂を企画。約１４０名の地域の子供たちと保護者が参加。工業科による「ミニ新幹線」による乗り物体験など、各学科で培った知識や技術を活かした地域貢献活動を実施。

３「夜の市連携プロジェクト」

ビジネス情報科、地域の夏祭りへの若者参加と活性化のために、空き店舗を活用したお化け屋敷を開催。地域の課題解決に貢献。

４「ふくいの産業」

学校設定科目、１年生全員。地元企業の経営者・技術者等による講演会を実施。地域の産業に対して理解を深める。

５「商品開発」

３年課題研究。地域と連携した薬用植物コウギクを使った商品開発、オリジナル珈琲、マフィン、イチゴジャム。学科間の連携も取り入れて実施。

６「グリーンプロジェクト」

生徒会とラグビー部が中心となって、県内高校では初めてとなる校庭フィールド部分の芝生化を実施。定植作業には地域住民や関係団体が参加し、地域の憩いの場としても活用予定。

＜福井県＞（種別：学校）　　福井県立福井東特別支援学校

取 組 概 要

福井県立福井東特別支援学校は、病弱、肢体不自由に対応する特別支援学校である。慢性疾患のある生徒、不登校傾向のある生徒、医療的ケアを必要とする生徒など様々だが、一人一人の特性に応じた課題解決や自己実現を目指したキャリア教育を教育方針として掲げている。特に、地域や事業所との繋がりの中で「より本物に触れる」体験を積極的に取入れた授業づくりや、ｅスポーツを活用した交流など、自尊感情を高め他者と強調しながら、自立し社会参加するための基盤となる「生きる力」を培うことを目指した取り組みを積極的に行っている。

＜取り組み＞

１．「産業現場等における実習」

高等部では、個に応じて３～１３日間の期間を設定し、企業や福祉サービス事業所などの産業現場での実習（計５回）を展開。

２．「本物に触れる体験活動」

慢性疾患等により校外活動の経験が少ない生徒に対し、農園での作業や直売所での販売、越前和紙の企業と連携した製品開発など、地域の企業等との繋がりの中でより本物に触れる活動を展開。

３．「『夢かなタイム』の活動」

総合的な探究の時間や自立活動の授業で、将来の「なりたい自分像」を把握し課題解決や自己実現につなげる取り組みを実施。（自己チェックシート、自分・仕事・社会を知るノートの活用、夢を叶えるための実践活動タイム　等）

４．「事業所説明会・見学会」

本人・保護者が、早期から進路先のほか卒業後の生活を考えたり、気軽に相談できる関係機関と繋がったりできるように、説明会・見学会を年６回開催して情報交換を実施。

５．「ｅスポーツ体験・交流会」

ｅスポーツ体験会を定期的に開催し、学校間や地域活動センターとの間でオンラインによるｅスポーツを通したコミュニケーションや交流の場を設定。

＜山梨県＞（種別：学校）　　山梨県立青洲高等学校

取 組 概 要

山梨県立青洲高等学校は、甲府盆地南西端に位置するこの地域で唯一の高校である。英語科を中心にグローバル教育を展開した市川高校、地域産業のニーズに応える工業の教育実践を行った峡南高校、商業の実践教育を行った増穂商業高校という３校それぞれの伝統を引き継いで、令和２年４月に誕生した普通科・工業科・商業科から成る総合制・単位制高校である。これまで単独の高校では難しかった幅広い教育活動を推進している。

「地域や国際社会の様々な分野で活躍する人材を育成し、国内外とのつながりを生み出し、明日を創り出していく学校」をスクールミッションに掲げ、地域と連携した教育活動を行っている。総合的な探究の時間を「青洲学」と称し、1年次では「地域の防災」と「地域の伝統・文化・産業」を中心に専門家の講義や施設訪問を行うフィールドワークを展開している。「地域の防災」では避難所HUG体験と防災講話を実施し、地域に特化した災害について学ぶことで、自分たちの住む地域について深く理解し、課題を考えることができた。「地域の伝統・文化・産業」では、令和５年度から外部プログラムを一部導入し、探究活動のテーマ設定に向けて限られた時間を有効に活用した。その上で地元企業等を訪問し、郷土の魅力や課題について直接知る機会をもつことができた。「青洲学」では複数学科の生徒が一つの班を形成して協働して探究に取り組んでいる。班の取組の中でコミュニケーションスキルを高める場面があり、生徒アンケートでも高評価を得ている。

本校は市川三郷町と包括的連携協定を結んでおり、「瑠璃店」と呼ばれる地域交流行事では、地域の特産物や地元の店で扱う商品を本校生徒が販売する機会を提供している。また、地元企業と連携したものづくり体験、国際交流体験、茶道や華道といった伝統文化体験も実施している。さらに、ゆずやとうもろこし等の収穫体験や富士川の河川清掃を通じて、地域在住の海外の人々と共に地域の特色や課題について考え、英語で表現することで交流を図る行事も企画している。加えて、町の国際交流協会と共催で、町内の小学生と地域在住の海外の人々が交流するイベントを企画段階から関わり、当日の運営まで主体的に行っている。企画の段階から参加することにより、どのようにしたら相手が喜んでくれるのかなどを考えながら、実施内容を検討することができた。

企業との連携では、工業科では技術的な説明を聞くことができ、商業科ではビジネスマナーについて理解することができた。また、地元企業で働く卒業生を招き、社会人の第一線で働く卒業生の興味深い話を聞くことができた。専門分野に関わる講義等を通して、今学習している内容との関連性や卒業後の進路について具体的に考えることができる機会になった。工業科と商業科が連携した事例としては、地元の生コンクリート業者と和紙業者をつなぐパートナーシップを構築し、コンクリート排水の有効活用と和紙作りのコストダウンを達成した。さらに、和紙サウナハットの販売によって利益を上げることに成功した。この研究は高く評価され、令和５年11月に第31回全国高等学校生徒商業研究発表大会で最優秀賞、文部科学大臣賞、産業教育中央会賞を受賞しした。

このような教育活動を通じて、自ら学ぶことの意義や自らの在り方・生き方を考え、他者との関わりや地域の課題解決に向けた取組を進めるなど、体験的な学びからキャリア形成を図っている。

＜長野県＞（種別：学校）　　大町市立美麻小中学校

取 組 概 要

１　学校の教育理念とキャリア教育

美麻小中学校は、「個の生き方や考え方を尊重する学校づくり」を教育理念とし、「心と体をひらいて学ぶ美麻の子」を学校教育目標に据え、「自律した学習者」の育成をめざし、教育活動を展開している。その柱となるのがキャリア教育である。「自分の強みを生かす仕事をしたい」「地域の方の生き方にあこがれる」「調理師になるには学びが大事だ」と、自分の生き方と学びを融合し、地域の方と協働した学びを進めている。各教科・生活科・総合的な学習の時間での活動は、「私の夢」や「将来なりたい職業」の記述と共に、「キャリア・パスポート」「大町ドリーム」に個々の足跡として蓄積され、教師や保護者の励ましの言葉が添えられる。

２　取り組み

美麻小中学校は、平成２６年４月に学校運営協議会を設置し、コミュニティ・スクールとなった。それ以前からも、地域の方々の学校づくりへの熱意が高く、地域学校協働活動が盛んに展開されていた。現在は、運動会や文化祭も地域と学校の合同開催となっている。キャリア教育においても、小学生の地域巡りや地域産業の見学、中学生の職場体験など、地域の方々の理解と協力のおかげで、現在も快く受け入れていただいている。コロナ感染症が流行り、受入れが困難な時は、地域コーディネーターが意欲的に地元事業所と調整を進め、限られた条件の中、歩みを止めずに職場体験を行うことができた。現在は、児童生徒が願う主体的な職業体験の実現となるよう、より多くの職種の事業所を提案するなど、熱心に活動が展開されている。学校運営協議会の委員からは、探究することを推奨する意見をいただき、生き方と学びを融合するキャリア教育の推進を願っている。また、そのために「協力を惜しまない」という声があがっている。学校では「問い」を大切にしたキャリア教育の授業を進めている。授業を展開していく際、地域の方が協働して関わってくれることは、質の高い授業につながり、職員の働き方改革にもなっている。

具体的な地域学校協働活動と連携協働した取り組みの例をあげると、

・１年生　イワナの孵化　イワナの放流
・２年生　学校周りの材　朴葉を使って朴葉もちづくり
・３年生　白樺のベンチづくり
・４年生　僕たちのドームテントづくり　茅葺き職人から学ぶ
・５年生　美麻の粘土を使って陶芸
・６年生　地域の民話を調べ敬老会へのプレゼント制作
・７年生　黒豚を通した食のあり方　黒豚の餌　フードロス軽減　ＳＤＧｓ
・８年生　地域の特産「花豆」を活用した株式会社での活動　栽培　商品開発
・９年生　地域の宝を読み込んだ「美麻かるた」の製品化　かるたとり会
　　獣害駆除と鹿皮加工　ペンケースやアクセサリーの商品化
・５～９年生　夢の時間(総合的な学習の時間)　個々に探究のテーマを決め、主体的な学びを進めている。
・希望者　地域が主体で開設している放課後チャレンジ教室 子どもと大人が混じっての諸活動等、多分野、多岐にわたる活動を展開している。子どもたちの自己肯定感・自己有用感の高まりのみならず、参画される地域の方も元気になる成果をあげている。

＜長野県＞（種別：学校）　　長野県上田千曲高等学校

取 組 概 要

長野県上田千曲高等学校は、キャリア教育の一環として、令和４年度より「信州 P－TECH」(Pathways in Technology Early College High Schools の略称)事業が行われている。これは、高等学校、県工科短期大学校そして地元企業との連携及び協力を通じて、ものづくりの技術を有した DX 人材育成を目指す事業である。始まりは、高校生キャリア教育支援のために、IBM 社及び地元企業の地域貢献事業であった。現在、職業教育や技術教育に焦点を当て、企業が幅広く参加する教育モデルとして、世界 28 か国で展開されている。事業計画は高等学校の３年間と工科短期大学校の２年間を合わせた５年間を１サイクルとするものであり、本年は３年目となる。企業展開等のプログラムは年４回実施されるコンソーシアムにて決定していくことを想定している。

初年度の 2022 年度は、１年生を対象に学校設定科目「ものづくり学」を開講し企業講話を実施、10 月は工科短期大学校にてスタートアップ講演会を実施した。

２年目の 2023 年度は信州 P-TECH コンソーシアムを充実させ、１年次の事業を拡大しながら２年次の DX 進路講話等、プログラムの拡充を図った。

３年目となる 2024 年度は高校３年次において、従前より本校からの進学者が多い工科短期大学校との連携事業が本格化している。地元企業とのつながりが強く、本校からの卒業生は先端技術を学び地域の企業人として貢献している。その中で、今年度は、高校の授業である課題研究の時間に工科短期大学校に出向して、EV カーの製作にも取り組んでいる。ものづくり学も年々進化しており、各学年１単位で行われる授業では、P-TECH 事業と合わせて、キャリア支援講習（インターンシップ）の事前事後学習、知的財産権学習なども行っている。

次年度以降は、工科短期大学校へ進学した本校生徒を対象に、DX 人材としての専門力の育成や企業人、社会人としての基本能力の育成のため、メンタリング、インターンシップそして課題研究の取組が推進されていく。事業展開と成果を振り返りながら、DX 人材の育成に努めている。

＜岐阜県＞（種別：学校）　　岐阜市立陽南中学校

取 組 概 要

１　活動の概要

①「教師版インテンシブ」と題し、令和５年６月 30 日（金）の２時間、令和５年９月 30 日（土）の２時間で合計 45 講座開講した。（別紙１・２講座一覧参照）

②地域の方々を中心に特別講師を務めていただき、学校では学ぶことができない専門的な知識・技能を習得できる講座を開設した。

③生徒たちは、事前に配付される講座一覧の中から、各自の興味のある講座を選択し、合計４講座受講した。講座の種類は、「講義形式」「体験・活動」「生き方を学ぶ」の３種類とした。

２　該当項目に関わる県内施設や地域人材等の外部資源を活用

地域の高等学校教諭や民間企業の方々、岐阜市教育委員会で主催する講座、陽南中学校を卒業した大学生、海外で活躍する日本人等、２日間で合計 101 名の講師を招いた。特に令和５年度は、「長良川大学ガイドブック」「君が夢を拓くプロジェクト」の開講講座を積極的に活用し、平日は行政機関を中心に、土曜日は民間企業等を中心に講座を開設した。

３　活動を通しての生徒の変容

日本赤十字社岐阜支部から講師を招いた講座では、ハザードマップを活用し、校区内で起こり得る災害に対する備えを学ぶとともに、止血包帯法を体験した。看護師になる夢をもっている生徒は次のように振り返った。「今日の講座を聞いて、水害によって堤防が壊れて避難できなくなる可能性があるから、ハザードマップを理解しておくことが大切と感じた。また、包帯法について教えてもらったけれど、自分の手当てはもちろん、災害が起こった時は、中学生の力が求められていると知って、自分も誰かのために役立てることが他にないか考えたいと思った。」この生徒は、講座を通して、災害時に被害を減らし人の命を守るためには、正しい知識と技能が必要であることに気付き、非常時には中学生でも貢献できることがあると考え、今の自分にできることを増やそうと、夏休みには医療機関の職業体験に自ら応募し参加した。このように教師版インテンシブを通して、自己の生き方について考える姿がみられた。また、講師の方の「仕事の 90％は準備が大切である」という言葉から、中学校生活での学習や部活動等に繋がる部分があると気付き、テストや大会に向けて継続して努力することの大切さを学び、自己の生き方について考える生徒もいた。

消防団を講師として招いた講座では、組織の仕組みや入団のきっかけ等から勤労観を学ぶとともに、団員の方の消火作業を見たり、消火訓練を体験したりした。ある生徒は、消防団がボランティアで組織されていることや、地域に住む人の努力によって地域が守られていることを知り、消防団の活動に興味・関心をもつとともに、自身も将来所属したいと考え、自己の生き方を見つめる機会にすることもできた。

４　終わりに

令和５年度に実施された全国学力・学習状況調査の生徒質問紙「将来の夢や目標を持っていますか」に対する回答結果から、真面目に学習や部活等に取り組んでいる生徒が多い反面、全ての生徒が将来への目的意識をもって取り組んでいるわけではないという傾向を課題として捉えている。令和５年度は「教師版インテンシブ」を２回開催することに加え、岐阜市教育委員会が実施している「ぎふ MIRAI’s」の活動に参加したり、校外に出て SDGｓを推進している企業の方の話を聞いたり、体験活動をしたりすることを通して、生徒が専門的な知識・技能を習得したり、職業観やプロの生き方を学び、自己の興味関心を広げたり、生き方を考えるきっかけとしたりすることができるような教育課程が仕組まれた。実践後、令和５年 11 月に実施した生徒アンケートでは、「夢や希望をもつよい機会となった」と回答した生徒の割合は 94％であり、大変効果のある教育活動であることが分かる。

今後も地域の人・もの・こと等から、ふるさとの魅力等を知るとともに、自らの生き方を考える生徒の学習活動の充実が図られることを願っている。

＜岐阜県＞（種別：学校）　　養老町立東部中学校

取 組 概 要

(1)職業体験講座の実施

平成29年度より約30団体と提携し、校内において職業体験講座を実施している。「ふるさと学習」と「キャリア教育」の両立をねらい、講師については、養老町にゆかりのある方（出身、在住、勤務等）に依頼している。また､講話や講義ではなく実習活動を中心とした講座とし､プロの方から直接技能指導等を受ける場としている。職種は販売業から運送業、建築、消防、警察、サービス業、製造業と多種にわたるものを準備し、毎年違う講座を受講するように設定している。

実際に体験することで、より各職業への理解に加え、働くということについての実感を高めることをねらっている。さらに、地域ゆかりの方に講師を依頼することで、地域の「ヒト・モノ・コト」についての興味・関心を高めるとともに、新たな人材の見直しの場とすることをねらいとしている。

活動を通して、生徒は進路設計の判断材料の一つとできるとともに、小学校から続くふるさと学習をより実感の伴ったものとして感じることができるようになった。

(2)学校運営協議会を生かした組織的な職場体験活動の実施

令和６年度より、第２学年で実施している職場体験活動について、町商工会で活躍されているPTA会長が学校運営協議会委員である縁で、商工会議所と連携して進めている。これまで、体験先との交渉について教職員の負担がかなり大きかったものが、商工会議所からの声掛けで各事業所にもスムーズに意図や活動概要が伝わり、負担の軽減を図りつつ、職場体験活動を充実させることができた。商工会とは、上記の職業体験講座でも連携し、講師の選択等の活動を進めている。

コロナ禍では、職場体験の実施を断わられる事業所も多く、３年間活動がほとんど停止していたこと、業績不振等の理由で生徒の受け入れが不可能と回答する事業所等も多い中、商工会議所が主体となって積極的に声掛けを行ったことで、スムーズに体験場所を確保することができた。

また、子ども議会への参加を通して町役場と連携し、町主催のイベント業務支援を行ったり、スポーツ振興、福祉活動調査などを行ったりしており、ふるさと学習及びキャリア教育の締めくくりとして活用している。

【ホームページ】https://www.yoro-edu.jp/jhs-toubu/docs/2023122600215/

＜静岡県＞（種別：学校）　　静岡県立藤枝北高等学校

取 組 概 要

１　取組　「藤北ドリカムノート(「キャリア・パスポート」)」を活用したキャリア教育の推進

２　背景　多様で予測不可能な時代を生き抜くためには「学力」の中でも特に「主体的に行動する力」や「基礎的・汎用的な能力(思考力・判断力・表現力)」が必要であるとされ、将来、社会や人のために働く「志」を高校生段階で身につけておく必要がある。

３　目的　学習等における成長の変化を記録することにより、自分が取り組むべきことを理解し、自ら考え行動する主体的な態度を身につける。この主体的な態度を身につけるためには、自分で目標・計画を立て実行し、反省・改善することができる自己調整力の醸成が必要である。

４　生徒の心構え

・毎日の学校生活において、様々なことに真剣に挑戦し、成長を確認する

・ＰＤＣＡサイクルを大切に生活する【目標→実行→反省→改善】

５　特色

(1)学校独自のルーブリック評価表の活用

基礎的・汎用的能力を４つの大項目と 15 の評価項目に分類した評価表を用い、どこまでができていて、さらにどこまでを目指すのかを確認できる

(2)定期的な担任面談を通した意識継続の仕組み

・４月初期指導：進路希望、目標を記入→担任面談(５月)

・７月特別日課：１学期の成績等・反省・改善・目標を記入→３者面談(７月)

・12 月特別日課：２学期成績等・反省・改善・目標を記入→担任面談(１月)

・３月特別日課：学年末成績等・反省・改善を記入→担任面談(新学年５月)

※担任は、生徒からの報告に助言し、PDCA サイクルの状況を確認する

６　成果

生徒はドリカムノートを通して自分に合った進路や生き方について考え、見通しをもって生活できる。このため学年を追うごとに学校に対する満足度が上がり「将来の進路や生き方について考えている」と答えた昨年度３年生は 95.5%である。また「学校生活が充実している」と答えた生徒が 92.6%であったことからもキャリア教育の取組が、高い学校満足度に反映されていると推察できる。

＜静岡県＞（種別：学校）　　静岡県立御殿場南高等学校

取 組 概 要

静岡県立御殿場南高等学校は、「地域の若者を集めて社会に貢献できる人材を育成する」ことを意味する建学の精神「鍾駿」のもと、昭和38年の開校以来、地域社会を担うリーダーの育成を教育目標とする普通科高校である。生徒は「文武両道」を掲げ、９割以上が四年制大学へ進学している。特筆すべきは、大学での学びを「大学卒業後の先」の社会と結び付けた志を育むキャリア教育「Ｃプロジェクト」を早期から導入したことである。しかし近年では、少子化の急激な進行に加え、地元中学生の他地区公私立高校への流出が課題となり、高校生段階で地域社会との接点が希薄となることが懸念されている。また、地域からは四年制大学進学を機に地元を離れる若年層の増加により、地域に未来を担う人材の不足を危惧する声が上がっている。

そこで、令和３年度からＣプロジェクトを「完全探究型」に改編、令和５年度に新設した探究学習推進室を軸に、地域と連携したキャリア教育に発展させた。高校生が地域をフィールドとして自ら課題を設定し、解決に向けて考え行動するプログラムとすることで、地域への理解を図り、自分の将来と社会の在り方を結び付けることが可能となる。その目的達成のため、地域と本校探究活動の目指す方向性を共有し、それぞれが高校生育成の「専門家」として共創しながらプログラムを進めている。さらに、地域理解を深め、自走を始めた生徒たちに対し、学校と地域との協働により、各々の目標や課題に応じた「探究サークル」を設置し、卒業後も地域と関わり活躍する人材育成につなげている。

＜具体的な取組＞

１　学校と地域が生徒育成の主体として共創する地域探究活動

【産学官が「生徒育成の専門家」として、協働により創り上げる地域探究学習】

本校１年生は、SDGs をテーマに、「地域フィールドワークとアクションプラン発表会」を柱とする探究学習を実践している。外部機関との連携においては、本校探究で目指す３つのコンピテンシー「向学・越境・共創」をゴール設定として共有すること、報告会・発表会に地域の担当者が参加し、継続して学びを支援するとともに、振り返りの対話を重ねることを重視し、プログラムの深化につなげている。

(1)産（御殿場市内の企業・団体）：約11か所の企業・団体が、１年生全員対象のフィールドワークを受け入れ、SDGs への取組やビジョンについて、体験的な学びによる独自プログラムを提供する。参加生徒との協議の時間が新設される等、生徒の多角的視点の獲得につながる発展がみられている。

(2)学（静岡大学）：大学生が３回来校し、生徒の課題やアクションプラン構想のサポートを行う。発表会上位チームは静岡大学を訪問し、アクションプランを発表する機会を設定している。今年度は、大学生がワークシート作成や生徒のグループ分け等に参画している。

(3)官（御殿場市）：SDGｓ未来都市に選定された御殿場市が企業や団体と御殿場 SDGs クラブを発足した。本校も令和３年度に加盟したことで連携が進んだ。以後も、探究のねらいに添った企画や外部機関の紹介等、コーディネーターとしての役割を担っている。

【学校と大学が連携したキャリア教育プログラムの開発】

１年生は東京都立大学、２年生は静岡大学に訪問し、大学との協働によるオリジナル参加型プログラム「キャリアツアー」を実践している。

(1)１年生：SDGs をテーマとし、教授による講義、本校代表チームによるアクションプラン発表、卒業生を含む大学生とのワークショップを行っている。

＜愛知県＞（種別：教育委員会）　　稲沢市教育委員会

取 組 概 要

稲沢市教育委員会では、次代を担う子どもたちの健全な育成のため、活力ある教育活動を展開する学校づくりを目指している。指導の基本方針の１つとして、稲沢の魅力を学び、稲沢を愛する心を育むとともに、グローバル社会において生き生きと活躍できる人材の育成に努めている。その中で、一人一人の能力・適性に応じたキャリア教育を充実させ、社会の激しい変化の中でも自分をしっかりともって、稲沢を担っていく進取の精神を育むことを目指している。

１　稲沢市キャリア教育推進事業

（1）事業内容

キャリア教育は、児童生徒の自分らしい生き方・夢の実現に向け、社会的・職業的自立に必要な態度などの育成を目標とする。そこで、職場見学や職場体験活動等を通して、児童生徒に働くことの意義や学ぶことの意義を考えさせたり、生きることの尊さを実感させたりしたい。稲沢市キャリア教育推進委員会では、学校と事業所、地域との間に深い連携関係を築いていく。

（2）事業概要

① 職場見学や職場体験活動等を生きた学びの場とするために、学校・産業界・関係行政機関等との効果的な連携のあり方及び支援システムづくりを行う。

② 職場見学や職場体験活動等の効果的なカリキュラムづくり、適切な教育課程への位置づけと各教科との連携のあり方を構築する。

③ 本事業による児童生徒の生き方に関する意識や学習意欲等の変容について調査を行い、適切に評価する。

（3）主な取り組み

各地区商工会やロータリークラブやライオンズクラブなどの団体、市の商工観光課や保育課などの関係各課と学校の代表者が一堂に会するキャリア教育推進委員会を定期的に開催し、職場体験活動の実施を中心にキャリア教育の推進の仕方についての意見交流を実施している。各機関からの情報をもとに、地域の事業所や地域の人材を活用した体験活動や講演会等を積極的にカリキュラムに取り入れられるようにしている。また、「キャリア・パスポート」を有効に活用することで、学びの振り返りを充実し、小中高と継続的な学びの積み重ねができるようにしている。

２　稲沢市教育研究会の活動推進

キャリア教育部会では、「未来を切り拓き、ともに生きる豊かな社会を創り出していく児童生徒の育成　～他者との関わりから自己を理解し、自分の将来や生き方を意識したキャリア教育の推進～」をテーマに研究実践を進め、実践内容や成果を市内に広めていく。

＜愛知県＞（種別：学校）　　豊田市立稲武小学校

取 組 概 要

稲武小学校は、豊かな自然、整備された森林に囲まれ、地域の人との交流が盛んな全校児童60名の小規模校である。稲武の町は豊かな環境に恵まれているが、人口の減少や高齢化により、地域組織の存続や地域文化の継承が危ぶまれている。そうした課題に対応するために地域の人々が昔からいる人と新しく住人となった人と垣根なく協力して、稲武の町の活性化に向けて取り組んでいる。将来の稲武の町の担い手である子どもたちには、稲武の町を離れたとしても、異なる立場の相手とも互いの考えを認め合い、課題に対して自分事として向き合い、よりよい社会を創っていく人になってほしい。この願いのもと、中学校と連携を図り「自ら社会に働きかけられる人」という目指す成人像を掲げ、主体的に周囲とのつながり（関係性）を構築する力の育成をテーマに学校全体で教育活動に取り組んでいる。

キャリア教育推進の核となる体験活動については、生活科や総合的な学習の時間で取り組む「ふるさと学習」に位置付けている。1年生では地域のお年寄りとの関わり、2年生では蚕の飼育、3年生ではブルーベリー栽培をテーマとして、稲武の伝統や特産物の生産に関わる人々と触れ合うことで、稲武の良さを実感させている。4年生では福祉に関わる活動、5年生では環境に関わる活動、6年生では町づくりに関わる人々や地域の課題と現実に向き合いながら自分の夢を実現しようと工夫や努力を重ねている人々の思いを知る活動に取り組み、地域への理解を深めたり今後の生き方を考えたりしている。

【6年生の取組】

6年生では、稲武で親しまれている御菓子所「まつ月」、稲武に工場を構える「関谷醸造」、新たに稲武にできた家具工房「ｆｉｒｓｔ－ｈａｎｄ」で体験活動を行い、物を作りだすことの楽しさや働く人の願いと努力を知り、稲武の町をみつめる活動に取り組んだ。

子どもたちは、江戸時代に創業した老舗のまつ月さんの話を聞き、「歴史を守り後世に伝えること」「新たな時代に向けて変わり続けること」を両立させるための努力を続けている使命感や願いに触れ、自分の進みたい道について考えることができた。関谷醸造で実際に地元産のお米を使って甘酒作りを行い、地域の魅力を実感した。酒造りと米作りをつなげて農家を元気にしようとするＳＤＧｓへの取組を知り、課題に対して前向きに取り組む姿勢を学んだ。また、稲武に移住してきた家具職人の方が地域の活性化のために、自ら楽しみながら、自然や既存の建物を工夫して稲武の新しい拠点づくりをしていることを知ったり、木工体験をしたりすることで、自分たちにもできることはないかと自分事として課題を生むことができた。その後、子どもたち一人一人が魅力ある稲武で働く人をみつけ、他学年や地域の方々に発信する活動を行う。稲武の町のパンフレットを作成し、地域や観光に訪れる方々に配付するなど、自分たちができることを考え活動を展開していく。ふるさと学習発表会では、稲武で働く人々の努力や思い、自分のこれからの生き方について、他学年や地域の方に伝える。こうした取組により、働くことの願いや目的を理解し、自分らしさをみがき高める生き方を考えることのできる児童の育成を図っていく。

稲武小学校は、子どもを中心に据え、子どもたちの未来に向けて系統立てて地域とともに教育活動を展開している。今後も、子どもたちがふるさとへの愛着と誇りを高め、子どもたちが自分事としてより豊かな社会を創るために行動する力を高めていけるような実践を積み重ねていくことが期待できる。

＜愛知県＞（種別：学校）　　弥富市立弥富北中学校

取 組 概 要

「多様な生き方を知り、自分らしい未来を描くキャリア教育」を目指し、さまざまな人との関わりを大切にして実践を続けている。

【主な取組】

①お帰り弥北の輝く先輩（全学年）

年に１度、社会で活躍している本校を卒業した方を講師として招き、全校生徒対象に講演会を行う。講師の方から、中学時代の話や現在の仕事に就くまでの過程、仕事の苦労ややりがいについて話を聴き、生徒が自分の生き方を考えるきっかけとする。

②職場体験（２年）

２年次には、６月に３日間、本校の近くにある事業所や公共施設、小学校などで職場体験を行い、社会の一員としての役割を実感する。事前学習や事後学習で、自分が興味をもっている職業を見つけたり、その職業について詳しく調べたりする。また、講師を招き、マナーについて出前講座を行い、社会に出るときの礼儀や作法について学ぶ。

③修学旅行での企業訪問（３年）

３年次には、修学旅行において班別での企業訪問や施設訪問を行い、働くことが社会貢献や国際貢献につながっていることを学ぶ。事前学習では、自分の興味関心に沿って訪問する企業を見つける。

④出前授業（１・２年）

１年次には、日本美術院の地域連携教育プログラムを活用し、日本画についての出前授業を行う。愛知県の高等学校や大学で美術に関わっている方々から、岩絵の具で描く楽しさを学ぶ。

２年次には、弥富市広島平和研修の事後学習として、JICA 中部と連携し、世界の平和について学ぶ。難民や内戦、紛争など世界の現状について知ったり、国際協力に携わる方の話を聴いたりして、平和な世界にするためにできることを考える。

⑤進路講話（２年）

２年次の３学期に、地元の高等学校の教員を講師に迎え、それぞれの学校や専門学科、コースなどの特徴について話を聴く。生徒が自分に合った進路選択ができるように、さまざまな選択肢があることを学ぶ。

＜三重県＞（種別：学校）　　四日市市立三重平中学校

取 組 概 要

当該校は、全校生徒２３０名。１学年３学級、２学年２学級、３学年２学級、特別支援学級１学級からなる比較的小規模校。

１．地域を学ぶ学習プログラム「四日市学」の実施

令和５年度から、四日市市内唯一の取組として、校区・地元から四日市市へと段階的に範囲を広げて、地域の社会的課題に対して考えを深めていく学習プログラム「四日市学」を、特別活動において全学年で実施している。１年生では、地域の人と防災について学ぶ学習や、地域の商店をＰＲするチラシを作成する学習を通じて、地域の魅力を知る機会を創出している。２年生では、職場体験に向けて、事前学習で職場を調べ、自己を見つめ直す学習を行うとともに、事後学習では、発表会を通じて、体験で学んだことの振り返りを行っている。３年生では、生徒が四日市市に対し、地元地域や四日市市のよりよい未来を築くための政策を提案している。

また、「四日市学」の中では、「四日市ＰＲ活動」として、市役所の担当課職員からふるさと納税の活用方法について学ぶとともに、ＰＲ活動の一環として、修学旅行の機会を活用し、旅行先にて、プレゼンテーション形式での四日市市の魅力紹介やふるさと納税への寄付の呼び掛け等を行っている。（令和６年度は、千葉県イオン海浜幕張店にて実施）

２．コミュニケーションスキルを学ぶ「平っ子タイム」の実施

「四日市学」による学びを進めていくうえで必要であると考えられる生徒の心の土壌づくりや生徒の自尊感情を高めるための人間関係づくりの一助として、「かかわりプログラムＳｌｉｍｐｌｅ」代表の曽山和彦氏の指導を受け、コミュニケーションスキルを学ぶ「平っ子タイム（だいらっこたいむ）」を実施している。

また、「平っ子タイム」は、本年度で１０年目を迎え、生徒は、ここで学んだコミュニケーションスキルを様々な場面で活用し、日々の学習に取り組んでいる。生徒へのアンケートからも、「話すこと」に関する設問において、９割の生徒が肯定的な回答をしており、生徒自身がその効果を実感している取組となっている。

３．中学校区での異校種連携

定期的に、当該中学校区内のこども園、小学校、中学校（３校１園）の教職員が集まり、「学び合う子どもの姿をめざして～夢、志でつながる　園小中～」というテーマのもと、地域の教育課題の解決に向けた取組や方策について協議する会議や研修会を行っている。

【ホームページ】http://www.yokkaichi.ed.jp/~miedaira/cms2/htdocs/

＜三重県＞（種別：学校）　　三重県立四日市農芸高等学校

取 組 概 要

当該校は、４科（農業科学科、食品科学科、環境造園科、生活文化科）からなる全日制の学校で、１学年約２００人の中規模校。共通教科並びに専門教科の学習を通した教育活動の充実に努め、専門技術者（スペシャリスト）を育成するとともに、心豊かな人間性を育み、地域社会に貢献できる人材を育成することを学校像としている。

１．ＳＤＧｓの視点を踏まえた地域の活性化

地元企業と連携し、ＳＤＧｓの視点を踏まえたスマート農業や廃棄物の利活用、環境保全等をテーマとした様々な実習を通じて、地域の活性化に取り組んでいる。令和５年度には、地元産業である紡績業の企業から相談を受け、製造過程でうまれるウール廃材について、同じく地元産業である茶栽培や酒米の栽培で肥料として活用するなど、持続可能な農業や環境に優しい農業のあり方について研究した。

２．各学科の取組

農業科学科では、地元企業と連携して、酒米の栽培から収穫、仕込みを行い、独自ブランドの日本酒として生産するとともに、生産実習ではＪＧＡＰ（米）認証を取得している。

食品科学科では、ジャムや味噌等を製造し、校内の販売所で地域住民に対して販売したり、商店街のイベントや地域の祭等にも出店したりしている。また、地元四日市の産業である「かぶせ茶」を活用したパンやサブレ等の商品開発にも注力している。

環境造園科では、技能五輪全国大会で活躍するなど、「厚生労働省　ものづくりマイスター」を活用した若手技術者の育成に取り組むとともに、令和６年度から、高校ＤＸ加速化推進事業の指定を受け、ＡＩを活用した水田管理など、データサイエンスやＡＩを活用した学習の充実を図っている。

生活文化科では、地元の大学や専門学校と連携協定を締結し、地域で活躍する専門家を招聘した、食品調理技能の習得や製菓衛生師の国家資格の取得をめざした授業を実施し、高い専門能力を育成している。

３．インターンシップにおける地元企業との連携

当該校では、１０年以上の長きにわたり、過去の卒業生が就職した多数の地元企業を中心に、２年生の全生徒（令和６年度在籍生徒数：農業科学科３９人、食品科学科４０人、環境造園科４０人、生活文化科７８人）が、４日間程度のインターンシップを行っている。また、地域の職業人を講師として招いた職業講話等、早期から、生徒が自己の将来について考えるキャリア教育の充実に取り組んでいる。

【ホームページ】https://www.mie-c.ed.jp/ayokka/wp/

＜三重県＞（種別：学校）　　三重県立松阪あゆみ特別支援学校

取 組 概 要

当該校は、小学部１３学級、中学部１２学級、高等部１３学級からなる平成３０年度に開校した７年目の特別支援学校。教育目標を「自立と共生～地域で豊かに生きる子どもを育てます～」とし、発達段階に応じた学部の目標にもとづき、将来の社会生活を見据えた指導・支援を行っている。

１．インターンシップにおける地域企業との連携

高等部では、３年間で複数回の現場実習・就労体験を実施するとともに、「社会自立コース」の１年生は、地域の企業へ訪問して行う就労体験を校時に位置付け、「企業内就労体験学習（デュアルシステム）」として、年８日間実施している。

２．校内カフェ「ＣＡＦＥ　ＴＯＫＯＴＯＫＯ」の運営

「社会自立コース」の生徒は、全員が、月１回程度、校内カフェ「ＣＡＦＥ　ＴＯＫＯＴＯＫＯ（カフェ　トコトコ）」において、障がいの状況や発達段階に応じて、接客や新メニューの考案等、運営に関わっている。校内カフェの取組は、本県の県立特別支援学校では、唯一の取組であり、先進的に、生徒が、将来自立し、地域で豊かに生きていくための資質・能力の向上を図っている。

また、校内カフェで働く高等部の生徒の姿は、小学部や中学部の児童生徒にとって、憧れや大きな目標であり、当該校のキャリア教育の取組の柱となっている。

３．地域交流を用いた子どもたちの関係づくり

当該校が所在する松阪市の「副籍」制度を積極的に活用し、居住する地域の児童生徒と交流を行うことで、将来、児童生徒が安心して生活したり、活動したりするために、子どもたちの関係づくりを積極的に推進している。

４．円滑な就労へとつなげる取組

生徒の様子を実際に見てもらうことで、円滑に就労へとつなげるために、地域の企業を学校へ招聘する「企業対象学校見学会」を実施している。

【ホームページ】https://www.mie-c.ed.jp/smatus/

＜滋賀県＞（種別：学校）　　高島市立本庄小学校

取 組 概 要

【取組概要】

- 委員会活動の枠を外し、代わりに児童が自分たちができることを主体的に考え、実行する経験を大事にしていく活動を通して、「人間関係形成・社会形成能力」や「課題解決能力」を育んでいる。
- 総合的な学習の時間に行う学校地域連携カリキュラムを編成し、地域の産業に学んだり、学んだことを地域に発信したりする活動を通して、「自己理解力・自己管理能力」や「キャリアプランニング能力」を育んでいる。

【自分たちができることを主体的に考え、実行する経験を大事にしていく活動】

委員会活動の枠を外し、月１回金曜日の６校時に、児童が「学校をよりよくするため（子どもたちが話し合い作ったスローガンに沿って）やってみたい」という思いを大切にした活動に取り組んでいる。

具体的には、志が同じ者がグループになって活動し、全校児童の健康・安全を守るための「けが防止を呼びかけるけがマップづくり」やみんなが気持ちよく使えるトイレへ変えていく「トイレのマナーを守ろう作戦」、学校に咲く優しさを見つける「花咲き学校」といった活動を行っている。

これらの活動を通して、他者と関わり合いながら物事に取り組む力や、自分たちで課題を見付け解決していく力等を育んでいる。

【学校地域連携カリキュラム】

第３学年と第４学年は、地域の伝統的な漁法であるやな漁やえり漁、特産品として人気の高いアドベリーの農園見学を通して地域を知り、第５学年では、米作り体験を通して、地域の方の情熱に触れ、第６学年では、これまでの学びを振り返りながら「次は地域に向けて自分たちに何ができるのか」を探究課題としてまとめたプランを発表する活動等を行っている。

また、学校運営協議会に児童が参加し、地域の方と一緒に地域のためにできることを考え、考えたことを実行する活動を行っている。

これらの活動を通して、地域の一員としての自分の役割を自覚したり、自らの将来の夢や計画を考えたりすることにつなげている。

＜滋賀県＞（種別：学校）　　滋賀県立信楽高等学校

取 組 概 要

信楽高等学校が位置する信楽町は、日本六古窯の一つに数えられる窯業地であり、伝統的工芸品に認定された信楽焼の産地である。本校はその立地を活かし、地元窯業従事者と密接に連携しながら教育活動を推進してきた。平成26年４月に工業科と普通科の併設校から総合学科へと改編し、「セラミック」「デザイン」「普通」の３つの系列の特色を活かし、生徒の進路実現に向けた多様なキャリア教育の充実に力を注いでいる。

１年次には、「産業社会と人間」や「基礎実習」を通じて地域の文化や産業に触れ、将来のキャリア形成を見据えて、２年次以降に系列別に学習を進めるための総合選択科目や自由選択科目を選ぶ機会を提供している。

２年次には、滋賀県教育委員会主催の「しがクリエイター12プロジェクト」を冠した取組として、就業体験や大学・企業見学などを実施し、将来の進路実現に向けた情報収集の機会を提供している。また、卒業後の進路に応じて履修選択できる３年次自由選択科目を決定することになる。

３年次には、セラミック・デザイン系列の課題研究や普通系列の探究活動において、地域との連携を進めながら、課題の発見と解決に必要な能力の育成に力を注いでいる。また、総合学科発表会を通して、学習の成果を発表する機会を設けている。さらに、就職希望者には求人応募前の企業見学を、進学希望者には面談や補習を実施するなど、生徒一人ひとりの特性やニーズに応じた進路指導を行っている。

先述した「しがクリエイター12プロジェクト」では、本校で学ぶ専門的な知識や技術を活かしながら、地域理解を深め、地域や地域企業の振興に寄与できる人材の育成を目指している。具体的な取組としては、①地域施設との連携授業（陶芸の森、信楽窯業技術試験場、信楽くるみ作業所）②高大連携（成安造形大学オープンキャンパス、出前デッサン講座）③地域連携（うしかい田んぼアートデザインコンペ、つちっこプログラム、卵かけご飯セット販売、しがらき火まつり・信楽陶器まつりデザインコンペ）などが挙げられる。

このように、信楽高等学校では、地域の施設や人材資源を活用し、対話的・協働的・探究的な学びを通して、地域や職業に対する理解を深め、現実社会で主体的に行動できる力と適切な姿勢を身につけるための能力育成に力を注いでいる。

＜京都府＞（種別：学校）　　南丹市立園部小学校

取 組 概 要

園部小学校の児童の実態を分析する中で、「先の見通しを持てず夢が語れない」、「自分の可能性を信じてチャレンジする力が弱い」等の課題を共有するとともに、学校運営協議会を中心にした熟議で、「当たり前のことができ、自分のことが好きであってほしい」等の意見が出された。

これらの課題に向き合い、主に令和５年度の６年生で取り組んだ内容が、変化の激しい社会を力強く生き抜くための基礎的な力を培うとともに、地域とのつながりを大切にしながら児童の可能性を引き出す観点からも、他校の参考になると判断し、推薦する。

【年間の主な計画】
１学期…「働くこと」について考える、職業調べ、修学旅行での職業体験（キッザニア）
２学期…職業インタビュー、「働くこと」に必要な力を話し合う
３学期…将来の夢についての報告会、先輩の話を聞く、学習のまとめ

【具体的な取組例】
◆職業インタビューについて（地域コーディネーターと連携）
自分の興味のある分野についての希望をとり、一人につき二分野の話を聞く。
＜対面＞
①スポーツ分野（元プロバスケットボール選手）、②医療・福祉関係（学校医）
③町や人を守る仕事（地域の駐在所の方）、　④教育関係（校長）
⑤美容関係（美容師：保護者）、　⑥飲食業（板前：保護者）
＜オンライン＞
⑦動物と関わる仕事（京都市動物園飼育員）、⑧IT 関係（ゲームプログラマー）
⑨乗り物関係（パイロット）

○ 地域にある職業と児童に馴染みが少ない職業を取り入れ、視野を広げるようにした。
○ 聞いたことをもとに、将来の夢についてのプレゼンテーションを作り、参観日を利用して保護者を前に発表した。その中で、その職業に就くためにはどんな力が必要かを考え、そのために今、何に取り組み、努力すればよいかを明確にしていった。

◆先輩からの話について（地域コーディネーターと連携）
○ 将来の話はまだ先のことと捉える児童に対し、現実と近づけるために地元高校生を招いた。
○ 小・中学校時代に身につけておくとよいこと（諦めず続けることなど）や学習の進め方、進路の選び方などについて児童は興味をもって耳を傾けていた。

【まとめ】
○ １年間を通して計画的に学習を進めることで、また、ICT 機器の積極的な活用や学校運営協議会（地域コーディネーター）とつながることを通して児童の可能性を広げたり、学ぶ目的を明確にしたりすることができた。
○ 将来、社会人として活躍するために、必要となる力等についてじっくりと考えさせることができた。

＜京都府＞（種別：学校）　　京都府立綾部高等学校東分校

取 組 概 要

１　推薦理由

綾部高校は、明治26年京都府蚕糸業組合立高等養蚕伝習所として創設して以来、農業を実験・実習を中心に学ぶ学習スタイルと、校是「探真究理」にある真理を探究する精神は、東分校の農業科・園芸科・農芸化学科が引き継いでいる。

農業三学科では、「農を学び、科学的な考え方を養い、地域の将来の担い手として必要な学力、リーダーとしての指導力や社会性を培う」の目標のもと、特色ある教育活動を展開している。それぞれの学科で扱う作目は異なるが、農作物の栽培から加工・分析、流通、販売までを幅広く学習し、学習内容の深化のため地域や企業・大学等との連携を積極的に進め、将来の地域の担い手を育成するキャリア教育を推進している。

２　取組の概要

専門教科での授業と学校行事を軸に、以下の区分でキャリア教育を展開している。

(1) 専門教育と農業クラブ活動　　(2) 地域連携活動と販売実習

(3) 産学連携と地域資源の活用　　(4) 校種間連携と交流活動

３　取組内容

(1) 専門教育と農業クラブ活動

ア　専門学科での学習

２年次から農業科は作物と露地野菜、園芸科は施設野菜と草花、農芸化学科は製造と分析の６専攻に分かれ、より専門的で実践的な授業を展開している。

イ　課題研究の取組

２年次課題研究では、地域（綾部市）の活性化を目指したテーマで課題設定を行い、３年次課題研究では数人の小グループに分かれ、それぞれが自ら解決したい課題を見つけ出し、課題解決に向けて調査・研究する探究活動を実践している。

＜課題研究の主な課題名＞

①農　業　科：京の伝統野菜「鹿ヶ谷南瓜」と地域との繋がり!!

②園　芸　科：キクへのわい化剤散布効果と綾部市菊花展への出品

③農芸化学科：綾部市特産の栗を使ったスイーツの開発

ウ　農業クラブ活動

①各種発表会・競技会への出場（主な入賞歴）

【令和５年度】

○京都府学校農業クラブ連盟 農業情報処理競技会 優秀

○日本学校農業クラブ全国大会熊本大会 農業鑑定競技会　優秀（２名）

○第30回綾部市菊花展　福助の部　綾部市文化協会会長賞

【令和４年度】

○京都府学校農業クラブ連盟大会　意見発表分野Ⅲ類　優秀

○京都府学校農業クラブ連盟大会　プロジェクト発表分野Ⅱ類　優秀

○京都府学校農業クラブ連盟　農業情報処理競技会　優秀

【令和３年度】

○京都府学校農業クラブ連盟大会　プロジェクト発表分野Ⅱ類　優秀

○京都府学校農業クラブ連盟大会　意見発表分野Ⅱ類　優秀

○京都府学校農業クラブ連盟大会　意見発表分野Ⅲ類　最優秀

○京都府学校農業クラブ連盟　農業情報処理競技会　優秀

○近畿学校農業クラブ連盟大会　意見発表分野Ⅲ類　最優秀（全国大会出場）
②取得可能な資格
○危険物取扱者資格（丙種・乙種第４類）　○毒物劇物取扱者資格、○ボイラー取扱技能講習
○日本農業技術検定　○小型フォークリフト特別教育　○小型車両系建設機械特別教育
○初級バイオ技術者認定　○パソコン関係検定試験（日本語ワープロ検定等）
○食品衛生責任者養成講習　○色彩検定

(2) 地域連携活動と販売実習
地域に密着した活動を通じて、将来の地域の担い手としての自覚を促し、地域に貢献できる人材を育成している。
ア　地域連携活動
【園芸科】
○あやべ由良川花壇展、綾部市民葉ぼたん展、綾部市菊花展出品
【分析化学部】
○由良川クリーン大作戦（府民 300 人前後参加）
【園芸部】
○福島ひまわり里親プロジェクト（保育園・福祉施設との連携）
イ　販売実習
【農業科】
○酒粕を使用した「酒ークリーム」の販売（あべのハルカス近鉄本店等）
【園芸科】
○野菜苗即売会（５月）
【農芸化学科】
○麹（こうじ）製造・販売実習（１～２月）
【農業クラブ】
○春・夏・秋・冬の農場生産物・加工品即売会
生産・加工から流通・販売までの一連の流れを学習する機会として、全学年で毎週木曜日の放課後に販売実習を実施。年間 10 回程度、毎回 50～100 人程度来場。
○東祭（あずまさい）
由良川キャンパス（東分校）最大の行事で、11 月に府民の方に向けての農場生産物や加工品の販売、イベント発表を実施。例年 700 人程度の来場だが、令和５年度は来場者が 1,000 人を超えた。
○クリスマスケーキ製作実習
昭和 45 年（1970 年）から 50 年以上続く伝統行事で、３年生全員でクリスマスケーキ製作実習を行い、地域の方々に販売。また、綾部市内の福祉施設を訪問し、プレゼントしている。

(3) 産学連携と地域資源の活用
大学･企業との連携、校外研修や外部人材活用で地域資源を活用し、専門教科の学習をさらに深化させている。
ア　産学連携
【農業科】
○若者酒造りプロジェクト（若宮酒造株式会社・福知山公立大学・京都工芸繊維大学）
○酒かすスイーツプロジェクト（福知山公立大学・サクラティエ・若宮酒造株式会社）
イ　地域資源の活用
①校外研修
【農業科】
○京都府農林水産技術センター畜産センター（綾部市）　○農業生産法人みとけ（京丹波町）

○株式会社農夢（綾部市）　○農匠の郷やくの（福知山市）　○田舎暮らし（福知山市）
【園芸科】
○京都府立植物園（京都市）　○手柄山温室植物園（姫路市）
○森本ファーム（綾部市）　○株式会社農夢（綾部市）
【農芸化学科】
○本田みそ本店綾部工場（綾部市）　○丹後王国「食のみやこ」（京丹後市）
○京都先端科学大学バイオ環境学部（亀岡市）　○兵庫県立人と自然の博物館（三田市）
○インスタントラーメン発明記念館（池田市）
②外部人材活用
【農業科】
○茶講習会（講師：小西茶業組合）　○農業機械講習会（講師：北陸近畿クボタ）
【園芸科】
○フラワーアレンジメント講習会（講師：株式会社マサミガーデン）
○京野菜講習会（講師：京都府農林水産技術センター農林センター）
【農芸化学科】
○環境フィールドワーク（講師：大阪産業大学）
○環境講話（講師：京都大学フィールドワーク科学教育研究センター）
○洋菓子講習会（講師：洋菓子店「パティシエ・ノリ」）
○製パン講習会（講師：京都製菓技術専門学校）
○食品分析講習会（講師：日本分析化学専門学校）

(4) 校種間連携と交流活動
保育園・幼稚園、小学校、中学校からの依頼等で、交流活動も多く実施し、異年齢層との活動の中で自己有用感を高め、キャリア形成に寄与している。
【農業科】
○田植え・稲刈り体験（保育園）　○サツマイモ植え付け・収穫体験（保育園）
【園芸科】
○福島ひまわり里親プロジェクト（幼稚園・保育園）
【分析化学部】
○環境出前授業（保育園、小学校、中学校）

＜大阪府＞（種別：教育委員会）　　松原市教育委員会

取 組 概 要

当該教育委員会は静岡大学塩田研究室との連携の下、キャリア教育支援ツール「COMPASS」（ウェブサイト）を開発した。COMPASS は様々な大人（大学生を含む）の協力を得て、その人の職業だけでなく、生き方、やりがい、趣味、挫折体験、価値観なども浮き彫りになるようなプロフィールページを用意しており、中学生はそれを閲覧し、それら協力者の中から興味を持った相手と双方向でメッセージをやり取りすることができる。また、他の生徒が協力者とやり取りしている内容も閲覧できるため、多様な考え方やものの見方に触れることができるツールとなっている。

本ツールの活用による効果として、一人一台端末を経由して活用することで中学生が従来の職場体験では接点がなかった分野や、真に興味のある分野のおとなと繋がること、おとなと直接対面している状態では質問しづらかった中学生も気軽に質問できるようになることが期待できる。更に、中学生が自分のロールモデルとなるようなおとなからアドバイスを受けることで、今後、どのような資質・能力を身に付け、そのためにどのような学習・体験を重ねればよいのか、また、いかに進路選択をしていけばいいのかということ等について真剣に考える機会が生まれることが期待できる。

また、各小中学校が仕事に関することや社会における新しい課題等についてゲストティーチャーを招聘しようとする際、依頼先の確保に困る場合も多いが、COMPASS を人材バンクとして活用することで、コロナ禍による地元事業所等との繋がりの希薄化を補うことができ、協力先の新規開拓等に係る業務の軽減にも繋がることが期待できる。

運用に際し、中学生はプライバシー保護の観点から全て匿名での参加としたほか、メッセージのやり取りも本サイト上のみとし、生徒と協力者の私的なやり取りはできないようになっている。さらに、メッセージについても、誹謗中傷や個人情報の漏洩に繋がることのないよう、本市教育委員会と静岡大学塩田研究室のダブルチェックを経て問題なしと判断されたもののみを反映するなど、安心・安全に利用できるよう最大限の配慮・工夫を行っている。

当該教育委員会の取組みは、子どもが様々な人との出会いを通じて、自分の将来についての展望や目標をもち、その実現に向けて強いモチベーションをもつきっかけとなることが期待でき、教員の働き方改革にも資するものとして他の市町村教育委員会にとって参考になると考える。

＜兵庫県＞（種別：学校）　　兵庫県立長田商業高等学校

取 組 概 要

本校は、全国の夜間定時制高校で初めて株式会社を設立し、令和６年度で３年目を迎える。令和４年度からの新学習指導要領の実施を期に、商業科から創造ビジネス科へと学科改編し、起業、企画、経営のプロセスを実践的・体験的に学び、起業家精神（アントレプレナーシップ）を養うため、株式会社NAGAZONを設立した。AIやIT等を中心に経済が回るという情報化社会において、協働しながら主体的にビジネスを創造する態度やノウハウを身につけ、予測不能な未来を生き抜く力を培うことを目指している。

【本校キャリア教育プログラムの特長】

１　学校設定教科「地域創造」の設置

(1)教科の目標

地元商店街と連携・協働したこれまでの学習活動を発展させ、実際の会社経営を軸とした実践的な学びを通して、新たな時代にもビジネスを創造できる資質・能力を育成する。知識・技術の習得にとどまらない実践的・体験的な学習活動を通して責任感と創造性を身につけ、起業家精神を養う。

(2)内容

株式会社「NAGAZON,Inc.」を設立し、取締役会、株主総会などを開催する。

(3)特長

商業科目で習得した知識・技術を活用し、地域や提携企業の訪問やフィールドワーク、外部講師の講演会やワークショップを通して、最先端技術や知識に触れ、生徒の興味関心を高め、生徒が主体的に判断してキャリアを形成していく力を育成している。

２　インターンシップの実施

(1)目標

ビジネスマナー等の社会人基礎力を養い、職業的な視野を広げる。

(2)内容

定時制高校でアルバイトを行う生徒もいるが､幅広い視野や様々な職業を体験するため２学年で､就職希望者、看護・介護・保育系進学希望者に対して地域企業や保育・福祉施設でインターンシップを実施している。インターンシップでは、事前・事後指導を行い、職業観・勤労観の育成を図っている。

(3)特長

現場での実習だけでなく､進路講演会を行い､自己の生き方や在り方を考えさせる機会を設けている。さらに、オープンキャンパス、職業体験講座、進路説明会、職業適性検査などを通じて、自己の適性を知り進路目標を考えさせている。

３　高校生キャリアノートの活用

ＬＨＲ及び学校設定教科「地域創造」の中で、学校独自のキャリアノートを活用し、自己理解・自己管理能力を高め、キャリアプランニング能力を育成させている。

【本校キャリア教育の成果】

不登校や特別な教育支援を要するなど多様な生徒が在籍している中で、上記の取組は「コミュニケーション能力」「自己肯定感」「自己有用感」を高める要因となっている。加えて、高等学校段階でのキャリア発達課題である「自己理解の深化と自己受容」「選択基準としての勤労観、職業観の確立」「将来設計の立案と社会的移行の準備」「進路の現実吟味と試行的参加」などを克服することにつながっている。

＜兵庫県＞（種別：団体）　　尼崎市ＰＴＡ連合会

取 組 概 要

尼崎市ＰＴＡ連合会では、各学校単位ＰＴＡ、育友会の活動を通して、日々の学校教育活動を支援するとともに、子どもたちが安全、安心な環境で学ぶ環境づくりに寄与している。また、市内各地区の幼、小、中、高、特別支援学校の連携を強化・活性化するため、定例会や研修会を通して市全体で情報を共有する中心的役割を担っている。

特にキャリア教育の推進という観点で顕著な取組として、尼崎市公立高校合同説明会（以下、「説明会」という）の開催が挙げられる。

この説明会は、単に市内の高等学校を紹介するだけに留まるものではなく、次の５点の特徴を有する。

１）中学１年、２年からも希望者を募り、早い時期から将来の夢や目標を描くとともに、今の学習の必要性や大切さを理解する機会の確保に努める。

２）生徒とともに、保護者にとっても単なる受検校の選択だけでなく、進路先で「何を学び」「将来にどのようにつながるか」を理解することで、家庭内の会話を通して、生徒が自分の意思を表現する力や不安に寄り添う大人の存在に気付く環境を整備する。

３）小学校のＰＴＡ（育友会）も運営に携わることで、より早い段階から、子どもの個性や興味、関心に基づく選択の大切さを知る機会とする。

４）学校の紹介（プレゼン）を高校生がしている姿に触れることにより、コミュニケーションの大切さを実感し、日常の生活や将来の生き方との関係を理解する機会とする。

５）高校生にとっても、自分自身が進路選択を目前にした際の不安や困難との向き合い方や乗り越え方を振り返り、後輩に伝える機会となり、社会に出た時の良い経験となることを期する。

ＩＣＴの普及、発展が進む中、こうした意義を踏まえ、コロナ禍の時期を除いて毎年度対面式の説明会開催を開催するとともに、来場できなかった生徒や保護者には、当日の様子をオンライン配信するなど、多くの生徒や保護者がキャリアを見つめる機会となるとともに、本市だけでなく近隣（第２学区）市町にも情報発信する献身的な取組により、３、０００人以上の参加希望を受けている。

＜奈良県＞（種別：学校）　　奈良県立奈良高等学校

取 組 概 要

奈良県立奈良高等学校は、スクール・ミッションとして、「『自主創造』の学びを通して、日本、世界のよりよい未来に貢献していくグローバルリーダーの育成」を掲げ、主体的・未来志向型の学びとして、地域との双方向の連携を構築し、地域から世界に発展的に貢献していく人材の育成に取り組んでいる。以下、その一例を挙げる。

１．キャリアデザインに関する研修会の実施

全生徒を対象とし、社会的・職業的自立に向けたキャリアデザインに関する研修会を積極的に行っている。校務分掌であるキャリア・マネジメント部を中心に、大学や企業、地域団体と連携した取組を企画・立案し、組織的にキャリア教育の充実を図っている。具体的には、東京大学や京都大学での講義体験等のアカデミックインターンシップや、経済産業省や特許庁、企業等の職場訪問等の職業や労働・人生設計について考える研修会、県内医療関係者を講師として招聘し、県内の地域医療の現状についての理解を深める研修会など、数多くの研修会を実施している。また、様々な大学・学部に在籍する卒業生や県内で公務員として勤務する卒業生を講師として招き、進路や職業に関する質問会や交流会を行い、生徒の進路意識の向上を図っている。

２．インターンシップの充実

企業におけるインターンシップに年間約 150 名程度の生徒が参加している。大学進学だけでなく、その後のキャリアを見据えた主体的な進路選択の実現に向け、生徒の職業理解と自己理解を深められるような事前・事後指導を積極的に行うなど、キャリア教育に力を入れている。

３．地域課題に係る探究活動や地域との共同事業の実施

「総合的な探究の時間」を活用し、郷土の伝統、文化、身近な生活等に関する探究活動を通じて、地域に根ざした課題を見付けその解決を目指すことにより、主体的に学習に取り組む意欲や国際社会の中で新しい文化を創造・発信する力を育成している。また、家庭科の授業の一環として、地元企業の協力を得て新商品の考案・開発に取り組むなど、地元企業等との共同事業を積極的に行っている。

＜和歌山県＞（種別：団体）　串本古座高等学校地域協議会

取 組 概 要

串本古座高等学校地域協議会（以下、地域協議会という）は、平成28年7月に串本町と古座川町が串本古座高等学校の魅力づくりを支援するために、資金を出し合い設立した組織である。設立時より今日まで、学校は多くの支援・協力を受けている。

地域協議会からは、2 名のコーディネーターが派遣され、同校の魅力化に資する様々な業務を行っている。また、公営塾「くろしお塾」の運営も行っている。

①コーディネーターの役割

串本町役場のOBである2名のコーディネーターが非常勤で職員室に在室している。

同校は、元々地域に密着した学校であったが、平成28年度からは、「地域まるごとキャンパス構想」を掲げ、地域の人材や、自然、文化等の豊かな教育資源を活かし、生徒が地域を知り、地域の課題を見つけ、解決策を考える中で、地域への愛着や貢献する気持ちを育成すると共に、生徒自身の生き方・在り方を考え、自身の手で未来を切り拓く力を身につけることができるような取組を行っている。「総合的な探究の時間」のほか「地域探究」や「マリンスポーツ」、「ジオパーク学」といった様々な授業や、地域貢献・地域課題への取組を目的として結成したＣＧＳ(地域包括的支援部)のクラブ活動において、相当数の外部人材とつながっていく必要があり、そのほとんどにおいて、コーディネーターが人材発掘やマッチング等の業務に従事している。

②「くろしお塾」の取組

「くろしお塾」は公営塾であるため、完全無料であり、2名の講師が在籍している。放課後のほか、休日も開設しており、学びたいときにいつでも学ぶことができる。基本は自学自習であるが、質問があれば、いつでも講師に質問することができる。

「くろしお塾」での、キャリア教育に係る取組は以下の3点である。

(1)勉学支援

受験対策や「学び直し」の支援を行っている。

(2)「地域みらい学」（ゲスト講義）の企画・運営

豊かな自分づくりを支援するため、生徒の希望する分野をテーマとして、大学教員やその教え子である大学生等との座談会形式の講座を開設している。昨年度は４回開催した。趣旨に賛同した教員たちが無償で参加してくれている。当地方では、大学の教員や大学生が身近にいないため、生徒にとっては貴重な機会となっている。

(3)「地域みらい学」（くろしおゼミ）の開催

塾の講師とともに、社会経済学をベースに専門書を読み込んでいく。生徒で分担してレジュメを作りながら通読していく。

(2)、(3)は、学ぶ意義を自覚させ、広く社会について考える力を育んでいる。塾での滞在時間が長いため、講師自身が学び続ける姿や、多くの先輩後輩、同級生が目標に向かって切磋琢磨する姿に触れることで、生徒たちはお互いに影響を与え合い、進路を見いだしていく様子が見受けられる。

＜岡山県＞（種別：学校）　　赤磐市立高陽中学校

取 組 概 要

当該校は、生徒が地域の多様な「人・もの・こと」と関わることで、課題解決に必要な能力（計画性・協調性・挑戦する力・粘り強さ・多角的視点・発想力）を身に付け、主体的に課題を発見・解決していく力を育むことをねらっている。特に「住み続けられる町赤磐」をテーマに赤磐市についての調べ学習を行い、市内のフィールドワークや市役所・高等学校と連携した取組の成果を広く発表するなど、キャリア学習の充実を図っている。

○新たな特産品のレシピを考案

地元赤磐市のＰＲのための新たな特産品づくりに取り組んだグループは、フィールドワークの中で地元企業を訪問し、一つの商店からの聞き取りでは解決できないことを、複数の商店の協力も得ながら、レシピをつくり、試作品を作り上げた。市長への取組紹介を行い、生徒は自分たちの取組が街づくりにつながることを実感した。

そのグループのメンバーは、高校入学後も探究活動を続け、自分たちが考案したレシピが商品化されるよう、百貨店等と交渉したり、イベントで出品したりするなど、継続的な取組を行っている。

○社会とつながるキャリア学習

多様な人や生き方に出会ったり、「社会」を体験したりすることで自分の生き方を考える活動を継続的に行っている。中学生が、高校生や企業と積極的に関わり、小学校からの系統性を意識して生徒のキャリア形成に係る取組を組織的に行っている。

○生徒の変容等

地域の様々な課題（通学路の安全、市の人口減少、子育て、不登校等）を解決するために、聞き取り調査を行ったり、自分の意見を伝えたりするなど、解決に必要な能力が身に付いてきている。

＜岡山県＞（種別：学校）　　岡山県立玉野高等学校

取 組 概 要

当該校は、地域等との連携や主体的な学びにより、一人一人の個性の伸長を図り、意欲や行動力、社会性等を高める教育活動を通して、社会で活躍し、その発展に貢献する人材を育成することをスクールミッションに掲げている。総合的な探究の時間は、そのミッションを達成するための軸となっており、生徒自身が探究の見方・考え方を働かせ、横断的・総合的な学習を行うことを通して、自己の在り方や生き方を考えながら、よりよく課題を発見し解決していくための資質・能力の育成を目指した構成になっている。現在、県教育委員会が配置しているコーディネーターを活用し、地域の異世代の方々・地元企業・団体等と積極的に関わり、生徒が自分の住む地域に親しみを持ち、次代を担う一員として、地域の良さや課題等を多面的にそして自分事として捉えることができる仕掛けを実施している。

○総合的な探究の時間による地域密着型の探究活動の推進

総合的な探究の時間において、2030 年の地域を想像し、自分について深く研究する「Sim TaMano2030」を実施している。生徒が自ら設定した課題をテーマに地域密着型の探究活動を行い、その成果を地域への提言として発表する仕組みを構築しており、これまでに地元の特産品を活用した商品開発の提案や、海ごみを使ったグッズを製作・販売し、空き家を有効活用するための方策などを提言している。地域課題の解決に向けた探究活動に取り組むことで、地域理解を深めるだけでなく、地元への愛着・誇りを育み、地域における自己の有用性に気付き、地域の一員としての意識を高め、地域貢献への意欲を醸成している。

○地域と連携した探究活動の支援

総合的な探究の時間において、地元企業・市役所等の大人に、社会の中でどのように生きていくかなどについて体験等を話してもらう取組を行っている。地域社会が様々な人から成り立っていることを知る機会となっており、生徒からは地域の一員としての意識が高まったとの声もある。今後、商工会議所の協力も得て、地域の大人が生徒の探究活動を支援することで、さらなる生徒の可能性や将来の生き方を導き出すなど、地域で育てられた若者が育てる側に立って次世代を育成していく姿を目指して、新たな取組(エリア探究)を始めたところである。

＜岡山県＞（種別：学校）　　岡山県立誕生寺支援学校

取 組 概 要

○情報発信のための広報活動における先駆的取組

「誕生寺支援学校高等部製品で地域を盛り上げよう」をテーマに、地元のＮＰＯ法人と連携し、作業学習で制作している備前の粘土を使った陶器のデザインや広報方法の改善、販路開拓などを行った。自分たちの製品に込めている思いを伝えるため、生徒自身が、ＮＰＯ法人に助言を受けながら、製品につけるロゴマークやキャッチコピーを考え、それらを活用したポスターの作成、掲示や配布を行うとともに、製品のプロモーションビデオやチラシも作成し、積極的な情報発信に努めた。これにより、企業から製品を自社顧客への返礼品として購入したいという注文をもらったり、地元の道の駅のレストランで製品の食器が使用されたりするなど、地域の中で新たな販路が開拓できた。これらの取組を通して、自分たちが考えたものが形になる喜びや顧客に自分たちの思いを伝えることができたという達成感を感じたことにより、自分たちの製品に対する自信だけでなく責任感も芽生え、生徒自身の自己効用感も高めることができた。

○顧客を意識した製品づくり

顧客を意識して製品づくりに取り組めるよう、「顧客の見える化」を行った。生徒が、製品の販売委託をしている寺院や、新たに製品を使用してくださることになった道の駅を訪問し、生徒が直接ニーズを伺う場面を設け、聞き取った内容を基に、生徒同士で対話を重ね、製品づくりを行った。また、納品時は、生徒が製品の説明を行い、直接納品するようにした。地域のみなさんが、生徒の話を真摯に聞いてくださり、「使いやすい大きさだ」「料理が映えるデザインだ」等の肯定的な感想をいただくことができた。この取組により、何のために作業をしているのか、自分たちの製品がどのように役に立っているのかを理解することができ、働く意欲の向上につながった。

○地域ボランティアと連携したアンテナショップの運営

地域の交流の場としての役割を担うため、地域のボランティアと共に地域の駅舎内でアンテナショップを運営している。アンテナショップでは、生徒が接客をしたり、製品を販売したりすることにより、地域の方から肯定的な感想や意見を直接聞くことができ、より仕事にやりがいを感じ、主体的に作業学習に取り組む姿が見られている。また、生徒にとっては、地域の方と直接交流できる貴重な場であるとともに、地域の方にとっても、住民同士が交流できる憩いの場となっており、地域にとってもなくてはならない貴重な場所となっている。

＜広島県＞（種別：学校）　　庄原市立西城中学校

取 組 概 要

当該校は、県の山間部に位置しており、少子高齢化という課題を抱えた地域にある。総合的な学習の時間では、「西城町のひと・こと・ものを活かした探究的な学習の創造」をテーマに、未来の西城町を担う人材を育成するために、地域の資源や人材を活用した学習活動に取り組んできた。取組を通して課題解決能力、表現力などの資質・能力の育成や、地域課題と向き合うことで、主体性、協調性、情報収集・整理分析力、課題解決力などの資質・能力の育成を図っている。

○　小中学校９年間を通した系統的な探究活動によるキャリア形成

育成したい資質・能力について、中学校区で学年段階に応じて児童生徒の具体的な姿で示したルーブリックを作成し、ルーブリックに対応した振り返りシートも作成して評価を行った。また、中学校区で「西城町を元気にする」という共通のテーマを設定し、総合的な学習の時間を中心に小中学校の系統性を意識した単元開発を行った。

○　生徒のキャリア形成につながる総合的な学習の時間の取組（第２学年「農業体験学習（職場体験活動）」）

第２学年の総合的な学習の時間では、職場体験活動を町の基幹産業である農業に特化して「農業体験学習」とし、それを「貢献活動」につなげた単元開発を行った。

貢献活動では、職場体験活動でお世話になった農家の野菜を広めるために、模擬会社を立ち上げ、西城町観光協会とも連携し、イベントのポスター作成やイベントへの出品の交渉等を行った。さらにイベント当日は野菜の販売会を行い、取組の成果を農家の人と共有した。

こうした活動を通して、生徒の社会や地域の一員としての自覚が高まり、地域のことをもっと知りたい、地域の役に立ちたいという気持ちが高まった。そこで、農業について深く知るために、実際に自分たちで学校に畑を作り、野菜を栽培した。さらに、令和６年度は、地域の食堂にこの畑で栽培した野菜とそれを使ったメニューを提供する取組に広がり、実社会との好循環の関係が生まれている。

この取組を通して、町の未来や自己の関わり方、自己の将来について考えるキャリアプランニング能力や望ましい職業観、自分たちにもできるという自己有用感を育むことができた。

○　生徒のキャリア形成につながるその他の取組

社会で活躍されている地元出身の方を招聘し、中学生に対して地元への思いを語ってもらう講演会を学校運営協議会が主催して開催した。この講演会を行うことで、自分の今後の進路について考える機会となり、キャリアプランニング能力の育成に寄与できた。

＜広島県＞（種別：学校）　　広島県立芦品まなび学園高等学校

取 組 概 要

当該校は、平成12年、生徒の多様な学びに対応するため、午前部、午後部、夜間部の三部制をとる定時制課程として開校した。

生徒個々に応じた個別最適な学びと、地域と連携した多様な教育活動を推進することにより、キャリア教育の充実を図り、生徒の資質・能力の育成を図っている。

１　生徒個々に応じた個別最適な学び

(1) 自らの良さを最大限発揮する多様なカリキュラムの編成

午前部、午後部、夜間部の各部４時限の授業を展開し、生徒の生活スタイルに合わせた学習が行えるようカリキュラムを編成している。

また、多様な選択科目を開講し、学習意欲や進路希望に応じて柔軟に科目選択を行うことができる仕組みを整えている。

(2) スクールソーシャルワーカー（ＳＳＷ）等との連携

生徒が抱える様々な課題の克服に向けて、ＳＳＷ等との面談を実施することで、生徒自身が自らの考えを整理しながら課題の解決に向けた方策を考えることができている。また、自己の将来の在り方を考える機会にもなっている。

(3) 柔軟かつ比較分析可能な進路情報の提供

就職を希望する生徒が働くことについて様々な角度から検討し、保護者とともに話し合うことができるよう、自宅からでもパソコンやスマートフォン等で求人票を閲覧できるシステムを導入している。（教員の働き方改革にもつながっている。）

２　地域と連携した多様な教育活動

(1) 地元ＮＰＯと連携した取組

令和４年度から令和５年度に実施した「まなびカフェ」の企画により、生徒が様々な人や地域団体等との交流ができる居場所づくりや雰囲気づくりを行い、他者や社会とつながる中で、自己肯定感を高める取組を行った。現在は、この取組をきっかけとして、生徒が社会とのつながりをより意識した教育活動を展開することができるよう地域団体から講師を招聘した教員研修を実施して体制づくりをしている。

(2) 職業観・勤労観を育むための地元企業でのインターンシップ

勤労の大切さや意義を理解する中で、自分と職業との関わりを考えるとともに、望ましい勤労観や職業観を身に付け、将来の職業選択に役立てることにつながっている。

(3) 生涯学習の場としての地域の方を対象とした聴講生制度等の開講

生徒が地域の方と一緒になって学ぶ機会を設けている。生徒は異年齢の聴講生と共に学習活動を行うことで「生涯学び続けることの大切さ」を認識している。

＜広島県＞（種別：学校）　　広島県立黒瀬特別支援学校

取 組 概 要

当該校は、昭和63年に開校した小・中・高等部を有する知的障害のある児童生徒対象の特別支援学校である。学校経営目標の一つに「地域と協働し、社会に貢献する学校」があり、学校教育目標を「挨拶・挑戦・地域参加」と分かりやすく単純化した。学校経営目標を基にし、学校教育目標の達成に向けた具体的な教育活動を展開することにより、一人一人の生徒が自らの良さと可能性を最大限に伸ばし、自分の力を発揮して、進路先や家庭、地域の役に立とうとする生徒を育て、社会的・職業的自立に向けた取組を推進している。

１　スタンダード化による統一した指導～学校教育目標「挨拶」～

教師による指導の違いによって児童生徒が戸惑うことなく、一貫した指導ができるよう、校内で統一した指導内容・方法を「挨拶スタンダード」「支援のスタンダード～教室環境編～」「支援のスタンダード～授業づくり編～」として策定し、学校が一体となって「スタンダード」に取り組んでいる。

２　主体的な学びの推進～学校教育目標「挑戦」～

すべての児童生徒が年度当初に自ら目標を立てて、挑戦カードに記入し、挑戦することを校長に報告する。年度末には、一年間挑戦し続けたことを校長に報告して、表彰を受ける。自ら設定して取り組んだことに対して評価されることで学ぶ意欲が向上し、主体的な学びが加速している。その結果、絵画のコンクールを始めとした様々なコンクールや障害者技能競技大会（アビリンピック）への挑戦と入賞が加速している。

３　社会に開かれた教育課程の実現～学校教育目標「地域参加」～

町内にある農園の無農薬バナナと食品加工班のお菓子づくりをコラボレーションしてオリジナルのお菓子「ばななマフィン」を開発した。市内にある自家焙煎コーヒー豆専門店とコラボレーションして、ばななマフィンに合うオリジナルコーヒー「黒特ブレンドコーヒー」を開発した。ばななマフィンと黒特ブレンドコーヒーで、学校内でカフェを開いてお客様を招いたり、町内の祭りや市役所に出かけてカフェを開いたりしている。地域の農業高等学校と連携・協働して、ばななマフィンの品質の向上と製造量の増加を行っている。生徒たちは自らの役割を果たして、校内や地域の人々に喜んでもらい、感謝される経験を積み重ねることにより、自己有用感が高まり、主体的に学びに向かう意欲や態度が育っている。

小・中学部の児童生徒は、高等部生徒の活躍を見て「自分たちもああなりたい」という展望を持ちながら、小学部では絵本の読み聞かせをとおした地域交流を進め、中学部では育てた観葉植物を地域施設に配付することをとおして地域参加を推進している。

＜山口県＞（種別：学校）　　岩国市立玖珂小学校

取 組 概 要

玖珂小学校は、玖珂中校区の９年間のめざす児童生徒像「ふるさとに誇りをもち、自分の夢や目標の実現に向かって努力する子ども」を踏まえ、キャリア教育を柱に学校経営を行っている。保護者や地域とともにキャリア教育に取り組むために「地域ぐるみで子どもの夢や目標を応援する学校」をスローガンとして発信し、学校はもちろん地域とともにキャリア教育を推進している。

１　小中一貫・地域連携教育の推進

（1）小中一貫教育のグランドデザインの共有

玖珂中校区の９年間の一貫教育の充実に向けてポスターを作成し、それを小中の教職員、保護者、地域と共有し、実践を行っている。

（2）玖珂地域学校・地域連携カリキュラムの作成、共有

総合的な学習の時間を中心に、地域と連携して行う学習を９年間を見通したカリキュラムに整理し、計画的、系統的に実践している。小中の教職員はもちろんのこと、学校運営協議会でも協議し、地域の方の意見も取り入れながらカリキュラムの修正を行っている。

２　キャリア教育の実践

（1）二分の一成人式

二分の一成人式を「１０歳の集い」と称して参観日に行い、保護者や地域の方々に感謝の気持ちを伝え、児童自らが将来の夢の実現に向けた意欲がもてるようにしている。総合的な学習の時間の一環として取り組み、お世話になった人に感謝の手紙を書いたり、自分が将来なりたい職業について調べたりし、単元のまとめとして「１０歳の集い」を行っている。

（2）職場見学

３年生が、社会科の学習の一環として、空港や市役所、工場を見学し、そこで働いている人の苦労や施設・設備などを知る活動を行っている。社会見学を通して、様々な仕事にふれ、そこで働く人の思いを知り、自分の将来について考える活動となっている。

（3）郷土学習

４年生が郷土学習として、「玖珂の歴史大発見」として単元を組み、鞍掛山登山や、「いきりこ」体験（大名行列）、祥雲寺見学、鞍掛城まつりへの参加を行っている。鞍掛城合戦の授業にゲストティーチャーを招聘したり、鞍掛城まつりで授業で学んだ「いきりこ」を祭り本番で披露したりして、郷土の人や行事に積極的に関わりながら学習を行っている。

（4）はばたけ６年生の会（６年生を送る会）

特別活動では、自己肯定感や自尊感情を高めることを意識した取組を共通理解して行っている。全校的な取組としては、縦割り班遊びや掃除、１年生を迎える会などの児童会活動があるが、ここでは、６年生を送る会の実践についての資料を添付している。

３　「キャリア・パスポート」の活用

（1）「キャリア・パスポート」マニュアルの作成、活用

「キャリア・パスポート」の意味・意義を知り、全校で共通して活用するために、教職員の指導用の「キャリア・パスポート」マニュアルを作成している。また、児童が「キャリア・パスポート」を自ら活用できるために、

児童用の「キャリア・パスポート」マニュアルも作成している。教職員用と児童用の「キャリア・パスポート」マニュアルを活用し、どの教室でも共通した実践が行われている。

（2）「キャリア・パスポート」の実践

「キャリア・パスポート」マニュアルをもとに、各クラスで「キャリア・パスポート」を活用している。児童が「キャリア・パスポート」の実践を行うことを通して、自分のよさや自身の成長に気付いたり、他者から認められたりすることで、自己肯定感や自尊感情を高めることができている。

＜山口県＞（種別：学校）　　山口市立阿東中学校

取 組 概 要

阿東中学校では、学校教育目標を「夢や目標に向かって努力し、人との関わりを大切にしながら、ふるさとに貢献する阿東っ子の育成」と設定し、生徒の社会的自立に向け、必要な基盤となる能力や態度を育成するため、地域人材や地域の企業、市内の大学等と連携・協働した組織的にキャリア教育に取り組んでいる。

地域等と連携・協働したキャリア教育を学校の特色とし、魅力ある学校にすることで、関係人口の増加をめざしている。

具体的には、総合的な学習の時間に「地域総合」を設定し、地域企業と連携した阿東地域の課題解決的な学習講座に生徒を縦割り班編成し、全９回の学習講座を実施している。阿東式プログラミング的思考を意識した実践的な活動を行っていく中で、キャリア教育の基礎的・汎用的能力の育成や確かな学力の育成に努めている。

＜具体的な取組＞

（令和４年度）

生徒が考える地域活性化について山口大学経済学部の学生との熟議で地域で行うイベントの内容を提案し、地域づくり協議会や地域の企業からの支援を受けて実現した。

（令和５年度）

総合的な学習の時間において、地域づくり協議会や地域の企業と連携し、商品開発やＤＸを活用した地域紹介などに取り組み、その成果を地域のイベントにおいて実践発表した。

県教委主催の「令和５年度第１回キャリア教育推進会議」で実践発表し、本県のキャリア教育の推進に寄与した。

（令和６年度）

総合的な学習の時間において、地域づくり協議会や地域の企業と連携して草刈り機の製作やプログラミングを活用したゲーム作成に取り組み、その成果を地域のイベントで実践発表した。また、地域のイベントでは地域の企業や県情報政策課が企画したブースがあり、最先端な技術に触れ、ＶＲ体験を行った。

＜山口県＞（種別：学校）　　山口県立柳井商工高等学校

取 組 概 要

１　学校の概要

本校は、大正９年（1920 年）に創立された柳井商業学校を前身とし、昭和１９年（1944 年）には機械科を設置して柳井商工学校となり、さらに昭和２３年（1948 年）の学制改革により柳井商工高等学校と改称されたのち、生徒数の増加に伴って昭和４７年（1972 年）に柳井商業高等学校と柳井工業高等学校に分離したが、平成１８年（2006 年）に両校を再編統合して改めて「柳井商工高等学校」となった経緯を持ち、現在、工業系は機械科と建築・電子科の２学科２クラス、商業系はビジネス情報科２クラスを有する。

この間、「至誠・礼節・実質剛健」の校訓のもと、地域に開かれた信頼ある学校・活力ある学校づくりの推進に努めており、令和元年度にはコミュニティ・スクールを導入し、地域との協働を一層図りながら様々な教育活動を展開している。また、商工高校としての特徴を最大限生かすために、商業と工業が連携を取りながら、商業の「ビジネス教育」、工業の「ものづくり教育」を中心に、生徒たちの可能性を伸ばし、想像力を育み、地域社会の要望に応えることのできる学校を目指して取組をおこなっている。

２　本校における課題研究の取組

３年課題研究では、それぞれの専門を生かし、少人数のグループに分かれ、工業系であればロボットの製作やものづくりの技術の探究、商業系であれば柳井市観光協会と連携した情報発信や地域の産物を生かした商品の開発の研究等に取り組んでいる。生徒は校内で専門知識や技術を学ぶだけでなく、外部機関等と連携して学習を深めるとともに、その成果を地元に還元し、郷土への愛着を育む活動も行っている。

こうした課題研究チームの中で、地元小学校と連携して高校生が小学生に指導する取組を行っているグループが２つある。小学生との活動が、地域や伝統の価値、また自分自身を見つめなおすことに繋がるなど、キャリア教育としても有効に働いている。

以下、その２グループの活動について述べる。

（1）まちづくりプロジェクトチーム

「まちづくりプロジェクトチーム」は、建築・電子科建築コースの生徒とビジネス情報科の生徒が共同で研究に取り組んでおり、一つは伝統工芸「柳井縞」を使った商品の開発、もう一つは伝統的な養蜂による蜂蜜の収穫・販売を行っている。

「柳井縞」は、大正時代まで柳井市の特産であったが、機械織機の発達とともにその後長く廃れていた綿織物である。本校では、この柳井縞に着目し、保存活動を行っていた市民グループと協働しながら、建築コースの技術を用いた織機の修復や新規製作を行い、それにより織物の生産を可能にしてきた。また、商工連携として、商業の知見に基づいて、その織物を使った商品開発に取り組んできた。

また、養蜂は令和４年（2022 年）から新たに始めた取組で、今年で３年目である。これも建築コースの木工技術を使って養蜂箱を製作し、専門の養蜂家の指導を受けながら、採蜜に取り組んでいる。採取した蜂蜜は、地元ホテルの常設コーナーで販売するなど、校内にとどまらない活動としている。

この柳井縞と養蜂について、生徒たちが単に自分たちで研究するだけでなく、近隣の小学校への出前授業を実施し、その成果の還元を行っている。

柳井縞については、平成２７年（2015 年）から、木工の技術を生かして可搬式の機織機も開発も含め、郷土の伝統工芸の普及啓発に努めてきた。今年度も５月から近隣の柳井市立小田小学校の６年生に対して指導を始めている。児童は卒業までに自分たちが織った織物を使った巾着袋等を作成する。

また、養蜂についても、児童が販売用のラベルをデザインして貼付するなど、児童自身も自分たちの活動が社会に繋がっていること感じることができ、その中で郷土への愛着を深めている。一方、高校生にとっても地元の児童との交流を深めることで、柳井を地元と感じる気持ちが育成されており、Win-Win の関係となっている。

なお、この取組については、令和５年度専門高校生徒の研究文・作文コンクールにおいて経済同友会賞を受賞する等、高く評価されている。

（2）プログラミング教室

「プログラミング教室チーム」は、ビジネス情報科の生徒の活動で、mBot というロボットの操作を通して小学生にプログラミングの基礎を教える活動を行っている。ロボットの操作によるプログラミングの学習は、平成３０年（2018 年）の全国産業フェア山口大会でのイベントで本校生徒がプログラミング講習の実演を担当したことを契機とし、単に一過性のイベントで終わらせないために、以後、課題研究の一つとして、地元小学生に対するプログラミング教室を実施している。現在は柳井市立柳東小学校及び小田小学校の５年生に参加いただいている。

使用している mBot は車型のロボットで、プログラミングによって前後左右に自走する。その動きをプログラムして、課題となっているコースを走らせることが授業での取組だが、小学生数人に１人の高校生がついて指導していく、また、走るコース図は地元の名所旧跡等を配したもので、児童は郷土に親しみを持ちながら課題に取り組んでいる。

この取組は、小田小学校では平成３０年から、柳東小学校では昨年から行っているが、それぞれ数回の授業を行う中で、小学生がプログラミングに興味を持つということだけでなく、高校生にとっても、説明力が向上し、年長者としてのふるまいが磨かれていくといったメリットがあり、こちらも Win-Win の関係となっている。

３　今後に向けて

以上のように課題研究での小学校との取組には、単に学習を深化させるだけでなく、児童とのかかわりを通じて高校生自身が人として成長する契機となっており、キャリア教育としても見るべきものがある。

残念ながら、本校は再編統合により令和７年度をもって生徒募集を停止し、令和１０年（2028 年）３月には閉校となる。これまでの連携小学校においては、本校がなくなることを非常に惜しむ声が大きい。本校としてもこれまでの取組を、再編統合によって生まれる新高校にどのように継承していくことができるかが今後の大きな課題である。

＜徳島県＞（種別：学校）　　東みよし町立昼間小学校

取 組 概 要

東みよし町立昼間小学校は、令和５年度に「１００年先を創る起業家育成事業」の指定を受けて、地域の起業家と連携して、起業家精神や起業家として必要な資質・能力の育成に取り組んだ。地域の課題を見つめ直し、地域の良さを生かした産業を創造して、新たな価値を生み出すことを学ぶ体験活動を行っており、教育実践の好事例を生み出している。

【具体的取組】

１　各学年での取組

〇ツリートレッキング

大自然を観光資源に変え、新しい価値を見いだすことについて、その施設から学んだ。

〇いちご農家

Ｉターンで引継ぎ、地元でいちごを生産している農園で、地方における事業継承問題について学んだ。

〇誰もがすごしやすい避難所

町の関係機関と連携して、避難所の在り方や自分たちにできることを考えた。学習の成果は、マインクラフトで表現し、広く多くの人に見てもらった。

２「三好地域の魅力を活かした仕事シンキングフォーラム」の開催

〇地域の方々を招き、これまでの体験活動を通して学んだ、ふるさとの魅力や温かさ、地域の仕事について発表を行った。

【成果】

起業家の精神を育むためには、ふるさとの魅力を今の時期に感じておくことが大切であるが、これらの実践を通して児童がふるさとに誇りを持ち、将来のふるさとを担う意識を高めることができている。また、学校全体で校内では学べない内容の価値を理解し、地域・企業に協力を願うだけでなく、地域・企業にとっても実りのある連携が図られている。

＜香川県＞（種別：教育委員会）　　三豊市・三豊市観音寺市学校組合 教育委員会

取 組 概 要

中学生「映画制作スクール」

【事業概要　～映画『みとよ物語』の制作～】
三豊市内の中学生（三豊市立中学校６校、学校組合立中学校１校）を対象に、創造力や表現力、対話する力や伝える力、自尊感情等を養うとともに、多種の職業への夢を持ってもらうことを目的に、令和元年度から始めた事業である。東京で活躍するプロの指導を受けながら、脚本・監督・キャスト・撮影・照明・音響などを、すべて中学生が主体となって映画『みとよ物語』を制作する。

【具体的取組　～日本一贅沢な職場体験学習～】
○　５月に生徒募集を開始し、６月中～下旬にオリエンテーション及び脚本講座を実施する。数回の脚本講座を経て、脚本を決定した後、９月中旬に撮影する。その後、１０月に完成披露試写会、１１月に上映会を実施する。
○　当初は１本の作品（約２０分）のみを制作していたが、参加人数が増えてきたため、令和３年度からは２本の作品（各１０分程度）を制作している。学校を舞台にした内容であるが、ＬＧＢＴＱやヤングケアラー、貧困問題などの社会問題をテーマとしたメッセージ性のある作品もある。
○　講師として、東京で活躍する人々を招いて指導をいただいている。演技指導では、第一線で活躍している俳優さん（安藤玉恵、片岡礼子、髙橋洋、黒木瞳など）も毎年参加している。
○　参加生徒は毎年増加しており、本年度は３４名の中学生が参加している。卒業後も「チューター」として参加し、後輩にアドバイスを行っている。
◎　当初の目的は、生徒たちの表現力や創造力などを育成することであったが、映画制作を通して、社会人（職業人）と関わる中で、出演者だけでなく、裏方のスタッフなど様々な役割の人々と一緒にひとつの作品を作り上げる過程を経験することで、生徒たちは将来の選択肢を広げる可能性を感じることができるようになった。そのため、「日本一贅沢な職場体験」と名付けている。

【発展的取組　～三豊から発信～】
○　昨年度は、「さぬき映画祭」で上映されるとともに、これまでの取組が認められて表彰された。本年度は、「岡山映画祭」で上映される予定である。
○　本年度、講師や設備レンタル（カメラや音響など）の費用を得るために、クラウドファンディング型ふるさと納税を利用して、地域の人々など（中学生の応援団）からの支援をいただいている。
○　今後、本市の「放課後改革」の一環として、中学校の部活動（仮称映画部）としての活動へと発展させていく予定である。

＜愛媛県＞（種別：教育委員会）　　愛媛県教育委員会

取 組 概 要

愛媛県教育委員会では、地域を担う人材の育成を目指して、地域産業や企業の活動を知り、地域で働き、地域で生活することの魅力を実感できるよう、全公立小・中学校において「えひめジョブチャレンジU-１５事業」を実施するとともに、全県立高等学校及び中等教育学校において「ソーシャルチャレンジ for High School 事業」を実施するなど、小学校から高等学校までを通じたキャリア教育を推進している。

○えひめジョブチャレンジU-１５事業

令和元年度より全公立中学校及び中等教育学校で原則５日間の職場体験学習を行っている。また、中学生を対象とした「地域を越えて、愛媛を知ろう！愛媛の魅力新発見プロジェクト」を実施し、住んでいる地域外の県内企業等を見学・体験する機会を提供している。さらに、Ｗｅｂサイトを開設し、各校の取組やキャリア教育に関する情報等を発信している。令和５年度からは、全公立小学校６年生を対象に、一斉オンライン授業「プレジョブチャレ」を実施し、小学校でのキャリア教育の充実及び中学校での職場体験学習への期待感の高揚を図っている。

○ソーシャルチャレンジ for High School 事業

全ての県立高等学校及び中等教育学校において、令和５年度から実施しており、高校生が、地域の課題について地域社会と連携しながら解決を図る体験的な活動を実践するとともに、愛媛で働く魅力の発信、多世代交流等の様々な活動を行っている。特に、「地域の課題解決プロジェクト」では、高校生が、地域の課題解決に向けた研究活動や、地域の魅力を再発見しＰＲする動画を作成する機会を設定するなど、地域社会で主体的に活動できる人材を育成したり、愛媛で暮らすことや働くことの意義を再発見させたりしている。

＜愛媛県＞（種別：学校）　　松山市立久谷中学校

取 組 概 要

松山市立久谷中学校は、「自主・協力・奉仕」の校訓の下、「豊かな心をもち、共に生きる生徒の育成」を学校教育目標とし、キャリア教育を学校運営方針の中心に位置付け、計画的にキャリア教育を推進している。

○キャリア教育とＮＩＥ活動を関連させた取組

地域課題解決に向けた探究活動を継続的に実施している。地域活性化をテーマとして新聞記事を基に考え、地域の方々に向けて提言を行ったり、根拠となる新聞記事を提示しながら、よりよい久谷の未来像について話し合ったりする活動に取り組み、地域を愛し、地域を大切にする心情を育んでいる。新聞を活用することで、世の中について広く知り、社会の出来事に対して自分の意見を持ったり、自分たちの未来について考えたりすることができており、一人一人のよりよいキャリア形成につながっている。

○地域と連携した活動

松山市による「まちかど講座」の受講や、愛媛大学や久谷地区まちづくり協議会による「フィールドミュージアムアカデミー久谷カレッジ」への参加を通して、まちづくりについて考えたり、地域の特性や資源を再発見したりするとともに、公民館のライトアップ事業や四国遍路の札所でのお接待のボランティアを行うなど、地域と連携した活動を実施することで、地域愛や奉仕の精神の涵養を図っている。

＜愛媛県＞（種別：学校）　　愛媛県立野村高等学校

取 組 概 要

愛媛県立野村高等学校は、普通科・農業科の併設校であり、生徒の進路希望や適性に応じてよりよい将来の選択ができるように、様々な活動を通じてキャリア教育を推進している。

○インターンシップの実施

普通科・農業科の１年生全員が２日間の就業体験を、農業科の１年生全員が３日間の地域でのファームステイを実施し、望ましい職業観・勤労観の育成を図る取組を行っている。

○人材育成講座の実施

外部講師を招聘し、地域産業の魅力やライフプランニングの講話を実施することで、職業観を育成するとともに自己理解の促進を図っている。また、講話を通して、各自の適性に応じた進路選択ができるよう促している。

○キャリア教育の全体計画

年齢の異なる世代との交流、講演会、就業体験などを通して生徒のキャリア形成に努めている。また、年度初めの職員会議で取組や内容、目的などの周知徹底を行っている。

○キャリア教育に係る情報発信

本校は、普通科・農業科の併設校であり、生徒の進路希望や適性に応じてキャリア教育を推進していることから、本校ホームページにも、キャリア教育に関する内容を掲載し、県内外や地元企業に向けて、広く情報発信を行っている。

＜愛媛県＞（種別：学校）　　愛媛県立新居浜特別支援学校

取 組 概 要

○キャリア教育の全校体制による取組

グランドデザインを踏まえて、各学部段階におけるキャリア発達に関わる諸能力の目標を設定し、授業改善や専門性の向上に取り組んでいるほか、保護者との共通理解を図りながら、卒業後の自立と社会参加を見据えた組織的・系統的なキャリア教育の実践に取り組んでいる。

校内に配置している就労支援コーディネーターと連携し、企業訪問を積極的に行い、障がい者雇用に関する啓発活動や現場実習の受入れ・就労の促進に努めており、卒業生についても、企業担当者を交えた支援会議の実施など、関係機関と連携を図りながらアフターケアに努めている。その結果、令和２年度から令和４年度までの３年間に離職した７名のうち６名が再就職等を行っており、福祉就労を含めた直近３年間の再就職率は、県立特別支援学校全体の61.5%に比べ、85.7%と高い水準を保っている。

○他校種等と協力した地元への理解・愛着・誇りを育む取組

高等部では、四国中央市立三島小学校の児童が卒業式で使用する水引コサージュを製作・納品している。依頼者である児童と直接、配色等の打合せをオンライン会議システムで行うなど工夫を凝らした取組により、地元の特産品を活用したキャリア教育の充実を図っている。

また、小学部では給食センターを訪問しての職業見学を、中学部では事業所関係者と当該事業所に就労している卒業生を交えた職場見学・体験を実施するなど、児童生徒の仕事への意識付けや働く力の育成につながる活動に積極的に取り組んでいる。

○地域に貢献する体験活動の実施

各部とも地域の公園で清掃活動を行っており、高等部においては、地域の方と一緒に公民館の清掃活動にも取り組んでいる。また、地方祭前には会場となるグラウンド周辺の清掃を各部で行い、高等部においては、地方祭当日にお接待も行うなど、地域に貢献する人材の育成を目指したキャリア教育を推進している。

＜高知県＞（種別：学校）　　高知県立窪川高等学校

取 組 概 要

創立81年目を迎える高知県立窪川高等学校は、校訓「友愛、誠実、勤勉」のもと、社会の課題解決に向けて行動ができる人材の育成を目指している。「起業精神」「ICTの活用」「協働する勇気」の３つのポリシーを教育活動の中心に置きながら、地元企業や自治体等と連携し、地域の課題解決に取り組むなど、社会的・職業的自立に向け、必要な基盤となる能力や態度を育成するキャリア教育の充実を図っている。

（1）地域をフィールドに生徒の「のびしろ」を伸ばす「地域課題研究」

積極的に地域と関わり、地域をフィールドにして様々なことに挑戦する中で、地域の特色（人、物、場所、産物など）を通じて生徒が自分自身の興味・関心を発見したり、地域の魅力を再発見したりするプログラムを地域の実態に合わせて開発し、総合的な探究の時間と学校設定科目「地域課題研究」の中で３年間をかけて展開している。

１年次には、地元自治体や商工会等独自のコンソーシアムと連携し、地域やそこに暮らす人々を幅広く知る「フィールドワーク」、地域でまちづくりに関わる人々を学校に招き、その想いを知る「まちゼミ」などを実施し、人生のロールモデルとなる人々の働き方・生き方を知ることで、働くことの意義や役割への理解を深めたり、自身の将来について考えたりする機会を設けている。

２年次には、大阪への修学旅行において地元産品を販売する模擬店舗の出店体験や、１年次の学びでつながった地域の方々と協働した文化祭の企画運営を取組の柱としている。特に、運営・広報・デザインなどのチームに分かれ、会社形式で文化祭の企画運営を行う中で、生徒たちは、小さな失敗を繰り返しながら、「計画を立て実行すること」「相手の都合を考えること」「事前に確認すること」「報告や連絡、相談すること」の大切さなどを実感している。これら、行事を通して達成感とともに得たものを、振り返り言語化し、１月の学習成果発表会で報告することで、社会的・職業的自立に必要な資質・能力を身に付けることの重要性を改めて確認する機会としている。

３年次には、２年間の活動を通して自分が興味を抱いたテーマを選び、地域に出向いて探究を深める個人研究を行っている。研究の成果はレポートやプレゼンテーション、制作物、イベント企画などの形にまとめ、地域の人々に発信している。近年では、防災、空家活用などのテーマで研究が進められ、地域を担う人材として地元への理解や誇りを育んでいる。

（2）資質・能力の育成を意識した学校行事の見直し

新型コロナウイルス感染症の影響により、各校で学校行事の中止や延期、変更等が行われていた令和３年度以降、行事概要書の作成・活用による学校行事の見直しも進められている。行事概要書は、「行事名」「目的・目標（育成すべき資質・能力）」「実施内容」「昨年度からの変更点」等が整理できる共通様式となっており、職員会議における各行事の提案説明等に活用されている。

育成する資質・能力を含む目的・目標を行事ごとに再確認することにより、行事を行うことが目的化せず、絶えず教員間で「何のための学校行事なのか」について共通認識をもつ機会が生まれた。また、特別活動の全体計画や年間指導計画とも連動させることにより、育成する資質・能力ベースで行事間や各教科・科目等との関連性も次第に意識されるようになった。行事実施後には、速やかに反省点を踏まえて次年度に向けた変更点を整理し、職員全体の反省会で共有するなど、検証改善（PDCA）サイクルが推進されることにより、結果として教員の働き方改革にもつながっている。

＜福岡県＞（種別：学校）　　小中一貫校　東峰学園

取 組 概 要

小中一貫校東峰学園では、「学習していることの意義や自分にとっての価値を見出し、学ぶことへの充実感を味わうことができる子ども」を目指し、主に総合的な学習の時間を中心にキャリア教育を位置付けている。

以下に示す「育成を目指す能力や態度」を身に付けることができるように、特に、地域や大学等と連携した特徴ある事業（APU 学生とのキャリア発達促進事業、職業体験事業）を中心として、推進計画を基にキャリア教育を実施し、児童生徒の振り返りや活動の様子を基に計画を見直しながらキャリア教育に取り組んでいる。

１　育成を目指す能力や態度

○　多様な他者の考えや立場を理解し、立場を明確にしながら自分の考えを伝えることができる。
「かかわる力」（人間関係・社会形成能力）

○　自分ができること、大切だと感じること、これから取り組むことが分かり、自分の目標に向かって行動することができる。　「のりこえる力」（自己理解・自己管理能力）

○　生活や学習において課題を見つけ、その解決に向けて計画を立てて解決することができる。
「よりよくする力」（課題対応能力）

○　目標とする生き方や進路について、情報を収集・選択・活用しながら主体的に判断し、自己決定することができる。　「いかす力」（キャリアプランニング能力）

２　取組内容

①　地域の方、村出身の先輩の方々等「憧れモデル」とのふれあい体験及びAPU 学生とのキャリア発達促進事業（中学部）

○　中学生と APU の学生が村内を一緒にめぐり、地域の方と関わりながら、村のよさや課題を見つける「東峰村フィールドワーク」を実施し、過疎化が進む村の「地域振興プラン」について協議を行った。最終日には、APU の学生が作成した「地域振興プラン」の報告に対して、地域の方、生徒、学生とで意見交流を行った。生徒は、「もっと観光客を呼ぶことができるような取組をしたらいいと思います」「私も村がもっと盛り上がるような仕事や取組をしてみたい」等様々な視点から、村の将来や自己の生き方について考える姿が見られた。このような活動により、「よりよくする力」（課題対応能力）「いかす力」（キャリアプランニング能力）を高めることができた。

○　東峰村出身で、社会で活躍されている方（看護師やスポーツ選手等）を児童生徒の思いや願いに応じ、講師として招聘したり、夢をもって日本に留学している APU 学生を講師として招聘したりして、「夢探し講座」を実施した。そこで、講師の仕事に対する思いや苦労、今に至るまでの過程や自分自身の夢の実現に向けて現在取り組んでいること等を聞き、生徒が自分の将来について考える場を設定した。多様なキャリアモデルから、仕事に対する理解とともに自己の生き方について考えることができた。このような活動により、「のりこえる力」（自己理解・自己管理能力）、「いかす力」（キャリアプランニング能力）を高めることができた。

②　職業体験事業（小学部１～３年、中学部８年）

○　事前に将来の夢や仕事に対する思いを高める活動を行った後、小学部１～３年生の児童が「キッザニア福岡」を訪問し、様々な職業・文化に触れる体験活動を行った。職業の模擬体験をすることで、多様な職業を知るきっかけとなっただけでなく、働くことへの憧れを抱く様子が見られた。中学部では、小学部や地域の菓子店、鳥類センター等で職場体験を実施した。活動後には、「キャリア・パスポート」に体験後の振り返り等を記述し、自己の変容や将来に向けての思いや考えを蓄積していった。このような活動は、働く意義を考えたり、自己の将来像を具体的に描いたりしながら進路等の自己決定のきっかけとなり、児

童生徒の「のりこえる力」（自己理解・自己管理能力）、「いかす力」（キャリアプランニング能力）を高めることができた。

③ APU（立命館アジア太平洋大学）留学生との国際交流事業（小・中学部）

○ 留学生を学園に迎え、全校でのレクリエーションや小学部、中学部の外国語授業の中で、互いの文化を紹介し合ったり、日本の遊びを一緒に体験したりする交流活動を実施した。児童生徒は、積極的に話しかけたり、知っている英語やジャスチャーを用いたりしながら自分の考えを伝えていた。このような活動により、「かかわる力」（人間関係形成・社会形成能力）を高めることができた。

以上のように、東峰学園では、児童生徒に目指す能力や態度を身に付けることができるように、小中一貫校の強みをいかしながら、地域や様々な施設（大学）等と連携・協力をして、計画的・系統的・継続的にキャリア教育に取り組んでいる。

＜福岡県＞（種別：団体）　　福岡県立糸島高等学校ＰＴＡ

取 組 概 要

本校ＰＴＡでは、キャリア教育の一環として、学校行事における生徒支援を中心に、家庭のキャリア教育力向上、生徒の勤労観の育成、職業観の育成につながる以下のような取組を学校と連携・協力しながら行っている。

１　ＰＴＡ主催による視察研修

本校ＰＴＡの研修委員会が中心となり、生徒のニーズに合った訪問先を学校側と協議し、年に１度視察研修を行っている。視察研修では、九州内の国公立大学１校と私立大学１校の計２校を訪問し、大学のキャンパス視察や最新の入試制度、大学入学後の学校生活、卒業後の大学院進学や就職の状況の説明を受けている。また、訪問先に在籍する本校卒業生との対談も実施している。訪問先の大学で大学職員や卒業生に直接話を聞くことができ、進路先の選択肢の一つになるなど満足度の高い研修であるため、毎年多くの保護者が参加されている。学校で行われているキャリア教育活動とＰＴＡの研修活動の２つの歯車がうまく噛み合う非常に良い活動になっており、家庭において保護者と生徒が大学進学について話すきっかけや話題づくりにも役立っている。

２　文化祭における企業紹介

本校の文化祭では、地域連携事業という企画で生徒が選んだ地域の飲食店がキッチンカーや屋台を出店しており、生徒や参加者に好評を博している。出店に当たっては、ＰＴＡや同窓生が地域の飲食店の情報を提供すると共に、生徒が特に興味を持ちそうな店舗選びも生徒と連携して行っている。その後は生徒が主体となって出店交渉を行い営業まで携わっている。生徒は、誘致活動、準備、営業活動等「生きた教材」をとおして、職業観を育成する重要な機会となっている。

３　ボランティア活動への支援

本校が目指す「グローカルリーダーとして地域の活性化に貢献する人材の育成」につながる取組として、多くの生徒が、糸島市民祭り、前原山笠、福岡マラソン等の地域イベントにボランティアとして参加している。ＰＴＡと同窓生が協力しながら、ボランティアとして参加できるイベントの新規開拓や継続参加ができるよう調整を行い、地域からも大いに感謝されている。

＜佐賀県＞（種別：学校）　　唐津市立竹木場小学校・高峰中学校

取 組 概 要

小中の９年間を見通し発達段階に応じた取組を展開している。学校外の様々な人と接することで視野を広げるとともに、地域に対する理解と愛着を深めている。また、活動を通して、表現力、コミュニケーション能力を身に付けるとともに、勤労観・職業観を学んでいる。

児童生徒が学ぶことと自己の将来とのつながりを見通しながら、社会的・職業的自立に向けた基礎的・汎用的能力を育んでいる。

１　学校のキャリア教育への取組

校内研究としてキャリア教育に取り組み、小学校と中学校が連携したキャリア教育を推進している。小学校から体系的にキャリア教育を研究・実践し、将来の生き方について考える機会を設け、キャリアマナーを育成し、望ましい職業観・勤労観を身に付けることができるよう研究を深めている。また、自己の個性を理解したうえで、主体的に進路を選択する能力や態度を育て、学びの動機付けと活力ある生活への取組も行っている。例えば、総合的な学習の時間では、小学校と中学校が連携したマナー講座やマナー検定を行い、中学校で行う職場体験につなげている。他にも、体験学習を系統的・計画的に実施し、これらの学習活動を基に、振り返りを行い、全校生徒に伝えるスピーチ集会を２５年近く実施し、児童生徒のキャリア意識を育む活動を組織的・継続的に行っている。

２　「キャリア教育表」や「活動記録表」の活用による資質・能力の向上

キャリア教育で身に付けてほしい能力を「情報活用力」、「人間関係力」、「将来設計力」、「意思決定力」に分類し、系統的・計画的な学びにつなげている。また、生活科・総合的な学習の時間の学習活動をこの４つの能力で分類し、学習活動で身に付けてほしい能力を可視化した「キャリア教育表」を作成している。小中すべての学年が単学級のため、担任が１年ごとに変わることがあり、新学級担任への系統的・計画的な学習活動の引き継ぎが難しい面が課題として見られた。そこで、「キャリア教育表」を基に、指導者が「活動記録表」に学習活動と目標とする児童生徒に身に付けさせたい力を記入して引継ぎ資料にしている。これによって、各学年の学習内容が可視化されることで、全職員が他学年の活動内容の把握をすることができるようになり、９年間の系統的・計画的に継続した指導につなげることができている。

実際に行っている単元は、小３「竹木場地区の方に教えてもらおう」、小５「私たちのSDGｓ　明日の竹木場のためにできること」、中１「営農センターに学ぶ」、中２「職場体験」・「松葉かき体験・職業講話」等である。まとめの学習後は、教師のコメントや評価を行い、児童生徒の自己評価につなげている。年度末には、全校の児童生徒にアンケートを実施し、児童生徒が４つの資質・能力の中でどのような力が身に付いたと考えているか達成率を集計している。その中で、生徒の変容を見取り、成果と課題を職員で振り返るようにしている。

３　マナー検定によるキャリアマナーの向上とスピーチ集会による自己肯定感と表現力の向上

小学５年生からマナー検定を実施することで、高学年になるにつれ、あいさつの仕方など学校生活の中でのキャリアマナーが向上している。特に、立ち止まって大きな声であいさつする児童生徒が増えている。マナー検定の実施にあたっては、まず外部講師を招聘し、マナー講座を実施し、正しいマナーについて学ぶ機会を設けている。マナー検定本番は、グループごとに職員２名が面接を行う形式で、正しいあいさつの仕方や受け答え等をレベルに応じたマナーチェック表を基に、評価している。検定は級を設けており、レベルアップしていくことが児童生徒の励みになっている。このマナー検定に加えて、中学校では、小規模校の利点を生かし、すべての生徒が一人で全校生徒の前でスピーチを行うスピーチ集会を実施している。生徒は、これまで体験したことや自分の興味・関心のある内容や夢について発表を行う。生徒による司会でスピーチ集会を進行し、発表後、生徒は、ワークシートにいくつかの視点を基に、質問や感想を書き加える。この活動を通して自分のよさや可能性に気付かせ、自己肯定感や表現力を向上させる活動を継続的に行っている。

４　市教育委員会による体験活動の支援

唐津市教育委員会の「いきいき学ぶからつっ子」事業により、体験活動や講師招聘の予算化が円滑に行われ、キャリア教育活動の充実につながっている。また、これまで本事業を通して地域人材とのつながりを深めることができ、地域との協力体制の構築につながっている。

これらの取組や支援を通して、学校教育目標「夢を語って夢を追う児童生徒の育成」の具現化に向けたキャリア教育を小学校と中学校が連携の中で深め、組織的・継続的に充実させることで発達段階に応じた能力の育成を図っている。

＜佐賀県＞（種別：学校）　　佐賀県立唐津商業高等学校

取 組 概 要

３年間を見通した体系的なキャリア教育指導体制ができており、その目的も明確である。また、進学希望生徒も含め、学年に応じたキャリア教育が実施されていることに加え、地域との連携を大切にし、生きがいや人生の意義を自ら考える活動に挑戦する姿勢がある。

１　地元企業と連携した商品開発

３年次に履修する「課題研究」においてからつ学美舎というインターネットショッピングモールの運営を行っており、地元企業の活性化を目的としてＨＰの作成や販売実習、イベントの手伝い、商品開発など生徒主体で取り組んでいる。商品開発では、明太子の製造過程で出る副産物のバラコを使った明太クリームパスタソースを開発し、商品化に成功した。その取り組みを「佐賀県生徒商業研究発表大会」で発表し最優秀賞を受賞、その後九州大会に出場した。

２　地域課題の解決に向けた取組

地元の起業家を外部講師に招聘し、生きたビジネスを学ぶために地域社会や地域産業の振興・活性化（課題解決・提案）の実践を行った。具体的取組として、加唐島の椿油を搾った後に捨てられる残渣を堆肥にするコンポストのビジネスプランを作成し、アイデアコンテスト等に応募して企画を発表した。令和４年度「佐賀さいこう企画甲子園」では２次予選を通過し本選まで進出した。また、「Karatsu WILL Project」では最優秀賞を受賞した。そして、令和６年度全国産業教育フェア栃木大会にて開催される全国高校生ビジネスアイデアコンテストにおける最終決勝ラウンド進出８校に選出され、優秀賞（最優秀賞１校、優秀賞２校）を受賞した。この取組によって、生徒は地域社会の現状と課題について真剣に向き合い、解決策を探る中で自ら考え学ぼうとする自主性や表現力を身に付けることができ、人間形成において重要な役割を果たすことができている。

３　キャリア教育の実践

生徒の卒業後の進路希望は、７割近くが上級学校への進学希望であり、未だ働くことについてイメージを持つことができていない現状がある。専門高校である唐津商業高等学校は、地域社会の発展に貢献できる人材育成を目標としている。そこで、生徒が「働く」ことを自分事として考える機会を設け、職業や職種、地元企業の理解を深める取組として「唐津商業高等学校仕事塾」を開催している。地元企業の社長や人事担当者を講師として招聘し、進学希望者も含めた生徒に対し、業種が異なる複数企業の話を聞くことで、近い将来体験する、人生における将来展望を描いた的確な職業選択につながる視野を育むことを目的としている。

また、専門的知見を有するキャリアコンサルタントを講師として招聘し、キャリア形成に必要な基礎知識を学んだ上で、働くことを通して、自分らしく生きて行くためには、「自分を知る」、「社会を知る」ことが必要であり、主体的な活動の中から見出していこうとする姿勢を育む取組を行っている。

４　地域連携活動への取組

自らが幸せな生活を送るためには、周囲の方々や地域社会がともに満たされ幸せな生活を実現する必要がある。そこで、ウェルビーイングクラブを発足し、地元社長、ＮＰＯ法人代表、大学生や地域住民等との交流を通じて地域社会における課題を見出し、自分にできること、やりたいことを見つけ、行動する取組を行っている。生徒が主体的に地域の課題を見つけ解決に向けて動き、具現化する過程を経験することは、人生におけるやりがい、生きがいの発見につながり、自己肯定感を高め、自己成長できる取組になることを目指している。

これらの取組を通して、生徒が積極的に進路について考える機会を増やし、進路決定までを主体的、計画的に進めていくことができるように図っている。

＜長崎県＞（種別：学校）　　長崎市立長崎中学校

取 組 概 要

予想困難な時代を生き抜くために、長崎中学校では「しなやかに考え、あきらめずに挑戦する生徒」を育成課題に掲げている。

この育成課題の解決に向けて、起業体験学習を行った。

主な取組内容として、起業家教育を支援する企業から講師を招き、起業までの一連の流れを体験する起業体験講座を行い、生徒の起業への意欲を高めた。

その後、会社を設立し、段階的にコンペティションを行い、２６社から審査された４社が会社を設立することになった。

なお、審査を通過した４社は、ＳＤＧｓに貢献するために売れ残りのフルーツや野菜を加工した雑貨を販売する会社、ストレス軽減や健康増進に貢献するために長崎をモチーフとした座布団などを販売する会社、心温まる町づくりの推進を目的として手作りのレターセットの販売及び手紙代筆サービスを提供する会社、収益金を殺処分ゼロのために寄付することを掲げ尾曲猫をモチーフとしたお守りを販売する会社となった。

４社は活動資金を集めるために株主募集会を実施した。株主募集会では、保護者だけでなく、地域の方も参加し、企業理念や社会貢献活動について説明するとともに目標とする活動資金額を発表し、４社とも十分な活動資金を得ることができた。

また、一連の学習の中では、起業体験学習のみならず、与えられた時間でわかりやすく商品をＰＲする力や販売のときの接客態度やコミュニケーション力を養うためにお笑い芸人を講師に招き「漫才ワークショップ」を実施するなど、生徒の資質能力の育成のために、学習の幅を広げた。

様々な講座や講演、コンペティション、株主募集会などを経験した生徒たちは、１０月の学校行事である「おおとり祭」における商品販売会に向けて、商品としての質を高めたり、宣伝の方法を考えたりして、さらに試行錯誤を繰り返し、学びを深めた。

「おおとり祭」での商品販売会では、生き生きと活動する生徒の姿から、あらゆる学習を通して自信を深めた生徒の姿が見られた。なお、売上金については、犬や猫の殺処分ゼロのための寄付を掲げていた会社以外は、株主に配当金として分配した。

長崎中学校の起業体験学習は、地域行事との兼ね合いから２年に１度のスパンでの実施を計画し、未来を担う子どもたちの社会を創造していく力を高める取組として更なる飛躍を目指している。

【ホームページ】https://www.nagasaki-city.ed.jp/nagasaki-j/information/起業体験学習事業主報告会/

＜長崎県＞（種別：学校）　　長崎県立佐世保商業高等学校

取 組 概 要

①３年間を見通した組織的・継続的な進路指導の実施

まず１年次には生徒全員がインターンシップを経験する。主に県北地区の６０数社の企業に依頼し、事前の電話連絡や打ち合わせから生徒達自身が行う。実施後はアンケート結果や事業所からの声、生徒の感想文等をまとめ冊子化した実施報告書を作成し、成果や課題の共有を行う。２年次は希望者のみの県内企業見学会、生徒全員を対象とした県内企業説明会を実施している。現在は進学希望者の割合の方が高いが、上級学校を卒業した後の進路選択に活かしてもらう意図もあり、全員対象にしている。３年生の進路決定後は「受験報告会」を実施し、１・２年生に対してアドバイスを話す機会を設けている。このように生徒が自らのキャリアについて考える機会を豊富に、継続的に与えることができている。

②情報マーケティング科による模擬店舗の出店や商品開発の実施

校内に一般客も買い物に来ることができる実習店舗「SASHO マルシェ」を年間２５回程度開店している。模擬企業として取り組み、全ての企業活動を生徒主体で運営している。多くの企業と連携した販売実習で、地元の企業や商品のＰＲも行い、地域に貢献できる活動となっている。また、これまで、地域企業と生徒が共同開発した商品を多く販売してきた。６次産業化に取り組んだ「Rice ドーナツ」、世知原茶の振興のために開発した「どら茶々」は、現在もイベント時の人気商品となっている。また、佐世保の新しいお土産品として、同窓会や地元企業と連携して開発中の商品は、県内販売に向け改良中である。さらに、アントレプレナーシップの醸成のため、金融機関の支援を受け、多くの生徒がビジネスプラン作成の実習を行っている。

③商業科及び商業クラブによる地域課題解決に向けた取り組みの実施

「課題研究」の授業では、地元の課題を題材に探究活動に取り組み「ふるさと肯定感」の育成に努めている。昨年は地域の企業や施設と連携して観光マップを作成し、自治体や企業の協力で市内数カ所の施設に配布した。今年は、商業クラブの生徒を中心に、商店街活性化を目的としたイベント「ふぇす」を企画・実施した。自治体・企業・各団体と連携し、商店街への集客に貢献した。その実践力は高く評価され、市長表敬・イベント企画・地域活性化組織運営への参画依頼など、大きな反響があった。

＜長崎県＞（種別：学校）　　長崎県立島原農業高等学校

取 組 概 要

生徒が地域課題を発見し、その中に価値を見出し、新たな商品や企画として形にする学習活動や販売実習を実践し、キャリア意識を醸成してきた。

開発した商品の例として、地元で栽培される高品質の有機栽培レモンの規格外品を有効活用し、その可能性を広げようと地元の大学や企業の指導助言を得ながら開発したレモンタルトの「レモッタ」や、レモッタの製造工程で生じるレモンの残渣を島原伝統の和ろうそくの着色に活用したレモンキャンドルの「レモドル」などが挙げられ、地域性を意識した商品が多い。なお、レモッタから派生した「レモーパイ」はＪＲ九州の観光列車ふたつ星４０４７で販売する夏季限定の車内販売スイーツにも採用され、インバウンドを含めた県外からの観光客にも好評を博した。

令和４年度から始まった島原市内５つの県立学校・島原市・県教委による共創プロジェクトカフェ「Ｍｉｊｏかふぇ」で、本校生徒はこれまで培ってきた商品開発のノウハウをベースにカフェで提供できるケーキ類（ガトーショコラ、チーズケーキ、シフォンケーキ）をプロのパティシエ（短大講師）の指導の下で完成させ、接客も含め、企画の中心的役割を果たした。生徒はこの企画の中で、商店街に賑わいが生まれたことに対する市の関係者・地域の方々の喜びや、カフェを訪れた地元の方々のケーキの完成度に対する賞賛の言葉、接客に対する感謝の言葉に直接触れたことで、仕事をすることの面白さや働くことの意義を感じ、自己有用感とキャリア意識が高まったと考えている。実際、この取組をとおして地元のカフェやレストラン、ケーキ店へ就職し、将来、独立を目指したいとの目標を持てた生徒や、大学に進学し、将来は地元の管理栄養士を目指す生徒も増加した。さらに地域創生について学び、地元のまちづくりへ主体的に貢献したいと、４年制大学に進学を希望する生徒も生み出した。なお、本年度の就職希望者に占める県内企業の割合は９月末時点で９７．３％と、過去５年間の平均値を３４．２ポイントも上回り、過去２０年で最高となっている。

今後は地元へより深く入り込む「地域着床型」とも呼べる学習活動に発展させたい。生徒が地域課題に価値を見出し、新たなモノ・コトを創造する学習活動をとおして、自分達が行動したことで地域社会が変化したことを実感できれば自己有用感はさらに高まり、将来的に地域社会を分厚く支える人財（ヒト）の育成にも繋がるものと考えている。

＜熊本県＞（種別：学校）　和水町立三加和中学校

取 組 概 要

三加和中学校では、平成30年度に文部科学省の「小・中学校等における起業体験推進事業」の指定を受け、起業体験活動の取組を始めて７年目を迎えている。

全校生徒約70名が、縦割りでグループに分かれ、社名、事業内容等を決め、会社を設立する。ＰＴＡから融資を受ける形で、資金を調達し、これをもとに実際に会社を運営していく。地元企業から商品を仕入れ、販売し、利益の配分までの一連の活動を実践している。生み出された利益は、和水町社会福祉協議会へ車椅子を寄付するなど社会の役に立つ取り組みを実施している。

学校の教育目標である「生きる力を身につけ、和水の未来を創る生徒の育成『心を込めて』」の実現のために、キャリア教育の充実を図っている。また、総合的な学習の時間をはじめとした各教科と関連付け、総合的かつ横断的なキャリア教育プログラムの構築を果たしている。さらには、地域との連携を重視し、和水町のイベントの一つである「金栗四三翁マラソン大会」において、販売活動に実践的に取り組み、同マラソン大会の盛り上げに大きく貢献している。

○起業体験の流れ

①オリエンテーション：起業の流れや会社組織について学ぶ。
②会社設立：町の特産物を生かすとともに、町の良さ、課題を分析する。
③市場調査・課題設定：協働する地元企業や販売する商品を検討する。
④商品・サービスの企画：地元企業にプレゼンし、協働を依頼する。
⑤生産・製造・仕入れ：地元企業と共同で商品を試作、開発する。
⑥事業計画立案・資金調達：ＰＴＡから融資を受ける。
⑦広報・宣伝：チラシを作成するとともに、文化祭でテスト販売を実施。
⑧販売・サービス提供：マラソン大会会場で商品をＰＲして販売する。
⑨決算・報告：決算書を作成し、利益を社会福祉協議会等へ寄付する。

○成果

起業家精神、社会の一員としての自覚、郷土愛等を育み、今後の和水町を担う人材育成につながっている。

【参考資料】起業体験リーフレット、小・中学校等における起業体験活動実践事例集（2022年3月：文部科学省）、広報なごみ（2021年12月号、2023年12月号）、新データで読む地域再生（2024年4月：日本経済新聞出版）

【参考資料】

○起業体験リーフレット
https://jh.higo.ed.jp/mikawa/wysiwyg/file/download/16/24
○小・中学校等における起業体験活動実践事例集（2022年3月：文部科学省）
https://www.mext.go.jp/content/20220317-mxt_jidou01-000021353_3.pdf
○広報なごみ（2021年12月号、2023年12月号）
○新データで読む地域再生（2024年4月：日本経済新聞出版）

＜熊本県＞（種別：学校）　氷川町立竜北東小学校

取 組 概 要

1　取組の概要と経緯

本校は、「地域とともにある学校づくり」を目指し、コミュニティ・スクール（平成18年～）と地域学校協働活動の一体的推進に長年取り組んでいる。全学年に氷川町教育委員会作成の地域学習カリキュラム「ふるさと『氷川学』」（地域のヒト、モノ、コト＝人、文化、産業、歴史、自然、暮らし等）を活用した学習を教科横断的なカリキュラムとして位置付け、組織的・系統的に「キャリア教育」を推進し、学校、家庭、地域、行政そして子どもの五者連携による「社会に開かれた教育課程」の実現に取り組んでいる。

また平成３０年度指定の文部科学省委託事業「小・中学校等における起業体験推進事業」を契機に、模擬会社の設立や模擬店舗の出店体験といった起業体験、地域の農業生産者、地元の農業高校、食品製造業者等と連携・協働した新商品を開発、その後地域行事（祭り）で販売するなどの取組を行うなど、その取組の研究成果を広く公開し、起業体験活動の有用性の啓発にも継続的に取り組んでいる。

さらに、地域行事にも積極的に参加し、地域の活性化に主体的に関わるなど、「地域貢献活動」及び「地域創生活動」の視点も大切にした教育活動を展開している。

2　取組の具体

（1）キャリア教育を基盤とした「社会に開かれた教育課程」の実現

これまで継続して取り組んできた地域と学校の連携・協働の強みを生かし、様々な仕事に従事している地域の方との出会いを通して、「人間関係形成能力」「情報活用能力」「意思決定能力」「将来設計能力」を育み、職業観や勤労観の育成に取り組んでいる。特に、自己及び他者へ積極的に関心をもたせ、夢や希望、憧れる自己イメージの獲得を可能とする手立てを講じ、身の回りの仕事や環境への関心・意欲の向上を図るとともに、勤労を重んじ目標に向かって努力する態度の育成をキャリア教育の重点目標としている。

キャリア教育の目指す目標との関連から教科横断的なカリキュラム・マネジメントを行い、重点努力事項として校内研修を中心に以下のことに取り組んでいる。①これまでの生活科・総合的な学習の時間の根本的な見直しを図り、各教科・道徳・特別活動等でのキャリア教育の視点を生かした実践を計画する。②各学年で実践してきた体験活動等をキャリア教育の視点で見直し、児童につけたい力を明確にする。③各学年の発達段階や教科等の学習との関連を図りながら、自分の家族の仕事との出会い直しや、ふるさと氷川町の歴史・文化・伝統・産業を主体的・協働的に学び合う授業を工夫する。④本物との出会い、多くの職種の人と出会い、様々な職業観を養うとともに、その生き方から学ぶ機会を作り出す。

（2）学校教育目標の具現化を目指す「起業体験活動」の推進

本校は学校経営理念を、「子どもを育てる学校から、子どもが育つ学校に～子ども一人ひとりに活躍の場がある学校教育の充実～」とし、すべての児童が、自分の活躍の場（子どもたちが主体的に関わり、チャレンジする機会）を持ち、自他の可能性を信じ、支え合い、協働しながら壁を乗り越えていくサイクルを通して、自らの夢や目標実現に向けよりよく育とうとする学校づくりを推進している。

起業体験活動を通して育てたい力に、①「起業家精神」：チャレンジ精神、創造性、探究心、②「起業家的資質・能力」：情報収集・分析力、判断力、実行力、リーダーシップ、コミュニケーション力を位置づけ、実践に取り組んでいる。具体的には、「竜東いきいきカンパニー」という模擬会社を立ち上げ、地域の農業生産者、地元の農業高校、食品製造業者等と連携・協働して新商品を開発し、それを地域行事（祭り）で販売するなどの取組を行っている。その取組の研究成果を広く公開し、起業体験活動の有用性の啓発を継続的に行っている。地域の産業や文化遺産等を活用した起業体験活動に取り組むことで、キャリア教育の充実と併せて郷土を愛する心を育むことができている。学年ごとに年間を通して特色ある取組を重ね、年度末の「いきいき感謝祭」でその成果を家庭や地域へ発信している。

例として、高学年では各課をイメージし、関連する内容のもと商品開発や情報発信を行っている。６年生では、「地域魅力発信課」として地域の古墳や自然を再発見し、情報センターを通して動画を配信するなど地域の良さをアピール、５年生では「食文化創造課」として地域のもち米と特産の梨を組み合わせた商品や栽培したもち米を使い白玉粉と絡めた「甘酒」を開発・販売を行っている。これらの取組から、ふるさと氷川町に誇りを持ち、自らの生き方を考える機会となっている。

（3）コミュニティ・スクールと地域学校協働活動の一体的推進によるキャリア教育の充実

本校では、平成１８年度よりコミュニティ・スクールとして、地域の教育力を活用し、地域総がかりで学校課題の解決に取り組んできた（「地域とともにある学校づくり」の推進）。また、地域学校協働活動を一体的に推進することで、地域の人的資源・物的資源を活用した豊かな学びを展開し、「社会に開かれた教育課程」を実現してきた。

本校区が舞台となる氷川町の一大行事「氷川町梨マラソン大会」では、コミュニティ・スクールと連携・協働した応援プロジェクトを立ち上げ、地域貢献活動を通して基礎的・汎用的能力である「社会形成能力」や「自己有用感」を育む機会となっている。

また、「ふるさと『氷川学』」の実践においては、地域学校協働活動推進員と各担任教師がしっかり協議し、子供の実態に合った学びが実施できるようにしている。招聘する講師については地域の中から適任者を選定し、体験活動の方法等も関係者と協議をしながらより適切なものにしている。これらの学びは、基礎的・汎用的能力である「キャリアプランニング能力」の育成に寄与している。

（4）９年間の学びを見据えた「オータム交竜会」等、中高との連携の推進

本校が属する竜北中学校区では、中学校２年生が卒業した小学校の児童（全学年）に、氷川町のよさ（ヒト、モノ、コト＝人、文化、産業、歴史、自然、暮らし等）について授業を行う「オータム交竜会」に学校運営協議会で取り組んでいる。教師役となる中学２年生は、小学校の各学年の発達段階や教科等の学習との関連を図りながら、学校運営協議会の委員である地域住民と一緒に授業内容を検討し、実際に現地（当事者から）に取材に行き、具体的な授業づくりに取り組む。中学生は取材を通じ、本物と出会い、多くの職種の人と出会い、様々な職業観を養うとともに、その生き方から学んだことを小学生に伝える。そして、６年間学んだ小学生が今度は伝える側となり、学び（知や体験）の循環を作り出している。

また、農業高校食品科学科と連携して、地域の特産物である梨の加工にも取り組んでいる。相談・アドバイスに加え、大型ミキサーによる加工のサポート、蜜作りの指導・助言を通して食品開発におけるチャレンジ精神の大切さを学ぶ機会となっている。専門的な設備や豊富な知識など、高校との連携は、探究心やチャレンジ精神、自主的活動の意欲、コミュニケーション力などをさらに高める機会となっている。

これらの成果は、授業における記録や感想、児童の自己評価や観察法による評価、さらに、全国学力・学習状況調査や県学力調査の質問紙調査等で把握することができている。

【ホームページ】https://es.higo.ed.jp/ryuhokue/

＜宮崎県＞（種別：教育委員会）　　椎葉村教育委員会

取 組 概 要

○ 日本三大秘境と呼ばれる本村では第６次椎葉村長期総合計画（「第６次長計」）において、年齢や居住地、性別、その他一切の違いを受け入れ合い、多様な人たちが「かえりたい」「繋がっていたい」と思えるようなコミュニティを「かて～り」という相互扶助の精神に基づいて住民全体でつくる様子を目指す姿の一つとしている。

○ 第６次長計に基づき本村教育委員会では、第２期椎葉村教育振興基本計画において、基本理念として「未来を切り拓く、心豊かでたくましい椎葉の人づくり」を掲げ、「キャリア教育の推進」を重点施策として位置付けている。令和４年度には、椎葉中学校における地域を担う人材育成を目指した中学校３年間を貫くカリキュラムに基づく、地域と連携したキャリア教育の取組を評価いただき、キャリア教育優良学校文部科学大臣表彰を受賞した。また、本村教育委員会として、椎葉村とかかわりながら、自らのキャリアを構築する資質・能力を小中一貫で育成できるように、小・中学校の総合的な学習の時間のカリキュラムに椎葉中学校の取組を含めた内容を「椎葉村学（ＡＳＬ＝Ａｌｌ　Ｓｈｉｉｂａ　Ｌｅａｒｎｉｎｇ）」として位置付けた。さらに、村立小・中学校の管理職、教職員、村教委事務局職員から成る「椎葉村学推進委員会」を組織し、令和４年度に「椎葉村学指導資料」を作成、令和５年度から村内全小・中学校において椎葉村学の指導を開始した。

○ 椎葉村学は「椎葉村に対する子供たち自身の思いや願いを生涯にわたってもてるようにするために、子供たちと地域住民とのふれあい活動をとおして、村に暮らす住民の思いや願いを受け止め、椎葉村での昔からの暮らしを丸ごと理解できるようにすること」、「子供たちと地域住民とがつながり合う活動をとおして、子供たちが自分自身の中で、ふるさと椎葉村を見つめなおし、将来にわたってかかわり続けようとする気概を培う」を基本的な考え方としている。小・中学校における各領域で行われる椎葉とかかわりがある諸活動、及び小学校１、２年生における生活科での学びを基盤として、小学校では椎葉村の暮らし（産業・文化・伝統）と自分とのかかわりを学ぶことをテーマとして、３・４年生は椎葉の方言及び神楽、５・６年生は複合型農林業（世界農業遺産）及び民謡（ひえつき節等）を題材とした探究活動を行っている。中学校では、小学校での学びを基に、椎葉村の今・未来自分とのかかわりを学ぶことをテーマとして、１年生は椎葉村の自然や産業、２年生は椎葉村で活躍する人、３年生は椎葉村の未来について発信することを題材とした探究活動を行っている。

○ 椎葉村学の推進のために、地域と学校の連携・協働の体制を整備した。具体的には、村内小学校５校、中学校１校に椎葉村学（ＡＳＬ）コーディネーターを配置し、椎葉村学の指導に必要な地域人材との連絡調整、場の設定等を依頼し、学校が担う業務の軽減を図っている。また、椎葉村学コーディネーターは、各学校の学校運営協議会、及び地域学校協働活動推進員を兼ねて委嘱し、椎葉村学を中心に地域とともにある学校づくり、学校を核とした地域づくりが具体化できる体制とした。このことで、椎葉村学の推進をとおして、児童生徒のキャリア教育の充実、及び地域活性化を進めることができると考えている。

○ 椎葉村学における指導の充実のため、椎葉村学推進委員会を隔月で実施し、椎葉村学指導上の課題を共有し、その解決を図っている。また、転入教職員に対する椎葉村学推進のための地域巡検研修を実施している。さらに、村立小・中学校教職員が一堂に会する合同研修会において、椎葉村学の推進をテーマとした協議の場を設定し、小中一貫したカリキュラムの充実を図っている。

○ 本村の取組について、県内の市町村の参考にしたいと宮崎県教育委員会から依頼があり、県内のキャリア教育関係団体及び県・市町村担当者を対象とした「令和５年度第１回県・市町村キャリア教育連絡協議会」にて実践発表を行った。また、県内北部地区市町村の学校教育及び生涯学習・社会教育関係の学校、行政、団体等を対象とした「令和６年度県民総ぐるみ『地域・学校づくりのつどい』」においても、学校、地域、行政として椎葉村学の取組を発表する予定である。

○ 令和６年度７月に児童生徒に対し「椎葉村学（小学校低学年は椎葉村の人から話を聞いたり、椎葉村の中で学んだりすること）をとおして、椎葉村のことが好きになりましたか」という質問項目にて意識調査を行った。その結果、小学校では肯定的な回答をした児童の割合が全体の９３．３％、中学校では全体の９８．３％となった。椎葉村学のねらいに基づく活動が適切に行われるとともに、椎葉村と将来にわたって関わり続けようとする気概につながる活動になっているものと考えられる。

＜宮崎県＞（種別：学校）　　宮崎県立宮崎商業高等学校

取 組 概 要

宮崎商業高校は、生徒の創造性を育み、主体的に課題を発見し、解決していく力を培うため実践的なキャリア教育に力を注いでいる。その教育方針の根幹には、「克己求道」の精神があり、生徒一人ひとりの可能性を最大限に引き出し、時代の変化に対応しながら地域社会に貢献する人材を育成することが掲げられている。特に、模擬店舗の出店や新商品の開発、ビジネスプランの作成、起業家や経営者を招いての講演など、アントレプレナーシップ教育を通じて、生徒は実社会で求められる自己決定力やリーダーシップを身につけている。

【具体的な取組】

①文化祭における販売実習（2 学年）

生徒は役割分担や店舗のコンセプトを考え、地域企業とタッグを組んで商品仕入計画や販売戦略の立案、実際の販売までのプロセスを体験する。この経験を通して、顧客ニーズを意識した商品の品揃えや販売の難しさ、組織運営の重要性を学ぶ。

②課題研究（3 学年）

1、2 学年で培った知識やスキルを 3 学年の課題研究に活かしている。主に、学校の売店で販売するパンの商品開発に取り組み、企業や地域団体と連携して商品開発を行い、中心市街地イベント等に参加し、企画・運営、販売実習などに取り組んでいる。このように、学びと実践活動の往還を繰り返すことで、地域社会の課題に対して当事者意識が芽生え、自分らしさを見出だしていく。また、地域社会とのつながりを深め、地域貢献の意識を高めている。

宮崎商業高校のキャリア教育は、地域社会と連携し、生徒が多様な価値観を理解しつつ自己実現に向けた力を養うことを目指している。様々な取組により、生徒の主体性や創造性を育成し、地域と共に成長する場を提供する学校として、高く評価されるにふさわしい存在である。

＜鹿児島県＞（種別：教育委員会）　霧島市教育委員会

取 組 概 要

本市の「ふるさと創生総合戦略」の人口13万人の目標達成に向けて，学生と地元企業をつなぎ，就職や進学に伴う若者の人口流失を防ぐことにつなげることを目的として，中学生の段階から，霧島市で働く方々の熱い思いに触れ，霧島で働くことの魅力等について知ることで，自分の将来について考えるきっかけづくりを継続していくための事業として，平成29年度から「中学生の挑戦！霧島しごと維新」事業がスタートした。

本事業では，本市の生徒が，将来の生き方や進路について，主体的に考え，希望をもって未来を切り拓こうとする態度や社会的・職業的自立に必要な能力を育てるキャリア教育の充実を図る。特に，関係課や関係団体，企業等と連携し，本市ならではの様々な教育資源を生かした体験的な活動を効果的に活用したイベントを実施に力を入れており，以下のイベントを行っている。

⑴　「君の夢を叶える高校フェア」（５月）

市内にある５つの公立高校の生徒や卒業生，教職員らが各高校のブースにてその特色ある教育活動や特徴などを中学生や保護者に紹介・説明するイベント

⑵　「企業見学会」（７月）

中学生等が市内の様々な特色ある企業を４コースに分かれて訪問し，その魅力や霧島市で働くことのよさを知ることで，自分の将来について考えるイベント

⑶　「KIRISHIMA GLOBAL ACTIVITY」（８月）

ALT や留学生等の協力を得て，霧島の特色ある企業や産業について英語を使って伝え発信することで，霧島の魅力を知ると共に英語力の向上を目指すイベント

⑷　「立志講話」（２月までに各実施校で）

霧島市内の様々な企業の方々を講師に，中学生の志を高めることをねらい，中学校４グループに分けて輪番で実施する講話

⑸　「10年後の自分探し」（２月）

商工観光課と連携し，中学生が，地元企業の方々からの話を聞くことにより，自分の今後のキャリアを意識し，夢や希望をもって主体的に進路を選択しようとする意欲を高めるイベント

また，本事業を推進するにあたっては，「霧島しごと維新連絡協議会」を設置し，年２回の協議会を実施し，取組状況の報告や，取組に対する助言や意見，提案等をいただき，適宜改善を図りながら事業を推進している。

新入社員の中には，この事業に参加したことがきっかけで会社を選んで就職したという方がいたということを，いくつかの協力企業の方からお聞きした。また，各イベントの事後アンケートの結果から，これらの取組により，中学生の進路選択に対する意識や霧島市で働くことに対する意欲の高まりが見られる。

＜鹿児島県＞（種別：学校）　鹿児島市立西紫原中学校

取 組 概 要

鹿児島市立西紫原中学校は、桜島と錦江湾を一望できる紫原台地南西に位置する団地内にあり、全校生徒 655 名(21 学級)の学校規模である。校訓に「真理創造」「勉学健康」「敬愛協和」を掲げ、学校教育目標には「自らの可能性を信じ、努力することのできる生徒の育成」を設定し日々の教育活動に取り組んでいる学校である。

令和５、６年度は、鹿児島市の研究協力校の指定を受け、非認知能力の育成・向上を目指し「探究学習」を軸とした総合的な学習の時間の研究に取り組んでいる。

１　「総合的な学習の時間」における教育課程の工夫

○ ３年間を通したテーマ「『地域』に学ぶ自己の生き方」を設定これまで学年ごとにそれぞれ設定していた総合的な学習の時間のテーマを３年間をとおしたものに設定し、学年間のつながりを持たせ、系統性のある探究ができるようにしている。

○ 学年ごとのテーマを設定

１年：地域再発見

２年：地域貢献・地域参画

３年：地域体験・自己追究

それぞれの学年の学びが、次学年の学びへとつながり、３年間をとおして「『地域』に学ぶ自己の生き方」を達成するような教育課程の編成がなされている。

２　課題を自分事と考える場の設定

○　課題を「自分だったら」と考え取り組む活動の積み重ねをしていく中で、「自分事」と捉え、考えを深め、探究できるよう学習を定着させている。

３　課題解決に向けた地域参画・地域体験の場面設定

○　「かごしま探究プロジェクト」「職場体験」を通した地域参画・地域体験の場を設定している。

○　「課題の設定」「情報の収集」「整理・分析」「まとめ・表現」の場を繰り返し、学習のスパイラルを通して課題解決に向けて取り組んでいる。

＜鹿児島県＞（種別：学校）　南さつま市立坊津学園

取 組 概 要

１．概要

南さつま市立坊津学園は，教育目標「郷土を愛し，豊かな心と　たくましい体をもった　自ら学ぶ坊津っ子を育てる」の下，特例教科「坊津学」をはじめ，地域の力を活用した授業づくりに積極的に取り組んでいる義務教育学校である。

また，南さつま市内の全小・中学校及び義務教育学校が平成28年度から「コミュニティ・スクール」として継続しているが，「コミュニティ・スクール」は平成25年度に現在の坊津学園でスタートしており，地域と共にある学校づくりをリードしてきた学校である。

２．主な取組

⑴　特例教科「坊津学」

前期（１～４年），中期（５～７年），後期（８～９年）の３つに分け，各段階において指導目標が設定されている。前期は「郷土を知る」，中期は「坊津の発展を考える」，後期は「坊津の発展を考え，実行することができる」というように，発達の段階に応じた目標設定になっている。また，各学年の重点目標を設定することにより，児童生徒は９年間の学びが繋がっていることを意識しながら，異学年交活動にも取り組むことができている。

⑵　学校支援コミュニティとの連携

学校内には「コミュニティ・スクール（ＣＳ）ルーム」が設置されており，地域人材の活用や地域での体験学習の充実が図られている。前述の「坊津学」においては，釣り体験（４年）やマダイ放流（５年），カヌー体験（５・６年）やダイビング体験（９年）等，テーマ学習のひとつ「海に学ぶ」における地域との連携・協力した学習活動の実施が特徴的である。

⑶　学校評価に基づく振り返りと改善

各学期に行われる学校評価では，「チーム坊津」という大項目内に，「坊津学」に関する項目が設定されている。具体的には，保護者の学校評価においては，「一体感のある教育活動を行っているか」，「地域の特色を生かした教育活動を行っているか」，「保護者・地域と連携をとっているか」という３つの評価項目が設定されており，年５回開催される学校運営協議会における熟議も含め，改善に努めている。

＜鹿児島県＞（種別：学校）　曽於市立光神小学校

取 組 概 要

～子供の未来インフォメーション事業～

１　学習活動の目的

本校は，学校教育目標「夢や目標をもち，未来をたくましく生きる児童の育成」を掲げ学校経営のキーワードを「本物に触れる・本物に学ぶ→夢実現の後押し」と設定している。子供たちが夢を叶えられるような支援を学校，家庭，地域が互いに与え続け，現実だけを見つめる子供たちだけでなく，楽しく大きな夢のある子供たちに育てたいという願いを２か年にわたり具現化し，実践した事業である。

２　学習活動の実際

総合的な学習の時間を基本に学級活動や教科の振替時間を編成し，キャリア教育の一環として「夢実現ミニ講演会(令和５年度)」「夢実現探訪（令和６年度)」「光神小カレー事業（令和５年度)」を実施している。

⑴　夢実現ミニ講演会　令和５年度　全７回

児童の夢（将来の職業）と同じ職業従事者を講師として招聘し，20 分間の講演と質問タイム，振り返り，お礼状作成を行う 45 分間のプログラムを行った。子供たちは，講演を聴いて自ら考えたことを率直に質問や意見として述べて，自分の生き方や考え方をみつめることができた。

※　招聘者　警察官　消防士　薬剤師　医師　農家　プロバスケット選手
　　元プロサッカー選手　元バレー選手

⑵　夢実現探訪　令和６年度

将来の就学に生かすために，郷土を知る・発見すること，自分の生まれ育った郷土を誇れるようにするために，地域や県の企業及び地元の高校等を訪れ，見る・聞く・体験する・考える・伝える活動を行う。

※　株式会社　ナンチク　　鹿児島県立曽於高等学校　川内原子力発電所

⑶　企業や地域産業と連携して開発した「光神小カレー事業」　令和５年度

光神小カレー作り事業は，フードロス「ゼロ」を目指す企業とコラボした取組を行った。子供たちが企画から，材料搬送(郵送)，試食，パッケージ作成，包装に関わり，商品ができる過程を学ぶだけでなく，実際に商品を販売する活動を体験させながら，将来の就業に役立てることをねらいとした。

①　企画，材料発送，試食，商品完成・・・令和５年 10 月～12 月
②　販売期間及び個数　令和５年 12 月下旬～令和６年３月中旬　2000 食完売
③　販売体験　県立サッカーラグビー場において，保護者と一緒に販売を体験

３　学習活動の成果

子供たちは，その「道」で活躍している人たちとの出会いで，「何か」を感じ，自分を創るための「何か」を発見できた。また，テレビ局，ラジオ局，新聞社等の取材の中で台本無しでインタビューに応じることを繰り返し経験し，自分の言葉で，自分が感じたままの思いを，素直に(伝わる言葉で)話すことができるようになっている。

本校は，子供たちが他者とのつながりを大切にしながら，自分の人生を切り拓いてほしいと願っている。そのためにも一人一人が輝けるよう極小規模校のよさを生かした教育活動を行っている。

他校種や地域・産業界等との連携・協力を主体的に図り，組織的・系統的にキャリア教育に取り組んでいる。

＜沖縄県＞（種別：教育委員会）多良間村教育委員会

取 組 概 要

多良間村教育委員会では、平成 27 年度から平成 29 年度までの 3 年間、沖縄県の補助金事業「地域型就業意識向上支援事業」を活用し、多良間小学校の６年生を対象に沖縄本島で『ジョブシャドウイング』を実施。多良間中学校の２年生を対象に同じく沖縄本島での『職場体験』を実施。多良間村独自の事業となった平成 30 年度からは、多良間中学校の１年生を対象にした多良間村及び宮古島市で行う『プロジェクト T』も実施。また、令和５年度からは、多良間中学校の３年生を対象に「15 の島立ち」に向けた『ライフキャリア教育』を島内で実施。産学官が一体となって地域連携型キャリア教育(『多良間村型キャリア教育』)に取り組んでいる。

- 多良間小学校の６年生を対象にした『ジョブシャドウイング(観察型キャリア教育)』は、村内で観察のできない職種や業種について知り、将来の職業選択の幅を広げることを目的に沖縄県の那覇市近郊にて実施。
- 多良間中学校の１年生を対象にした『プロジェクトT(多良間村課題発見・解決型プログラム)』は、多良間村の文化や歴史、産業等に目を向けさせ、地域の魅力を再認識することを通し、地域への愛着と誇りを深め、村の現状や課題に気づかせ、中学生の発想や視点で解説策を考えて発信していくことで、地域への貢献心の芽生えに繋げ、次の世代の多良間村を担うという意識づけを行うことを目的に多良間村及び宮古島市で実施。
- 多良間中学校の２年生を対象にした『職場体験(体験型キャリア教育)』は、沖縄本島での職場体験の前に、島内でも体験を行うことで、多良間村にも多種多様な仕事があることに気づかせた上で、沖縄本島と多良間村の産業や業種の違いを比べながら体験することを目的に沖縄県の那覇市近郊にて実施。
- 多良間中学校の３年生を対象にした『ライフキャリア教育』では、小学６年生から中学２年生までのキャリア教育を通して、今後自分はどのように生きていきたいのか考える機会とする。また、自身の将来や進路をイメージし、自分らしい生き方・働き方をデザインしていくことを目的に、①『事前学習』の中で、「15 の島立ち」に向けての意識付けを行い、現在から 70 歳までのライフプランを考える。②多良間中学校の卒業生１～２名を招聘し『先輩講話』を実施。また、金融機関の方を招聘し『マネープラン講話』を実施することで、マネープランについて考える。③『事後学習』の中で、振り返り学習として、取り組みを通して自分自身の将来を考え、描かせる。
- 沖縄県の離島である多良間島には高等学校がなく、中学卒業とともに進学のため島を離れる(「15 の島立ち」と呼んでいる)。「15 の島立ち」に向けた「生きる力」の育成と多良間村に貢献できる人材育成・人材の還流を目指し、多良間村の各団体が協働し「多良間村グッジョブ地域連携協議会」を平成 27 年度に発足させ、地域連携型キャリア教育を推進している。
- 「多良間村グッジョブ地域連携協議会」は、産業・経済団体、行政、地域コミュニティーが協働し、地域連携型キャリア教育(『多良間村型キャリア教育』)を推進するため、多良間小学校及び多良間中学校の教育機関をサポートしている。小学６年生から中学３年生の期間において、発達段階に合わせた系統的・計画的なキャリア教育プログラムの実践を多良間村の特性や課題を踏まえて支援し、「将来、多良間村に貢献できる人材育成」に取り組んでいる。
- 「多良間村グッジョブ地域連携協議会」は、幅広い関係機関から構成されているが、事務局を担当する多良間村教育委員会を中心として、組織がしっかり確立している。そのため、各機関とも「地域連携型キャリア教育(『多良間村型キャリア教育』)推進ため、教育機関の小学校・中学校を支援していく」という共通の方向性と理念を持っている。
- 「多良間村グッジョブ地域連携協議会」の会則には、地域連携型キャリア教育(『多良間村型キャリア教育』)を行うことで、身に付けさせたい力が明確に記され、共有できている。〔就業意識の向上・自立への心構え・将来の地域を支える意識の向上 等〕
- 具体的には、年度初めに「多良間村グッジョブ地域連携協議会」を開催し、年間の『多良間村型キャリア教育』の内容確認や各プログラムへの支援体制が協議される。例えば、村内の職場体験学習では産業・経済団体が受け入れしたり、地域企業等へ協力を呼びかけたりする。また、村内産業視察では行政の産業経済課や観光振興課が案内し説明を行ったり、沖縄本島での職場体験学習やジョブシャドウイングでは NPO 法人が協力するな

ど、各関係団体が専門性を生かして小学校・中学校のキャリア教育をサポートしている。このようにキャリア教育に必要な幅広い関係機関が協働し、将来の人材の還流を期待し、協力的に小学校・中学校の教育機関に支援を行っている。

- 連携・協働している機関や団体、組織は、①NPO 法人ふしゃぬふネット(多良間村郷友会地域支援ネットワーク)、②多良間村観光振興課、③多良間村産業経済課、④JA おきなわ多良間支店、⑤一般社団法人多良間村ふしゃぬふ観光協会、⑥株式会社ケイオーパートナーズ(運営アドバイザー)となる。

＜沖縄県＞（種別：学校）　　那覇市立真嘉比小学校

取 組 概 要

５年生は，総合的な学習の時間で「さぐってみよう沖縄の自然と文化」というテーマで年間を通して取り組みを行っている。

取り組み内容として，以下の２つである。

①米作りを通して地域の豊年祭へ稲わら奉納・豊年祭への参加

②米作りを通して地域の方々との連携・協力

真嘉比小学校の米作りは，前年度の２月から準備を始める。１年間を通して一期作で行われる。一期作（２月～７月）では地域の方から米作りのノウハウを教えてもらい，土づくりから稲刈り・脱穀までを地域の方と一緒に行う。

収穫した稲を地域の豊年祭へ奉納し，稲は綱の一部に使われる。子ども達は綱編み体験もさせてもらう。そこでは，地域の方々の豊年祭への思いや伝統継承についての考えについて直に触れることができる。

子ども達は，地域の人々と共に米作りや豊年祭への参加を通して，地域の自然や文化に触れる。地域の方々の思いや考えを知ることで，学習している内容や意味等の理解はさらに増している様子である。子ども達は様々な経験をすることで地元だけでなく沖縄県内の自然や文化にも興味を持ち，調べ始める。そこからさらに地元への理解・愛着・誇りが湧いてくる。自分の住む地域について知ることで，外へ目を向けた時に，地域ならではの良さを知っているからこそ，さらに地元を愛し，誇りを持てるようになっているのではないかと考える。

地域づくりや地域活性化に根ざした総合的な学習の時間の取り組みがキャリア教育の形成を担っている。

＜沖縄県＞（種別：学校）　　沖縄県立具志川商業高等学校

取 組 概 要

沖縄県立具志川商業高等校（昭和52年設立）は、平成初期において、高校入試における定員割れや中途退学者の多さ、生徒指導面等、教育課題が山積する状態であった。

そのような中、校訓である「自立」「創造」「実践」の精神に立ち返り、学校改革、学校活性化を目指し、産業人を育てることを目的とし、平成６年度から「具商デパート」の取組を開始した。「模擬株式会社 具商デパート（通称：具商デパート）」は、令和５年度で30回目を迎え、高校入試における志願倍率の向上（令和６年度入試は県下１位学科あり）や令和５年度進路決定率97.3％（具商デパーと開始時の平成６年度は40％）となる等、平成14年度の学科改編等を経ながら、具志川商業高校の教育の基盤・根幹となり、日々の学びと実社会を接続する自主的･実践的な商業教育として､生徒の自己肯定感向上やキャリア意識を大いに伸長させる取組となっている。

「具商デパート」は、教育課程の「総合的な探究の時間」を中心に展開し、全校生徒を株主（出資額生徒一人1,000円）とし､『真心で築く信頼の和「安心を売ります」具商デパート』をキャッチフレーズとした模擬株式会社の形態をとっている。教育課程における教育的ねらいは以下のように設定している。

① 探究の過程において、各教科･科目等における見方･考え方を総合的･統合的に働かせる学習活動を通して、よりよく課題を発見し解決していくための、資質・能力を育てる。

② 模擬株式会社の一員として役割を達成する過程を通して､課題の発見と解決に必要な知識及び技能を習得し、自分及びチームで課題を立て、情報を集め、整理・分析し、まとめ・表現することができる、自立心・創造性・実践力のある産業人に必要な資質・能力を育成する。

上記ねらいのもと、実践的な取組とするため、株主総会、取締役会の運営実践、社長、副社長を置き、営業部、サービス部、総務部の３部の設置、その下に８課（営業課、サービス課、宣伝・広報課、経理課・会場課・用度課、総務課）を設置、全生徒が人事にて割当られるという本格的な組織形態・運営形態をとっている。

年間を通し、オリエンテーション、発足集会、人事配置、各課研修会、あいさつ集会、企業家講演会、仕入れ、11月の２日間の販売（具商デパート初日、２日目)、優秀社員推薦、業務報告書作成、会計処理、学科別発表会、全体発表会、株主総会等、全ての活動を生徒が主体となって行っている。

令和５年度は､沖縄県うるま市（学校所在市）等の約40社と連携し､雑貨や食品､スイーツ等の商品を仕入れ､15店舗を出店し、販売を行った。

当日は、うるま市長と市教育長の来訪や開店前に入場のための行列ができる等、地域においても「生徒を育てる実践的かつ地域に根ざした行事」としての認知度や期待も大きい。また､商品の仕入や販売の実践だけでなく、近隣中学校の２学年の体験学習や、高等特別支援学校との交流学習を実施し、近隣中学校からもキャリア教育の実践モデルとして、進路選択における具体的な選択肢となっていることや、沖縄県下でも、地域連携による実践的な商業教育としてモデルとなっている。

「具商デパート」は、その長い歴史に加え、地域・時代の動向を捉えたサービス・商品開発やICTツール導入等の試みを続けながら、知識・理論・実践の往還、マーケテイィングと連携、等、実践全体を通して生徒の自己肯定感を高め、社会で活躍する人材として育成･自立をさせる教育活動である。主体的課題発見･創造性の育成、地域連携や企業体験・開発体験等を総合的に網羅したキャリア教育であると考える。

＜仙台市＞（種別：学校）　　仙台市立湯元小学校

取 組 概 要

地域の特色を生かした仙台自分づくり教育(仙台版キャリア教育）として、地域にある秋保温泉旅館組合など地域の諸機関、団体と連携した小学校６年間を見通した自分づくり教育活動を行っている。キャリア教育における基礎的・汎用的能力を仙台市では５つの力（かかわる力、うごく力、いかす力、みとおす力、みつめる力）に細分化している。

1、2 年生は教科・学校行事を通して、かかわる力（人間関係形成・社会形成能力）とうごく力（課題対応能力）を重点化し、系統的なキャリア教育を展開している。3 年生では総合的な学習の時間で「わたしたちのふるさと『湯元』を知ろう」をテーマに、学区内の施設見学（秋保里センター、秋保電鉄湯元温泉駅跡）やゲストティチャーからの講話で「湯の橋の歴史」「湯元小学校の歴史」を聞き、地域に対する知識を深める。4 年生では、総合的な学習の時間のテーマを「地域理解」と「環境・福祉」に分けて学習する。「地域理解」では、ユネスコ無形文化遺産に登録されており、4 年生から 6 年生が学芸会で発表している「湯元の田植踊」について調べ学習を行う。学芸会の発表に向けて保存会の方々に踊りの指導をしていただくとともに、課題について直接インタビューする活動を通して課題解決学習を行う。「環境・福祉」では、観光客が多い湯元地区で、人に優しい町づくりのために工夫していることはないかという部分に焦点を当て、ホテル佐勘でバリアフリー施設見学やインタビューをし、新聞等にまとめる学習を行う。学習全体のまとめとして、地域の「秋保里センター」、「秋保ヴィレッジ 」、「主婦の店 さいち」を会場に「秋保ミニ観光大使」として PR 活動を行う。一般のお客さんにリーフレットを配布したり、プレゼンテーションをしたり、地域の方や観光客に向けて、湯元の良さ・魅力を発信する。5 年生では「環境と食育」というテーマで、秋保女将の会から味噌の歴史や材料、作り方について教えていただき、秋保温泉で味噌づくりや試食会の体験をする。6 年生では「人との関わりを通して自分の生き方を見つめる」というテーマで、緑水亭の若女将の職業講話を実施した後に秋保温泉の旅館で職場体験を行う。また、秋保地区の他の二つの小学校（秋保小学校、馬場小学校）と一緒に、自分たちの住んでいる秋保についての知見を深めるために、バスで秋保の名所巡り（秋保探訪）を実施する。6 年間を通し、地域との深い関わりを持ちながら、子供たちの将来に向けた、社会的・職業的自立を目指した取組を推進している。

＜仙台市＞（種別：学校）　　仙台市立住吉台小学校

取 組 概 要

小中連携、地域連携、地域人材の活用等様々な角度から、計画的・系統的なキャリア教育を実施している。小学校１年生は、地域住民のボランティアであるエプロン先生（小１生活・学習サポーター）の支援をいただき、小学校のルールや学校生活の過ごし方についての基盤を学んでいる。2 年生は、元住吉台小学校教諭の方から地域の昔話をしていただき、地元についての理解を深めた。3 年生は総合的な学習の時間で、地域に生息するオオムラサキを題材にした地域の宝を探求する学習や、地域の方から地元の神社の歴史、神社に祀られている石についてのお話を聞き、地域についての理解を深めた。4 年生は、福祉をテーマに車いす体験、ロコモ体操、認知症サポーターや地域のデイケアサービスセンターとのビデオ交流会を行った。5 年生は震災と米作りをテーマに地元で自分たちができることについて考えた。震災学習では、被災小学校の見学や地域による防災学習。米作りでは，地域の農家の方が校地内に田んぼを作り，子どもたちは、田植え・収穫・脱穀など一連の米作りを体験することができた。6 年生は、地域人材を生かした「先輩に学ぶ」という継続的な講話を実施。講師は地域住民と卒業生から人選し、年８回開催。消防士、マジシャン、漫画家、医師、地域の方からお話をいただき、将来や夢に関して考え、大人から生き方について学んだ。また、中学生は、体力・運動能力調査でのべ 150 人のボランティアが計測のお手伝いとして参加した。夏休みにはサマースクールとして小学生の子どもたちに算数を教えた。子どもたちは、中学生が地域に貢献する姿を見て憧れを抱いている。これらの活動を支え、人材や日程の調整をしているのは学校支援地域本部のスーパーバイザーで、どの学年にも教職員以外の地域の大人を活用し、小中学校間のつながりと地域からの信頼を得ながら、子どもたちの社会的自立に必要な力を育んでいる。地域人材を活用しながら、持続可能なキャリア教育を展開している。

＜仙台市＞（種別：団体）　　街道市（生き生き中山っ子教室）

取 組 概 要

「生き生き中山っ子教室」は平成１７年度に文科省地域子ども教室事業の委託を受け、活動を開始した。平成２２年度からは仙台市放課後子ども教室事業を委託され、現在まで活動を続けている。「街道市」もその事業の中の１つであり、平成１８年から始まった。中山小学校、なかやま商店街（スーパー、新聞販売店、花屋、レストラン、コーヒー屋など）と連携しながら、月に１回程度実施している。毎回中山小学校の児童が 10～30 名程度参加し、事前打ち合わせを行った後に、当日「駄菓子、軽食販売、小売店の業務手伝い」などを行う。事前打ち合わせには、学校支援地域本部スーパーバイザー兼放課後子ども教室コーディネーターが学校となかやま商店街を調整して、継続的な活動を続けている。

中山小学校では、総合的な学習の時間で、街道市を関連付けて、自分づくり教育を展開しており、5 年生の「深めよう！いい町プロジェクト中山」では、「商店街のためにできることを考えよう」をテーマに、店の飾り付けやポスター作り等商店街や地域の活性化に向け、自分たちで考えた企画を実践している。

街道市の経験や商店街との関係性が中学校での地域連携事業でも生かされており、中学生は、地域活性化のために商店街のＣＭ作りや大街道市で商店の出店を手伝うなど、地域総ぐるみでキャリア教育を継続的に行っている。

＜さいたま市＞（種別：学校）　　さいたま市立第二東中学校

取 組 概 要

当該校は「進路を自ら切り拓く生徒の育成」を研究主題とし、保護者、地域の方々と連携し、地域とともにある学校づくりを進めている。学校を一つの社会として捉え、生徒たちが毎日希望をもって登校して、笑顔で活動し、満足して下校する、生徒の、生徒による、生徒のための学校を実現する取組を実施するとともに、情報機器等の活用能力をこれからの子どもたちに必要な力として捉え、一人一台端末を活用しながら生徒が進路やキャリアについて情報を収集したり、資料を作成したりするなど、キャリア教育におけるＩＣＴ機器の効果的な活用について研究を続けている。

【具体的な取組】

１．コミュニティ・スクールとして、保護者や地域の方々の協力を得て、年３回の学校運営協議会を開催し、学校経営方針の承認や目指す生徒像の共有を行っている。学校の取組の実施状況を評価して工夫改善に努め、目指す生徒像の実現のための方策について熟議を重ねている。

２．生徒の健全育成のために地域学校協働活動（SSN＝スクールサポートネットワーク）を活用し、いじめ等の問題や地域との連携について情報交換をする会を開催している。

３．学びの向上のために、地域のボランティアと年間約20回、放課後や土曜の学習教室（チャレンジスクール）を開催している。また、家庭科の一環として赤ちゃんや幼児と保護者の方に学習支援ボランティアとして来校いただき、ふれあい体験を行っている。

４．学区の小・中学校３校で、同時の災害を想定し、合同の引渡訓練を行っている。兄弟姉妹のいる生徒は、小学校まで移動し、家族と合流することができる。また、区民まつりや健全育成地区会行事、関係校などへのボランティア等で生徒の活躍の場があり、災害時に向けて地域との連携を深めている。

５．令和４年度より、特別活動をキャリア教育の要と据え、生徒自身が学校での学びと将来とのつながりを感じることができるよう協働的な学びと探究的な学びの授業実践を行っている。令和５年度には、埼玉県進路指導・キャリア教育研究会の委嘱を受けて研究発表会を開催し、生徒が職場体験で学んだことをもとに、「キャリア・パスポート」を活用しながら、自らの生活を見直していく授業実践を行うなど、一人一台端末の活用事例等、多くの好事例を区域内の中学校に共有した。

＜川崎市＞（種別：学校）　　川崎市立上丸子小学校

取 組 概 要

川崎市立上丸子小学校は、川崎市が、第２次川崎市教育振興基本計画「かわさき教育プラン」基本政策Ⅰ「人間としての在り方生き方の軸をつくる」の施策の１として位置付けている「キャリア在り方生き方教育の推進」の理念に基いて積極的にキャリア教育を推進し、地域に根差した独自の教育活動は、本市において好事例となっている。

〇学校の特色を生かしたキャリア教育の推進

総合的な学習の時間において、実社会で働く人々の思いと自己の将来について学び、令和５年度の第６学年では「デザイン『Me』」と名付けた単元で、市長や行政職員、地域企業の大人等と関わりながら「なりたい自分」を考えていく学習を行った。

≪　デザイン「Me」の概要　≫

中原区役所が主催する「車座集会『なかはら YOKUSURU 会議』」へ参加し、市長や地元企業等の大人、区役所職員とともに「未来の社会」について話合いや意見交換を行った。

【探究活動１】「なりたい自分」の姿を想像したとき、そのために大切にしたいことって何だろう？
【探究活動２】大人がこれまで大切にしてきたことは何だろう？
【探究活動３】仕事を選んだり働いたりする中で、大人が大切にしていることは何だろう？
【探究活動４】未来の社会を想像し、なりたい自分や、大切にしたいことを伝えよう！
【ま　と　め】デザイン「Me」学習の成果発表会「旅立ちの会」

〇学校全体で行うカリキュラム・マネジメントの充実

「３つの心をはぐくもう　学びの心　たくましい心　やさしい心」の学校教育目標のもと、児童に身に付けさせたい資質・能力を明確に設定し、全教職員で共通理解を図りながら、計画的・系統的な教育活動に取り組んでいる。

＜川崎市＞（種別：学校）　　川崎市立橘高等学校（全日制）

取 組 概 要

川崎市においては、第２次川崎市教育振興基本計画「かわさき教育プラン」基本政策Ｉの施策１として「キャリア在り方生き方教育の推進」を位置付け、平成 28 年度より全市立学校で実施してきた。川崎市立橘高等学校は、市立高等学校改革推進計画第２次計画において魅力ある高等学校教育の推進や人類の課題に貢献できる人材育成を掲げて教育活動に取り組んでいる。普通科、国際科、スポーツ科の３科それぞれが、グローバル化の中で多様性を尊重するとともに、多様な他者と協働しながら目標に向き合い、挑戦する力の育成を進め、学校の特色を生かした取組として本市において好事例となっている。

○「探究」を軸とし、学校の特色を生かしたキャリア教育の推進

ＳＤＧs に自らかかわり、解決しようとするカリキュラムを編成し、生徒の興味・関心と、ＳＤＧｓの視点を踏まえた実社会の課題をもとにして、実践的な授業展開をしている。

令和５年度の取組においては、第１学年は自分を振り返るパーソナルスライドの作成を通して自己を探究することから始め、第２学年は１年次までのＳＤＧｓ学習を踏まえて自ら探究課題を決め、現地調査なども織り交ぜながら、自分たちの考えをまとめ、発表した。外部の人材とつながり、実際に具体的な解決のためのアクションをすることを重視しており、探究の過程では、起業家や大学院生の助言を受けながら、学びを深めることができた。

令和６年度は、かわさきプラスチック循環プロジェクトを推進する川崎市環境局と、11 の登録事業者のうち７つの登録事業者から提示された「社会課題」をもとに、異学年の生徒と共に、課題解決策を探究（学習）している。

○学校全体で「探究」の深化を図るカリキュラム・マネジメントの充実

「総合的な探究の時間」の学習が３年間を見通したデザインになるよう、教職員向けの研修や生徒へのワークショップなどを実施しながら、生徒たちが実社会に関わりをもって探究し、自己の可能性を広げることを目指してカリキュラム・マネジメントの充実を図っている。改善に向けた取組として前年度までの取組や成果を次年度に生かし、生徒とも共有しながら、教育活動の更なる広がりや深まりを目指している。

＜相模原市＞（種別：学校）　相模原市立鳥屋学園

取 組 概 要

相模原市では、「第２次相模原市教育振興計画」の基本方針Ⅰ「生涯にわたる学びの推進」、目標１「未来を切り拓く力の育成」、施策１に「キャリア教育の推進」を位置付け、令和２年度より全市でキャリア教育を推進している。

相模原市立鳥屋学園では、学園生の実態を踏まえ、キャリア教育で育みたい力を前期課程・後期課程の発達段階に応じて、一貫性・系統性をもって育むことを重視して教育活動を展開している。

教科等における授業や学校行事を中心とした特別活動を通して、めざす子どもの姿である「自分の意見を持って発信できる子（R5 より学園のキャッチフレーズ）」「地域や社会に貢献できる子」「広い視野を持っている子」「多様な価値観を認められる子」を教職員が意識し、９年間を見通した教育活動の実践を行っている。

令和２年度からの４年間は、本市の指定研究推進事業（縦の接続）のもと、９年間でめざす子どもの姿を「自分の意見を持って発信できる子（R5 より学園のキャッチフレーズ）」に焦点化し、あらゆる教育活動において、「自分の意見（考え）を持つ場面」「自分で考えたことを発信する場面」を意識した研究実践に取り組んだ。

また、「総合的な学習の時間」では、コミュニティ・スクールを活用して、地域にある民間企業等と連携した取組も活発に実施している。その中で、学校運営協議会委員が経営する「組紐」の企業と連携し、鳥屋学園開校記念式典における記念品として、鳥屋学園オリジナルの「組紐」制作に取り組んだ。授業への協力だけでなく、教育活動に必要な物を作っていただいたり、登校の見守りをしていただいたりするなど、様々な取組も進めている。

令和５年度からは、義務教育学校として新たにスタートした。教職員間で「キャリア・パスポート」を見合い、児童生徒理解につなげる等、小・中一貫した「縦の接続」と、地域との連携・協働の充実をめざす「横の連携」を意識した教育課程を編成し、めざす子どもの姿を学校、学園生、地域と共有するとともに、その実現に向けて教育活動を展開している。

＜浜松市＞（種別：学校）　　浜松市立広沢小学校

取 組 概 要

１　学校教育目標の具現化に向けたキャリア教育の推進

本校では、令和元年度よりキャリア教育を核にした教育活動を推進している。学校教育目標「共に輝き　未来を拓く子」の具現に向けて、グランドデザインで示しているとおり、子供たちの行動指針である「広沢っ子宣言」とキャリア教育で育てたい基礎的・汎用的能力を関連させて、重点目標を掲げている。さらには、前年度の学校評価結果や児童の実態分析を基にして、５つの重点目標のうち重点的に取り組む項目を毎年決定している。令和６年度は、「かいけつする力（課題対応能力）」と「かかわる力（人間関係形成能力）」を重点項目としている。キャリア教育の取組については、学校だより等をとおして、保護者や地域とも情報共有をしている。

２　令和６年度「かいけつする力（課題対応能力）」の育成の取組

キャリア教育の確実な実践を進めるためには、研修主任やキャリア教育推進教師の存在が欠かせない。推進役を中心に、いかに校内研修を充実させるかが鍵となる。今年度初めの研究推進委員会では、研究構想図を示しながら、今年度の重点である「かいけつする力（課題対応能力）」の育成を、どのように図っていくか共通理解をした。主な取組として以下①～④が挙げられ、具体的な実践を進めている。

①学習オリエンテーションの実施…学年ごとに学習オリエンテーションを実施して、重点とする基礎的・汎用能力をどのような方法で育てていくかを子供と教師が共有した。その後、「キャリア・パスポート」に閉じ込む「○年生のわたし」の記入をして、１年間の目標を立てた。

②新たな家庭学習の取組・・・これまでの一斉に行う書き取りやプリント等の宿題を止め、各自が計画を立てて家庭学習に取り組むようにした。

③キャリア教育年間指導計画の作成・・・重点である「かいけつする力（課題対応能力）」の育成を目指したキャリア教育年間指導計画（令和６年度版）を作成した。

④教科学習におけるキャリア教育の実践・・・作成した年間指導計画に従って教科指導を行い、研修内容である個別最適な学びと協働的な学びの一体化を図った授業の実践を進めている。

３　教科学習におけるキャリア教育の取組　令和５年度の実践より

令和５年度には、「かかわる力（人間関係形成能力）」の育成を学校運営の重点とし、教科学習におけるキャリア教育の推進に取り組んだ。教科で付けたい力とキャリア教育で育てたい力（人間関係形成能力）の重なりが大きい単元を「キャリアＡの学習」としてキャリア教育年間指導計画に位置付けて授業実践を深めた。担任をしている教師全員が、１年間を通じて研究授業に取り組んだ。また、小中合同でピア・サポートの研修に取り組んだり、構成的エンカウンターを効果的に実践したりして、子供同士のよりよい人間関係を育む活動も行った。

４　学校運営協議会との連携と地域人材を活用した体験的な学びの充実

本校では、キャリア教育の視点で体験的な学習を重視し、生活科や総合的な学習の時間を中心に、地域にある施設を見学たり、地域人材を招聘したりする機会をたくさん設けている。地域人材の選定や依頼については、学校運営協議会と連携を図り、委員や学校支援コーディネーターの協力をいただきながら調整している。これらの校外学習や地域人材を講師に招いた学習では、担任教師では教えることができない専門的なことのほか、人生の先輩としての生き方を学ぶよい機会となり、地域のよさや地域に暮らす人のすばらしさを実感したり、様々な課題を自分事として捉えて将来の生き方をイメージしたりすることにつながっている。このようにして、子供たちの課題対応能力やキャリアプランニング能力等の育成を図っている。

上記のように、全教育活動をとおしてキャリア教育を推進している。今後も、子供と教師、学校と地域・家庭が、目指す子供の姿や育てたい基礎的・汎用的能力を共有して教育活動を推進することにより、将来の予測困難

な時代においても自分らしさを発揮しながら、人と協働して物事を解決していくことができる「生きる力」の育成を図っていきたい。

＜浜松市＞（種別：学校）　　庄内学園（浜松市立庄内中学校、浜松市立庄内小学校）

取 組 概 要

１　キャリア教育を中核に据えた小中一貫教育を推進

学校教育目標「主体的に学び協働しながら未来を創造できる市民の育成」の具現に向かい、「小中一貫カリキュラム」を作成して小学校・中学校９年間の「学び」と「育ち」の連続性と系統性を大事にした教育課程を展開している。

施設一体型小中一貫校である本学園では、基礎的・汎用的能力を「つながる力」「自立する力」「考える力」「見通す力」や態度を育むことを通して"志"をもった児童・生徒の育成に力を注いでいる。

２　異学年や小中学生のかかわりを重点に置いた授業や行事等を実施

小中９学年を「４-２-３」制とし、それぞれ「初等部」「中等部」「高等部」としている。学校経営目標である「子供ととことんかかわる」「元気な学校ー子供も、保護者も、職員も、地域もー」に基づいて異学年や異なる「部」、異校種でかかわる教育活動を意図的計画的に展開している。

３　高等部（中学校１～３年生）では総合的な学習の時間【庄内未来研究所】の探究活動を実施

高等部では生徒の課題意識を基に、総合的な学習の時間に【庄内未来研究所】を令和５年度にカリキュラム化した。

この【庄内未来研究所】のテーマは「庄内地区を 20 年後も元気な地域にしよう」、「20 年後の庄内地区の未来のために『私』ができることを考えよう」であり、これも生徒の提案による。「生徒発」がこの学習の肝である。

【庄内未来研究所】の所長・課長はそれぞれ生徒が担い、課は九つの課、「防災課」「福祉課」「健康課」「観光課」「浜名湖課」「テクノロジー課」「歴史課」「花とみどり課」「グルメ課」から成る。イエナプラン教育も参考にし、各課を７年生、８年生、９年生が混在する異学年で構成している。

学校運営協議会で承認を受けて人材を募り、各課に「地域アドバイザー」を付け、学習のサポートをしていただいている。「総合的な学習の時間」の目標達成のための指導や支援は教員、「専門的な知識や技能」や「庄内地域の内容」については地域アドバイザー、と役割を明確にして、教員とアドバイザーが協力して生徒の指導と支援にあたっている。

さらに、中等部（小学校５、６年生）は「インターンシップ生」として基礎的な学習を展開させ、高等部のカリキュラムへの円滑な連続を図っている。６年生には、エントリーシートの作成といわゆる「入社面接」を行う計画（令和７年２月を予定）であり、面接官は８年生が担う予定である。

４　学校運営協議会と連携したキャリア教育の推進

子供たちが地域の「ひと・もの・こと」とのかかわりを楽しみながら自分らしい生き方を模索するキャリア教育の実現に向けて、学校と地域が連携する「TEAM SHONAI”絆”」を組織して支援している。

＜大阪市＞（種別：学校）　大阪市立弘済小中学校（本校・分校）

取 組 概 要

・弘済小中学校（本校・分校）には、生活背景や家庭環境が複雑で、幼少期より十分な家庭教育を受けることができておらず、学校・家庭・地域で問題行動をかさねるなど、基本的な生活習慣や規範意識が身に付いていない児童生徒が多く在籍している。

・ほとんどの児童生徒が、自己肯定感や達成感を得られず日々を過ごしてきた経験を持ち、年度途中での入所、転入が多いため計画的・系統的な学習ができておらず、基礎学力が十分身に付いていないという現状がある。

・上記の課題解決に向けた具体的方策として、学校教育目標を「学力の向上と自立に必要な力の育成」と掲げ、「学力の向上」、「キャリア教育の充実とコミュニケーション能力、社会性の育成」、「広報活動と関係機関との連携」の３つの学校活性化プロジェクトチームにより、教職員に学校運営へ積極的に参画する意識を持たせるとともに、児童生徒個々の能力が十分に発揮できるよう組織的な取組を進めている。

・キャリア教育で育むことが大切とされる４つの基礎的・汎用的能力育成に向け、認知トレーニング（認知機能の強化）、アーツ・セラピー（自己表現力の強化）、アサーション・トレーニング（自他尊重の表現力強化）、アンガー・マネジメント（感情のコントロール強化）、ピア・サポート活動（支えあえる集団の育成）の継続実施と効果検証などに取り組み、児童生徒の社会的自立に向けた能力や態度の育成に効果をあげることができている。また、職業講話や夢授業の取組として専門性の高い外部講師を招き、出前授業体験では、様々な事業所の方々を招いての職業体験を行ってきた。本校は令和６年度から、分校では令和４年度から地域での職場体験実習を行うことができるようになり、地域との交流にもつながっている。

・こうした取組は、同様の課題を抱える多くの学校の模範となるような優れたものである。

＜神戸市＞（種別：学校）　　神戸市立科学技術高等学校

取 組 概 要

学校の概要

科学技術高等学校は、「創造」「探求」「飛翔」の３つの校訓のもと、在学中に職業に関する知識・技能の習得を目指すとともに、実社会や職業とのつながりを視野に入れ「生きる力」の育成を目的としたキャリア教育を推進している。時代の変化に的確に対応していくため、探究活動等の先進的な取組みを進めるとともに、生活課題に対して新しい解を生み出せる“自ら育つ人材”や、過去にとらわれず革新的な考えを発信できる“未来志向型エンジニア”の育成に取り組んでいる。これらを実現する取組みの一環として「K―SMART　Engineers 育成事業」を立ち上げ、産学官が緊密に連携し必要とするスキルとマインドを兼ね備えた人材の育成に力を入れている。

K―SMART　Engineers 育成事業の概要

KOBE-Sustainability, Modification and Advanced Research Team of Engineers

(持続可能性を意識し、改良・変更を進めながら先進的な研究を行う技術者集団の育成)

情報教育やモノづくり教育に強みのある本校は、兵庫県内工業高校としてトップレベルの施設・設備を誇っている。少子化の影響により、地域の産業を下支えする人材が不足するとともに、テクノロジーの進展により産業界が急激に変化するなか、最新技術に対応できる技術を身に付けた若手人材の育成が急務となっている。このような状況下に、産業界に通じたコーディネーターを招き、神戸高専の連携協力のもと、令和４年度から最新科学技術者の育成システムを構築した事業を展開している。

事業展開にあたり、人材の配置や事業計画、各科の取組みについて以下より説明する。

(1)コーディネーターの配置

神戸市域の産業界・企業に精通したコーディネーターを配置している。

(2)産業実務家講師の配置　（実習等を担当：非常勤、各科・コースに　全５名）

最新の産業実務に通じた技術者・研究者を迎え、最新装置を活用した高度な実験・実習指導を展開している。

(3)校内事業推進委員会による事業の推進・改善

本事業の推進に関する基本方針、育成する人材像の検討。事業に関する評価指標に関して、外部委員の意見を取り込みながら校内での取組みの改善をリードしている。

(4)評価指標の設定

本事業の推進状況を検証・評価するにあたっては、校内事業推進委員会を設け教育

目標に準拠させながら、産業界・企業と連携した地域人材育成に関する多面的・客観的な指標を設定している。

学科の取組

【機械工学科】

ものづくりの設計や開発に携わり、新しい時代を担うエンジニアの育成を目指している。機械加工や溶接技術、各種NC制御機器の基礎基本を学んだ上で、最新鋭の実習設備を使った最先端の技術・技能を習得し、地元企業と連携した特別授業を豊富に取り入れている。

【電気情報工学科】

電気や情報の基礎知識を活用し応用できる技術者の育成を目指している。1,2 年生では電気・電子・通信・情報を総合的に学び、3 年生では電気・電子系と情報系の分野に分かれて専門知識を学んでいる。

【都市工学科】

「まちづくり」ができる技術の習得とこれからの社会を支える「人づくり」を目指している。1 年生で建築・土木の両方の基礎を幅広く学び、2 年生以降は自分の進路選択に合わせて建築か土木を選択し、各分野に分かれて専門的な学習に取り組んでいる。また、都市防災の科目では、防災士の資格取得を目指している。

【科学工学科】

大学・高専進学に必要な学力をつけながら、ロボティクス・情報・化学・バイオテクノロジーといった理工系科目を幅広く学んでいる。2 年生以降は進路に応じて理数科学類型とスポーツ科学類型に分かれて専門知識を学んでいる。

全科共通の取組み

＜企業連携＞

これからの工業教育は、最先端の技術・技能に着目し、IT スキルやデジタル技術の獲得に留まらず、それらを基盤として新たな価値を創造するとともに、AI 等の用途や評価が定まっていない未知の可能性を秘めた新たなテクノロジーを豊かで安心安全な社会づくりにつなげていこうとする高い倫理観が必要になってくる。その育成に向けて、「ものづくり社会人(DX 人材)」をスローガンとして掲げ、思考力や判断力、表現力、生きる力を育むことに狙いを置き、地域企業と連携した授業を展開している。

＜高大連携事業＞

多方面で活躍できる技術者の育成計画および学習構築を目指し、工業系大学と連携し最先端の研究内容から課題研究につなげる技術を習得している。

＜公官庁連携＞

防災教育が注目されるなか、防災士養成を目指し、兵庫県土木局や神戸市建設局との連携事業をはじめ、簡易模型を使った実験を行いながら災害のリスクと対策について啓発活動を行っており、災害に強いまちづくりや防災への意識向上につなげている。

＜地域連携＞

地域貢献や地域の文化を知る授業として、神戸市の地場産業「清酒産業」と連携し、出張講義や実技指導が展開されているほか、地元商店街とも連携し、地域が抱える課題の整理と解決方法を模索している。地域企業、地域住民の協力のもと、探求力・協働力・情報収集能力・傾聴力等、様々な力が身についている。

【ホームページ】https://kagi-hs.kobe-c.ed.jp/kobe-smart-engineers/

＜京都府＞
南丹市立園部小学校・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・６４
京都府立綾部高等学校東分校・・・・・・・・・・・・・・・・・・６５
＜大阪府＞
松原市教育委員会・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・６８
＜兵庫県＞
兵庫県立長田商業高等学校・・・・・・・・・・・・・・・・・・・６９
尼崎市ＰＴＡ連合会・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・７０
＜奈良県＞
奈良県立奈良高等学校・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・７１
＜和歌山県＞
串本古座高等学校地域協議会・・・・・・・・・・・・・・・・・・７２
＜岡山県＞
赤磐市立高陽中学校・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・７３
岡山県立玉野高等学校・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・７４
岡山県立誕生寺支援学校・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・７５
＜広島県＞
庄原市立西城中学校・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・７６
広島県立芦品まなび学園高等学校・・・・・・・・・・・・・・７７
広島県立黒瀬特別支援学校・・・・・・・・・・・・・・・・・・７８
＜山口県＞
岩国市立玖珂小学校・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・７９
山口市立阿東中学校・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・８１
山口県立柳井商工高等学校・・・・・・・・・・・・・・・・・・８２
＜徳島県＞
東みよし町立昼間小学校・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・８４
＜香川県＞
三豊市・三豊市観音寺市学校組合 教育委員会・・８５
＜愛媛県＞
愛媛県教育委員会・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・８６
松山市立久谷中学校・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・８７
愛媛県立野村高等学校・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・８８
愛媛県立新居浜特別支援学校・・・・・・・・・・・・・・・・・８９
＜高知県＞
高知県立窪川高等学校・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・９０
＜福岡県＞
小中一貫校　東峰学園・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・９１
福岡県立糸島高等学校ＰＴＡ・・・・・・・・・・・・・・・・・９３
＜佐賀県＞
唐津市立竹木場小学校・高峰中学校・・・・・・・・・・・９４
佐賀県立唐津商業高等学校・・・・・・・・・・・・・・・・・・９６
＜長崎県＞
長崎市立長崎中学校・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・９７
長崎県立佐世保商業高等学校・・・・・・・・・・・・・・・・・９８
長崎県立島原農業高等学校・・・・・・・・・・・・・・・・・・・９９
＜熊本県＞
和水町立三加和中学校・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１００
氷川町立竜北東小学校・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１０１
＜宮崎県＞
椎葉村教育委員会・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１０３
宮崎県立宮崎商業高等学校・・・・・・・・・・・・・・・・・・１０４
＜鹿児島県＞
霧島市教育委員会・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１０５
鹿児島市立西紫原中学校・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１０６
南さつま市立坊津学園・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１０７
曽於市立光神小学校・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１０８
＜沖縄県＞
多良間村教育委員会・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１０９
那覇市立真嘉比小学校・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１１１
沖縄県立具志川商業高等学校・・・・・・・・・・・・・・・・・１１２
＜仙台市＞
仙台市立湯元小学校・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１１３
仙台市立住吉台小学校・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１１４
街道市（生き生き中山っ子教室）・・・・・・・・・・・・１１５
＜さいたま市＞
さいたま市立第二東中学校・・・・・・・・・・・・・・・・・・１１６
＜川崎市＞
川崎市立上丸子小学校・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１１７
川崎市立橘高等学校（全日制）・・・・・・・・・・・・・・１１８
＜相模原市＞
相模原市立鳥屋学園・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１１９
＜浜松市＞
浜松市立広沢小学校・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１２０
庄内学園（浜松市立庄内中学校、浜松市立庄内小学校）
・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１２２
＜大阪市＞
大阪市立弘済小中学校（本校・分校）・・・・・・・１２３
＜神戸市＞
神戸市立科学技術高等学校・・・・・・・・・・・・・・・・・・１２４